

ユーザーズマニュアル

オフィスシリーズ Type-NZ • User's Manual

T オフィスシリーズ
Type-NZ

本機を使用開始するまでの手順を説明しています。
必ずお読みください。
標準装備されている装置や機能と、
取り付け可能な装置について説明しています。
添付されているソフトウェアの使用方法や
インストール方法について説明しています。



ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

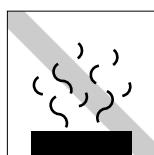
その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

△警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

△注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

△警告

煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。

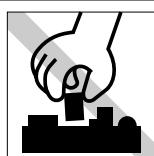


感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

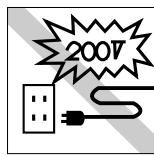
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。

マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。



けがや感電・火災の原因となります。

電源は、交流100V以外では使用しないでください。



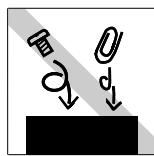
交流100V以外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。



感電の原因となります。

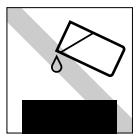
通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。感電・火災の原因となります。



!**警告**

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。

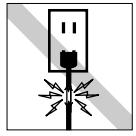
感電・火災の原因となります。



すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

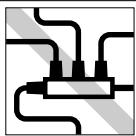


- ・ 電源コードを加工しない。
- ・ 無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったりしない。
- ・ 電源コードの上に重いものを載せない。
- ・ 熱器具の近くに配線しない。

電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

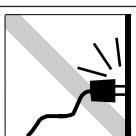
電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。



家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。

電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。



取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。

本体や付属のバッテリパック類を火中に入れたり、加熱しないでください。



破裂などが火傷の原因となります。

バッテリパックの端子をショートさせないでください。



火傷の原因となります。

付属のACアダプタやバッテリパックを分解しないでください。



火傷や、化学物質による被害の原因となります。

小さなお子さまの手の届く場所にバッテリパックを保管しないでください。なめたりすると火傷や、化学物質による被害の原因となります。



電源コンセントに電源プラグを接続、あるいはバッテリパックを装着したまま分解しないでください。感電や火傷の原因となります。



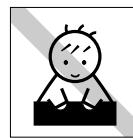
雷が鳴りだしたら、電源プラグをさわらないでください。



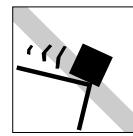
感電の原因となります。

⚠ 注意

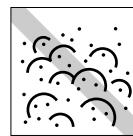
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



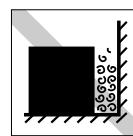
不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



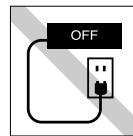
湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。



本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
設置する際は、次の点を守ってください。
・ 押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。
・ じゅうたんや布団の上に設置しない。
・ 毛布やテーブルクロスのような布をかけない。



連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。



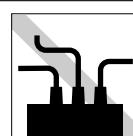
各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。
配線を誤ると、火災の危険があります。



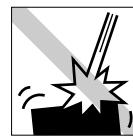
FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。
・ 構内交換機（PBX）
・ 2線式でない回線（ホームテレホンやビジネスホンなど）
・ ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック



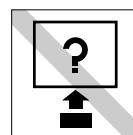
本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



バッテリパックは、落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。
火傷や、化学物質による被害の原因となります。



ACアダプタやバッテリパックは、本製品以外には使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。

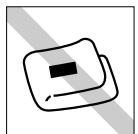


⚠ 注意

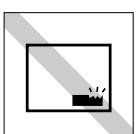
ACアダプタ温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。
低温火傷の原因になります。



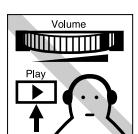
ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。
火傷・火災の危険があります。



破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。
火傷・火災の危険があります。



ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの原因となるおそれがあります。



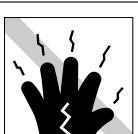
バッテリパックやメモリの交換などは、本製品の内部が高温になっている状態で行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。



液晶ディスプレイが破損して、内部の液体が漏れた場合は、液体をなめたり、触ったりしないでください。

火傷や化学物質による被害の原因となります。

万一、液体が皮膚に付着したり、目に入った場合は、流水で充分に洗い、医師に相談してください。



ひざの上で使用しないでください。通風孔がふさがることにより、本体底面が熱くなり、低温火傷の危険があります。



(4)

コンピュータが届いたら

本機を使い始めるまでの準備や、電源の入れ方/切り方などについて説明します。

使ってみましょう

本機の各部の名称や使い方について説明します。

システムを拡張する

メモリモジュールの増設方法やコンピュータに接続できる機器について説明します。

BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

こんなときは

困ったときの確認事項や対処方法について説明します。

付録

お手入れ方法や仕様などについて説明します。

目 次

マニュアル中の表記について	(10)	Windows使用時の確認事項	27
製品保護上の注意	(13)	2回目以降に電源を入れる	27
使用・保管時の注意	(13)	音量の調節	28
記録メディア	(14)	省電力機能	28
コンピュータが届いたら			
ご使用の前に	2	デバイスドライバをインストールするときは	28
コンピュータを使い始めるまでの手順	2	メールユーティリティのインストールについて	29
ご使用の前の確認事項	3	B's CLiPのインストールについて	29
本機の特長	4	ステップバイステップインラクティブ の実行について(Windows XP)	29
添付されているソフトウェア	5		
各部の名称と働き	7	電源の切り方	30
前面	7	Windows 2000の終了と電源の切り方	30
左側面	9	Windows XPの終了と電源の切り方	31
右側面	10	リセット	31
底面	11		
背面	11		
ハードウェアをセットアップしましょう	12		
電源の入れ方とWindowsのセットアップ	17	使ってみましょう	
Windowsを使用できるようになるまでの作業	17	ACアダプタ/バッテリパックを使う	34
電源を入れる前に	18	バッテリパックを使う	35
電源の入れ方とWindowsの起動	19	バッテリ残量の確認	36
Windowsのセットアップ	20	バッテリ残量が少なくなったら	37
セットアップ終了後の作業	24	バッテリの充電	39
バックアップディスクの作成	24	バッテリ残量が正しく 表示されないときは	40
ネットワークに接続する	26	バッテリの交換	41
FAXモデムの設定	26	バッテリ保管上の注意	43
Norton AntiVirus2002のインストール	26	使用済みバッテリの取り扱い	43
		タッチパッドを使う	44
		タッチパッドの操作	44
		タッチパッドユーティリティを使う	46
		マウスの接続	47
		キーボードを使う	48
		キーの種類と役割	48
		文字を入力するには	49
		日本語を入力するには	49

Fnキーと組み合わせて使うキー	51	表示装置を使う	77
Windowsキー	51	LCDユニット	77
インスタントキー	52	外付けディスプレイ	79
外付けキーボードの接続	52	外付けディスプレイに表示するには ..	80
FDD (フロッピーディスクドライブ) を使う	53	テレビ	83
FDのセットと取り出し	54	解像度や表示色を変更する	84
コンピュータ持ち運び時の注意	54	解像度や表示色を変更するには ..	84
FDのフォーマット	55	表示できる解像度と表示色	85
データのバックアップ	56	サウンド機能を使う	87
ライトプロテクト (書き込み禁止) ..	56	音楽CD再生機能	89
HDD (ハードディスクドライブ) を使う	57	FAXモデムを使う	90
データのバックアップ	57	お使いになる前に	90
購入時のHDD領域について	57	インターネットに接続するには	92
CD-ROM ドライブを使う	58	ダイヤルするための準備	95
メディアのセットと取り出し	58	手動でダイヤルアップ接続の設定をする ...	95
強制的なメディアの取り出し	60	回線接続前の設定(Windows XP) ...	100
CD-R/RW ドライブを使う	61	Internet Explorerと	
メディアのセットと取り出し	62	Outlook Expressの使い方	102
メディア書き込み時の注意	62	起動方法	102
適応フォーマット	63	終了方法	104
コンポドライブ		Internet Explorerの使い方	105
(CD-R/RW&DVD-ROM ドライブ) を使う	64	Outlook Expressの使い方	106
CD-ROM ドライブ機能を使う	64	省電力機能を使う	110
CD-R/RW ドライブ機能を使う	64	省電力機能の種類	111
DVD-ROM ドライブ機能を使う	66	実行方法	113
メディアのセットと取り出し	67	復帰方法	115
PCカードを使う	68	AMD PowerNow!™テクノロジ	116
PCカードのセットと取り外し	69	コンピュータウィルスの検索・駆除	118
赤外線通信を使う	73	コンピュータウィルスとは	118
通信モードの設定	73	ウィルスの被害に遭わないために	118
赤外線デバイスの設定	74		
赤外線通信の実行	75		

インストールする前に	119	Securityメニュー画面	145
Norton AntiVirus2002の		Powerメニュー画面	147
インストールとセットアップ	120	Bootメニュー画面	148
Norton AntiVirus2002の使い方	122	Exitメニュー画面	148
Norton AntiVirus2002使用時の注意 ...	123	BIOS Setupユーティリティの設定値	149
そのほかの機能	124	ソフトウェアの再インストール	
ネットワーク機能	124	再インストールする前に必ずお読みください 152	
パラレルコネクタ	124	再インストールが必要な場合	152
シリアルコネクタ	125	重要事項	152
USBコネクタ	125	ソフトウェアの再インストールを行う 153	
IEEE1394コネクタ	126	必要なメディア	153
ビデオ編集をする	126	インストールの順番	154
システムを拡張する			
拡張できる装置	128	インストール作業における確認事項... ..	155
メモリモジュールの増設 129			
作業時の注意	129	Windowsのインストール	157
SODIMMの増設	130	デバイスドライバのインストール	164
外付け可能な周辺機器	134	LCDの設定	165
BIOSの設定			
BIOSの設定を始める前に	136	Adobe Acrobat Readerのインストール	168
BIOS Setupユーティリティの操作 137			
「BIOS Setupユーティリティ」の起動 ..	137	Norton AntiVirus2002のインストール	168
「BIOS Setupユーティリティ」の操作 ..	138	そのほかの作業	169
設定値をもとに戻すには ..	140	こんなときは	
「BIOS Setupユーティリティ」の終了 ..	141	困ったときに 174	
BIOS Setupユーティリティの設定項目 142			
Mainメニュー画面	142	コンピュータ本体の不具合	174
Advancedメニュー画面	144	省電力機能に関する不具合	177
		バッテリパック使用時の不具合	178
		キーボードの不具合	179
		タッチパッドの不具合	179
		LCDの不具合	180
		FDDの不具合	182
		HDDの不具合	183
		CD-ROMドライブの不具合	184
		CD-R/RWドライブの不具合	185
		コンボドライブの不具合	186
		アプリケーションソフトの不具合	187

メモリの不具合	188
PCカードの不具合	188
インストール時の不具合	189
FAXモデムの不具合	189
プリンタの不具合	192
内蔵スピーカの不具合	192
警告メッセージが表示されたら	193

付録

お手入れ	196
本機のお手入れ	196
リチウム電池の交換	197
ATコマンドの使用	198
機能仕様一覧	199
用語集	200
索引	206

マニュアル中の表記について

本書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限

制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載しています。



参考

参考事項です。

覚えておくと便利なことを記載しています。



説明文が次ページに続くことを示します。



参照ページを示します。

1 2

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。

Ctrl

で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、キーの表示は必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。例えば は のことです。

Ctrl + Z

+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。

この例では、Ctrlを押したまま Zを押します。

名称の表記

本書では、コンピュータに関連する製品の名称を次のように表記します。

HDD

ハードディスクドライブ

FD

フロッピーディスク

FDD

フロッピーディスクドライブ

薄型ドライブ

CD-ROMドライブ CD-R/RWドライブ

コンボドライブ(CD-R/RW&DVD-ROMドライブ)

オペレーティングシステムに関する記述

本書では、オペレーティングシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Professional

MS-DOS

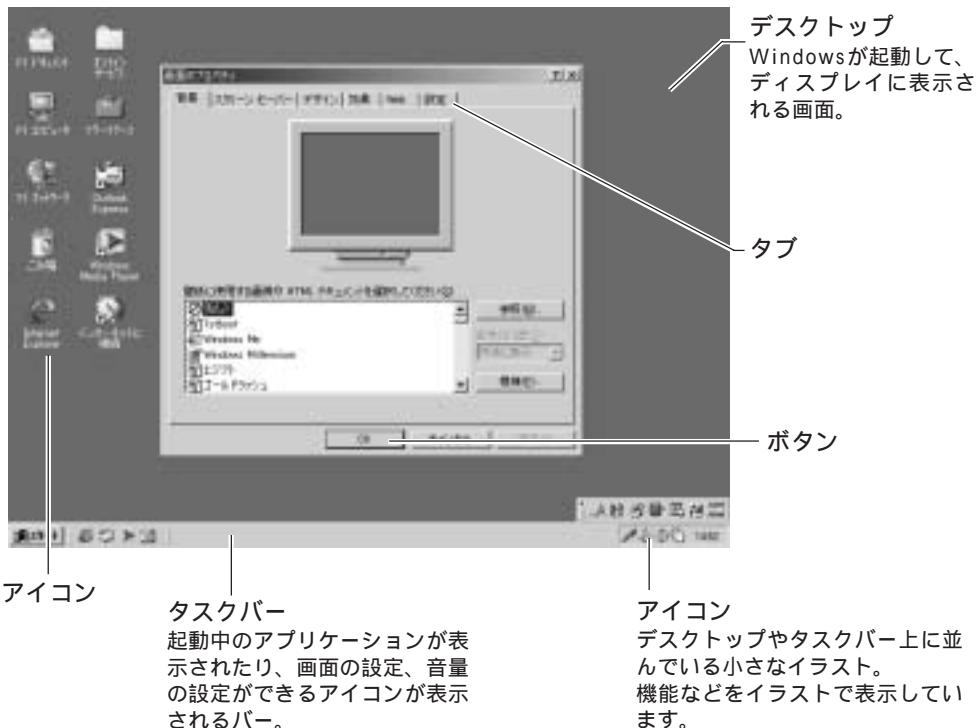
Microsoft® Windows® XP Home Edition

Microsoft® MS-DOS® Operating System

Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows 2000)

本書では、Windows画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。

マニュアル中で採用している画面は、主にWindows XPのものです。Windows 2000で表示される画面とデザインが異なりますが、基本的な機能は同じです。



例 **[スタート] : [スタート] [OK] : [OK]**

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「設定」 - 「コントロールパネル」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート]をクリックします。

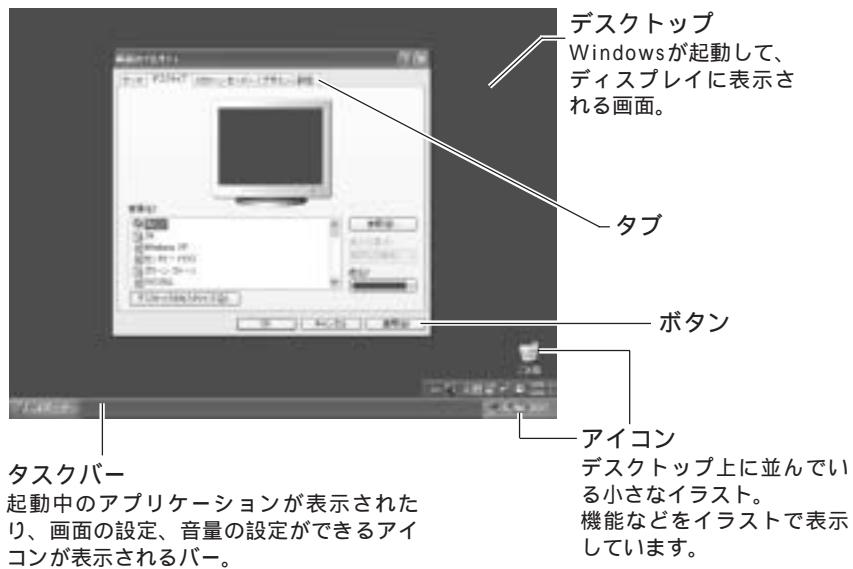
② 表示されたメニューから「設定」をクリックします。

③ 横に表示されるサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。



Windowsの画面表示に関する記載方法(Windows XP)

本書では、Windows XP画面に表示される各箇所の名称を次のように記載します。



ボタンは [] で囲んで記載します。

例 [スタート] : [スタート] [OK] : [OK]

Windowsの画面操作に関する記載方法

本書では、Windows画面上で行う操作手順を次のように記載します。

記載例 : [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Internet Explorer」をクリックします。

実際の操作 : ① [スタート] をクリックします。

② 表示されたメニューから「すべてのプログラム」をクリックします。

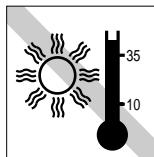
③ 横に表示されるサブメニューから「Internet Explorer」をクリックします。



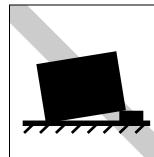
製品保護上の注意

使用・保管時の注意

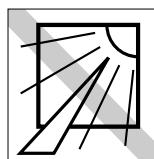
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱ってください。



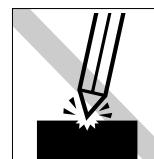
温度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ~ 35 です。



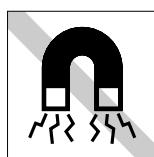
不安定な所には設置しないでください。
落下したり、振動したり、倒れたりすると、コンピュータが壊れ、故障することがあります。



直射日光の当たる所や、発熱器具(暖房器具や調理用器具など)の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



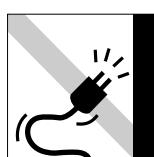
LCD画面の表面を先のとがったもので引っかけたり、無理な力を加えたりしないでください。
LCD画面の表面はアクリル製ですので、キズが付いたり、割れたりすることがあります。



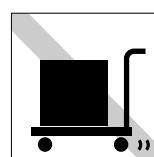
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するもの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、FDなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



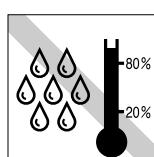
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



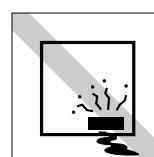
電源コードが抜けやすい所(コードに足が引っかかりやすい所や、コードの長さがぎりぎりの所など)にコンピュータを置かないでください。バッテリパックの状態により、電源コードが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えることがあります。



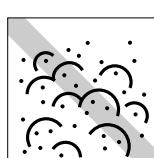
遠隔地に輸送するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



湿度が高すぎる所や、低すぎる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。適切な湿度の目安は20% ~ 80%です。



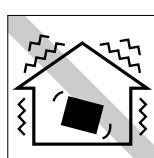
本製品を長期間使わないときは、バッテリパックを本機にセットしたままにしないでください。
液もれを起こすことがあります。



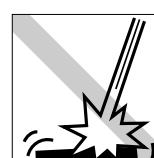
ホコリの多い所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



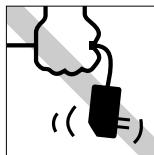
本製品の上に重い物を載せたり、カバーを強く押え付けないでください。
LCDやバックライトが破損したり、表示異常となることがあります。



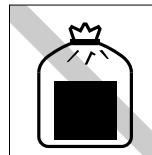
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



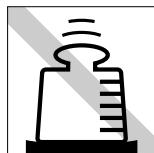
本製品を落としたり、ぶつけるなど、ショックを与えないでください。持ち運ぶときは、バッグに入れるなどしてショックから守るようにしてください。



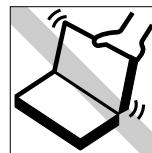
ACアダプタはケーブルを持って抜き差ししないでください。
ケーブルの断線や接触不良の原因となります。



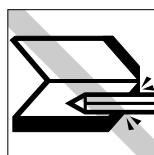
コンピュータ・パッテリパックは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



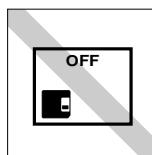
ACアダプタの上に乗ったり、踏みつけたり、重い物を載せるなどして、ケーブルを破壊しないでください。



本製品のLCDユニット(液晶ディスプレイ部分)を開けた状態で、LCDユニット部分を持って移動しないでください。



キーボードの上などに、物(ボールペンその他)を挟んだまま、カバー(液晶ディスプレイ)を閉じないでください。



本製品を持ち運ぶときはFDを抜いてください。FDDイジェクトボタンに無理な力がかかり破損の原因になります。

記録メディア

以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破損するおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

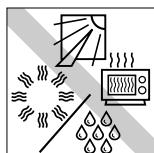
FD

FD

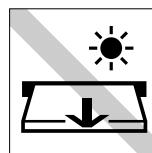
CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROMなど

CD

記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



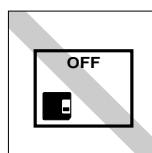
直射日光が当たる所、暖房器具の近くなど、高温・多湿となる場所には置かないでください。



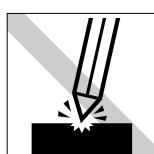
アクセスランプ点灯・点滅中は、記録メディアを取り出したり、コンピュータの電源を押したり、リセットをしないでください。



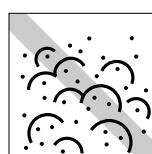
上に物を載せないでください。



使用後は、コンピュータにセットしたままにしたり、裸のまま放置したりしないでください。
専用のケースに入れて保管してください。



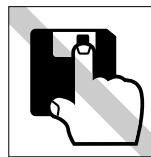
傷を付けないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。



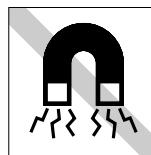
クリップではさむ、折り曲げるなど、無理な力をかけないでください。



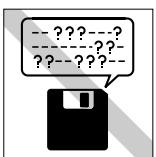
アクセスカバーを開けたり、磁性面に触れたりしないでください。FD



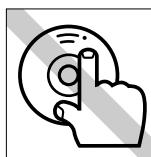
磁性面にホコリや水を付けないでください。
シンナーやアルコールなどの溶剤類を近づけないでください。FD



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものに近づけないでください。FD



何度も読み書きしたFDは使わないでください。
磨耗したFDを使うと、読み書きでエラーが生じことがあります。FD



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。CD



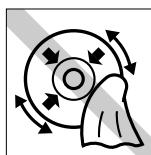
レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。CD



信号面(文字などが印刷されていない面)に文字などを書き込まないで下さい。CD



薄型ドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。CD



レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。CD



シールを貼らないでください。CD

(16)



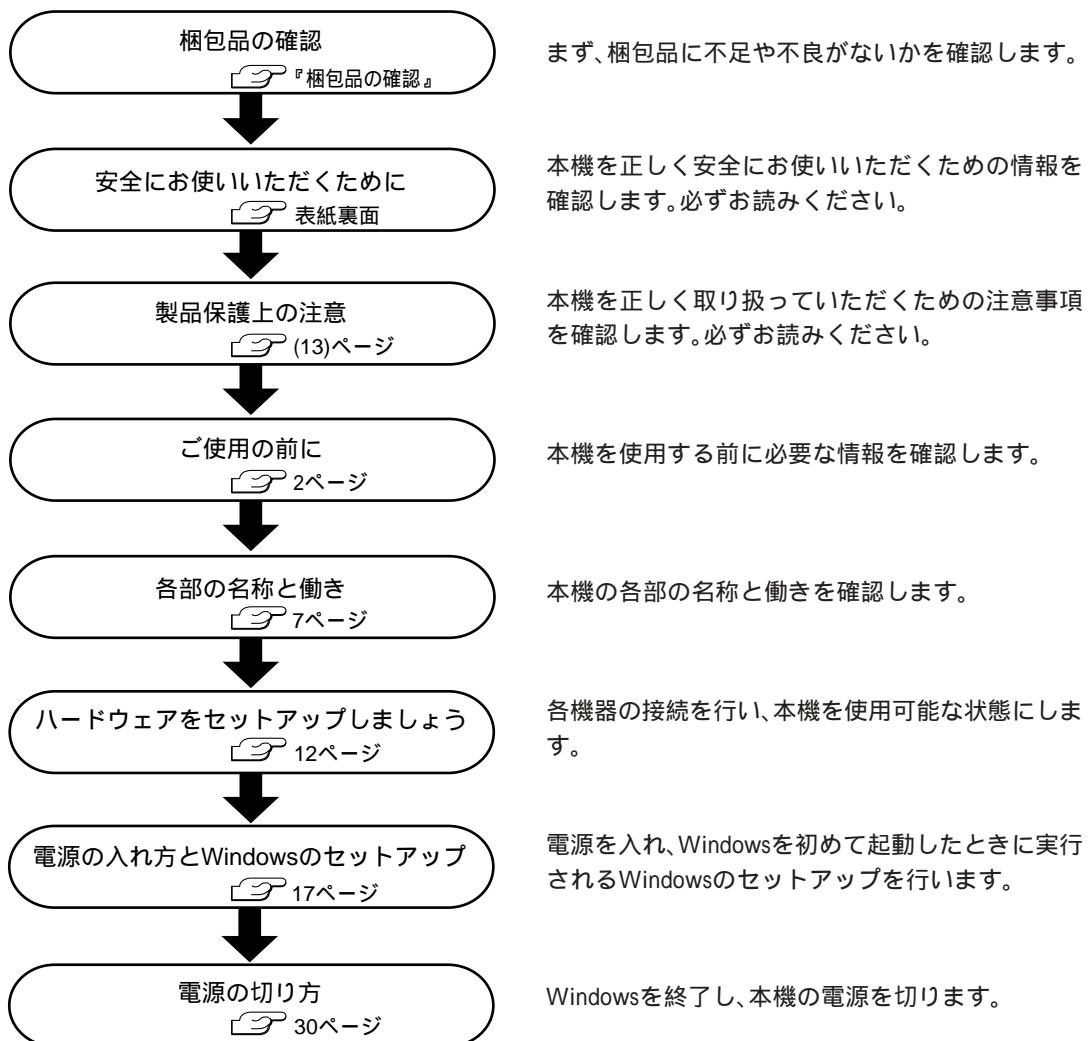
コンピュータが 届いたら

本機を使い始めるまでの準備や、電源の
入れ方/切り方などについて説明してい
ます。

ご使用の前に

コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。



ご使用の前の確認事項

本機の次の場所には、製品情報が記載されたラベルが貼られています。本機をご使用の前に、ラベルが貼られていることを確認してください。また、ラベルは絶対にはがさないでください。

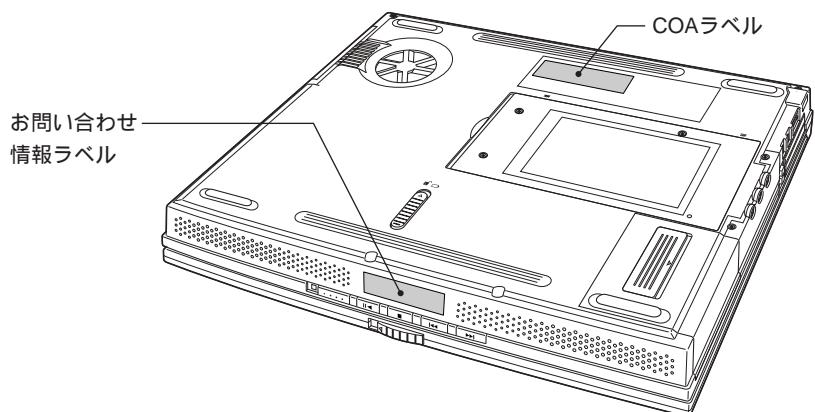
お問い合わせ情報ラベル

お問い合わせ情報ラベルには、型番や製造番号などが記載されています。弊社へサポート・サービスに関するお問い合わせをいただく際には、これらの番号が必要です。

製品のサポート・サービスについては、『サポート・サービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

COAラベル

「COAラベル(Windows Certificate of Authenticityラベル)」は、正規のWindows商品を購入されたことを証明するラベルです。絶対にはがさないでください。万一COAラベルを紛失された場合、再発行はできません。



本機の特長

メモリ容量

SODIMMを増設して、最大1GBまで拡張が可能です。

電源

ACアダプタ、またはバッテリパックを使用します。

PCカードスロット

PC Card Standard準拠CardBus対応のPCカードスロットを2本装備しています。Type IIを2枚またはType IIIを1枚装着できます。

CPU性能

モバイル AMD Athlon XPプロセッサを搭載しています。

表示装置

14.1型TFT XGAフルカラー液晶ディスプレイを搭載しています。外付けディスプレイやテレビも接続できます。

HDD

IDE対応HDDを内蔵しています。

FDD

3.5型FDDを内蔵しています。

ポインティングデバイス
タッチパッドを搭載しています。人差し指1本でマウスと同じ操作ができます。

薄型ドライブ

CD-ROM ドライブ、CD-R/RW ドライブまたはコンボドライブを内蔵しています。

オペレーションシステム

Windows 2000またはWindows XPをインストール済みです。

そのほか

- ・高速赤外線通信ポートを装備しています。
- ・サウンド機能を搭載しています。
- ・モデム機能を搭載しています。
- ・ネットワーク機能を搭載しています。
- ・IEEE1394機能を搭載しています。

添付されているソフトウェア

本機に標準で添付されているソフトウェアは、次のとおりです。購入時のシステム構成によってはこのほかにも添付されているソフトウェアがあります。

表中記号の見方



：購入時には、HDDにインストールされています。



：購入時には、インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

リカバリCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
Windows Windowsは、最新のものがインストールされています。		

ドライバCDに登録されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
ディスプレイドライバ Windowsを高解像度・多色で表示するためのドライバです。		
サウンドドライバ 音を鳴らしたり、録音するためのドライバです。		
ネットワークドライバ ネットワーク機能を使用するためのドライバです。		
FAXモデムドライバ FAXモデム機能を使用するためのドライバです。		
AGPドライバ AGPを使用するためのドライバです。		
タッチパッドドライバ タッチパッドを使用するためのデバイスドライバです。		
インスタントキードライバ [Fn]キーと組み合わせて機能キーや、インスタントキーを使用するためのドライバです。		
メールユーティリティ メールLEDを機能させるためのユーティリティです。		
AMD PowerNow! ドライバ CPU速度を調整して消費電力を抑えるためのドライバです。		
Norton AntiVirus2002 最新マクロウィルスに対応し、ウィルス駆除もできる高機能なウィルス対策プログラムです。		
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類をそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。		

Windows XPが標準で機能を持っています。

専用のCDが添付されているソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
B's Recorder GOLD(CD-R/RW ドライブ搭載モデル/コンボドライブ搭載モデル) ドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。データ、音楽、画像などへの書き込みや、メディアのコピーもできます。 CD名:「 B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM 」		
B's CLiP(CD-R/RW ドライブ搭載モデル/コンボドライブ搭載モデル) ドライブの書き込み機能を使用するためのソフトウェアです。FDDのように、ドラッグ & ドロップするだけでファイルやフォルダをメディアへコピーできます。 CD名:「 B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM 」		
WinDVD(コンボドライブ搭載モデル) DVD VIDEO再生のためのソフトウェアです。 CD名:「 WinDVD CD-ROM 」		
Syphomovie ビデオ編集のためのソフトウェアです。 CD名:「 Syphomovie CD-ROM 」		

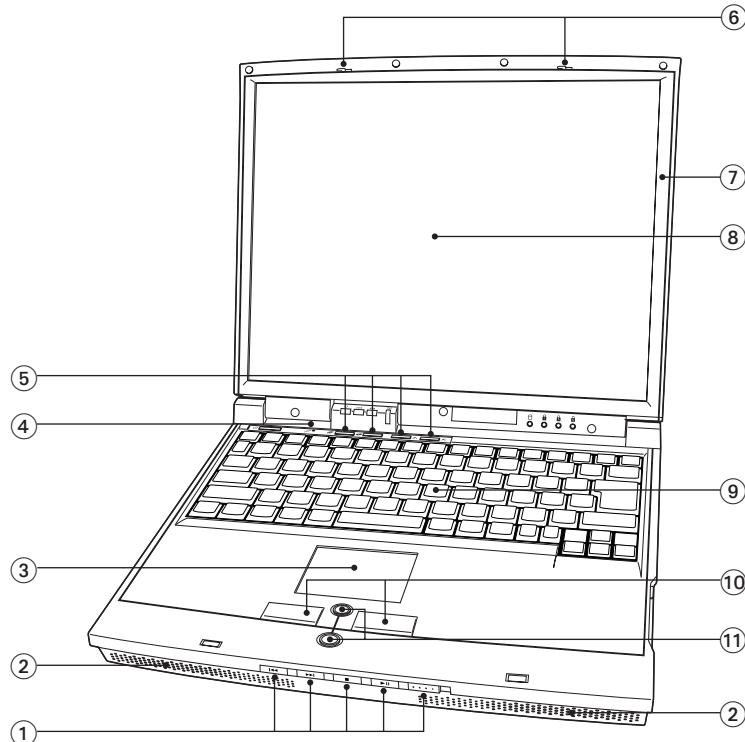
バックアップディスクを作成するソフトウェア

ソフトウェア	Windows 2000 インストールモデル	Windows XP インストールモデル
マニュアル(PDF ファイル) 「 ユーザーズマニュアルファイル (本書) が、コンピュータ画面上でいつでも見られるように PDF 化されています。 」		

購入時のシステム構成によっては、上記以外のソフトウェアのバックアップディスクを作成する場合があります。

各部の名称と働き

前面



① 音楽CD再生キー

「音楽CD再生機能」使用時に操作します。

② 内蔵ステレオスピーカ

警告音や音声などを鳴らします。

③ タッチパッド

指を軽く乗せて操作することにより、画面上のポイントを操作します。

④ 内蔵マイク

音声を本機に取り込むときに使用します。

⑤ インスタントキー

「Internet Explorer」を起動するなど、特定の機能を実行します。

⑥ LCDラッチ

LCDユニットを閉じたときに固定します。

⑦ LCDユニット

LCD画面やLCDラッチを含めた画面部分の総称です。

⑧ LCD画面

入力した文字や作業内容を表示します。

⑨ キーボード

文字の入力やアプリケーションの操作などを行います。

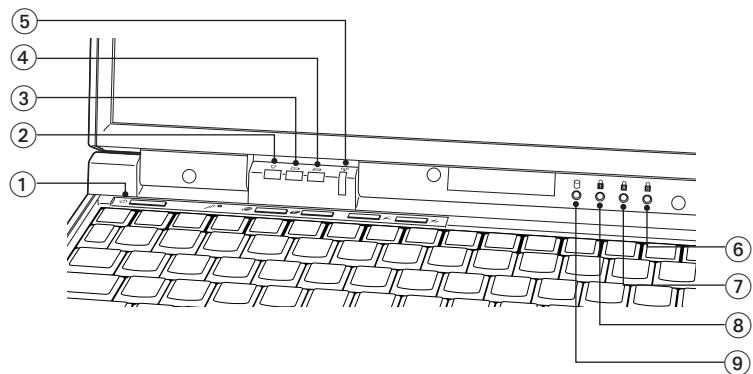
⑩ クリックボタン

マウスの左右ボタンに相当します。

⑪ スクロールボタン

「画面をスクロールさせる」など、特定の機能を実行します。

電源スイッチ
ステータスLED



① 電源スイッチ

コンピュータの電源の入/切を行います。また、スタンバイモードや休止状態からの復帰に使用することができます。

② 電源LED

電源状態を示します。

緑点灯	通常モードおよびHDD/ディスプレイ電源切断時
緑点滅	スタンバイモード
消 灯	電源切断時および休止状態

③ バッテリ充電LED

バッテリの充電状態を示します。

橙点滅	充電が必要な状態
橙点灯	充電中
消 灯	満充電状態

④ メールLED

「Outlook」または「Outlook Express」使用時に未開封メールがあると点灯します。使用するにはメールユーティリティのインストールが必要です。

⑤ 使用しません。

⑥ Scroll Lock LED

Scroll Lockキーの設定状態を表示します。

⑦ Caps Lock LED

Caps Lockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、[Shift]キーを押さずにアルファベットの大文字を入力することができます。

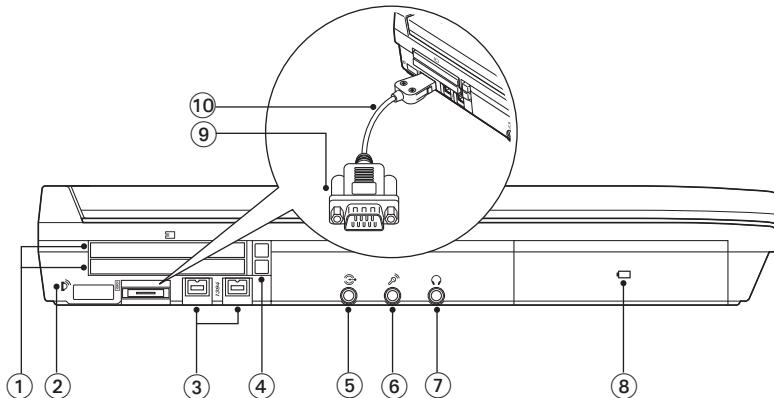
⑧ NumLock LED

NumLockキーの設定状態を表示します。緑色に点灯しているときは、数値キーモードに設定されています。

⑨ アクセスLED

HDDアクセス中に緑色に点灯します。

左側面



① PCカードスロット

PC Card Standard規格準拠のPCカードをセットして使用します。

② 赤外線ポート

赤外線通信を行うときに赤外線の送受信を行います。

③ IEEE1394コネクタ

IEEE1394機器を接続します(4ピン)。

④ PCカードイジェクトボタン

PCカードを取り出すときに押します。

⑤ ライン入力コネクタ

カセットデッキなどのオーディオ機器のライン出力端子と接続します。

⑥ マイク入力コネクタ

マイクを接続します。

⑦ ヘッドフォン出力コネクタ

ヘッドフォンやスピーカを接続します。

⑧ バッテリパック

バッテリパックが装着されています。

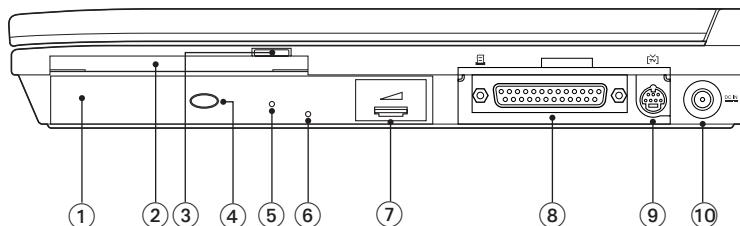
⑨シリアルコネクタ

モデムなどRS-232Cインターフェースに対応した装置を接続します。

⑩ 変換ケーブル

シリアルコネクタを使用するときに装着します。

右側面



① 薄型ドライブ

CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブまたはコンボドライブが内蔵されています。

② 3.5型FDD

3.5型FDの読み出し、書き込みを行います。

③ FDDイジェクトボタン

FDDにセットしたFDを取り出すときに押します。

④ イジェクトボタン

ディスクトレイを開けるときに押します。

⑤ アクセスランプ

メディアへのアクセス中に点灯・点滅します。

⑥ イジェクトホール

ディスクトレイが開かなくなつたときに押します。

⑦ ボリューム調節ダイヤル

スピーカの音量を調節します。

⑧ パラレルコネクタ

プリンタやスキャナなどパラレルインターフェースに対応した装置を接続します。

⑨ ビデオ出力ジャック

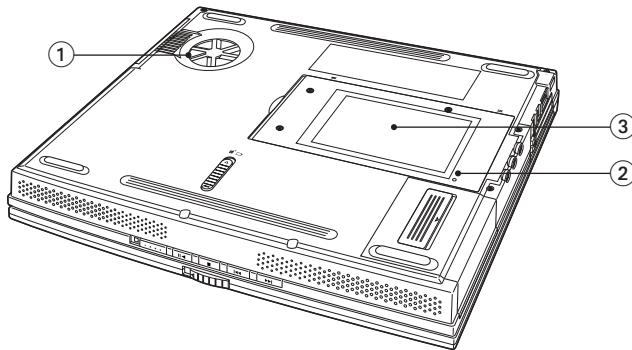
テレビのS端子と接続します。

⑩ ACアダプタコネクタ

付属のACアダプタを接続します。

④⑤⑥の位置は、お使いのモデルによって異なります。

底面



① 通風孔

本機内部で発生する熱を逃します。

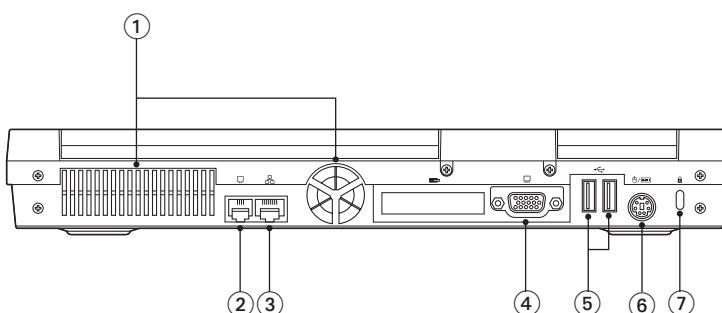
② リセットホール ▷◁

コンピュータのリセットを行います。

③ メモリスロット

メモリスロットカバーを開け、メモリを増設することができます。

背面



① 通風孔

本機内部で発生する熱を逃します。

② モデムコネクタ

電話回線と接続します。

③ LANコネクタ

ネットワークを接続します。

④ VGAコネクタ

CRTディスプレイなど外付けディスプレイを接続します。

⑤ USBコネクタ

USB対応機器を接続します。

⑥ キーボード/マウスコネクタ

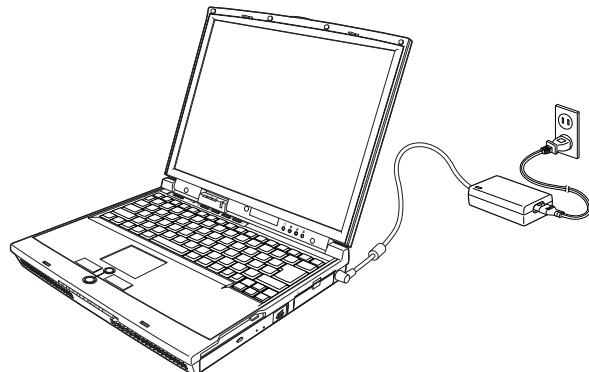
PS/2の外付けキーボードやマウスを接続します。

⑦ セキュリティロックスロット

市販の盗難防止用ケーブル(ワイヤー)を接続します。
(ケンジントン社製セキュリティロックに対応しています。)

ハードウェアをセットアップしましょう

本機を、基本的なシステム構成でセットアップする手順を説明します。プリンタなどの周辺機器を接続する場合はWindowsのセットアップ終了後に、周辺機器のマニュアルを参照して、接続とセットアップを行ってください。



設置における注意



注意

本機をひざの上に置いて使用しないでください。本機底面の通風孔がふさがることで内部に熱がこもり、熱による火傷の危険があります。

不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがをする危険があります。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。設置する際は、次の点を守ってください。

- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところに設置しない。
- ・絨毯や布団の上に設置しない。
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

各種コードやバッテリパック装着時の注意



警告

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグは、ホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグは、刃の先まで確実に差し込む。



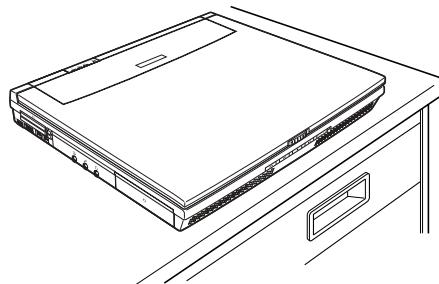
注意

各コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設置する

1

本機の設置場所(丈夫で水平な机の上など)を確保します。

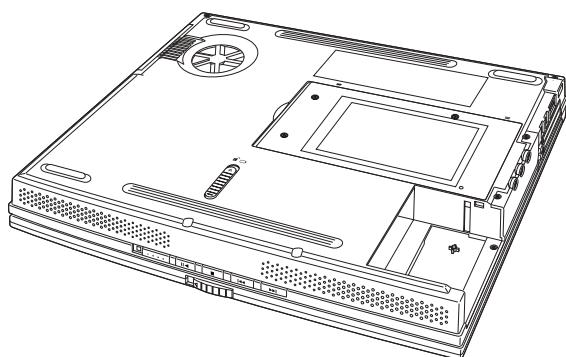


バッテリパックを装着する

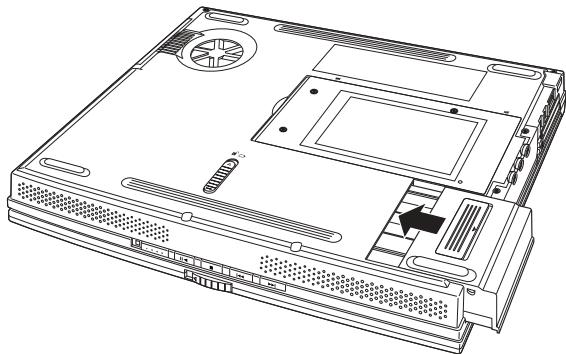
2

バッテリパックを装着します。

① 本機の底面部を上にして置きます。



- ② カチッと音がするまで、バッテリパックを押し込みます。バッテリパックが固定されます。



本機はバッテリパックだけで使用できます。ただし、購入時にバッテリパックは満充電状態ではありません。バッテリパックだけで使用する場合は、使用前に充電が必要です。

☞ p.34「ACアダプタ/バッテリパックを使う」

電話回線へ接続する

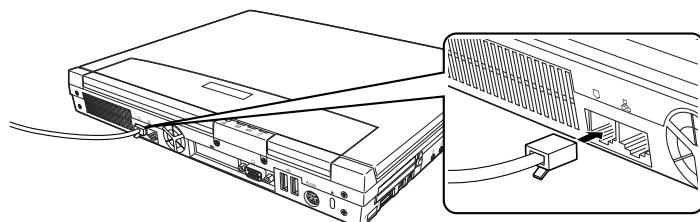


注意

FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- ・構内交換機(PBX)
- ・2線式でない回線(ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

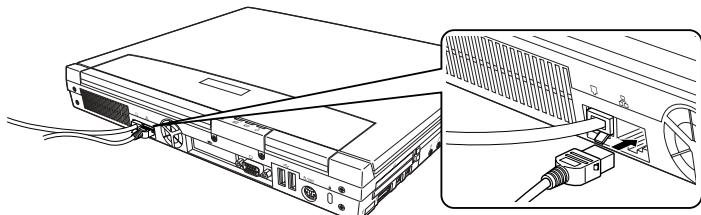
- 3 FAXモデム機能を使用する場合は、屋内配線のモジュラコネクタと本機背面のモデムコネクタを付属のモジュラケーブルで接続します。



ネットワークへ接続する

- 4 ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークケーブルを本機背面のLANコネクタに接続します。

ネットワークの詳細は、ネットワーク管理者に確認してください。

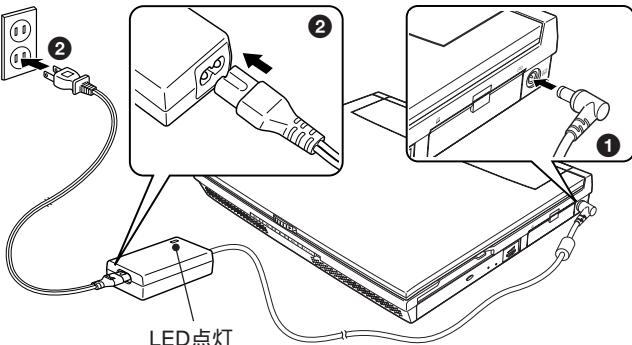


ACアダプタを接続する

本機を持ち運ぶ必要がない場合は、通常ACアダプタを接続して使用します。

- 5 ACアダプタを本機と家庭用電源コンセントに接続します。

- ① ACアダプタのプラグ部を本機右側面のACアダプタコネクタ(DC IN)に接続します。
- ② 電源コードをACアダプタと家庭用電源コンセントに接続します。ACアダプタのLEDが点灯します。



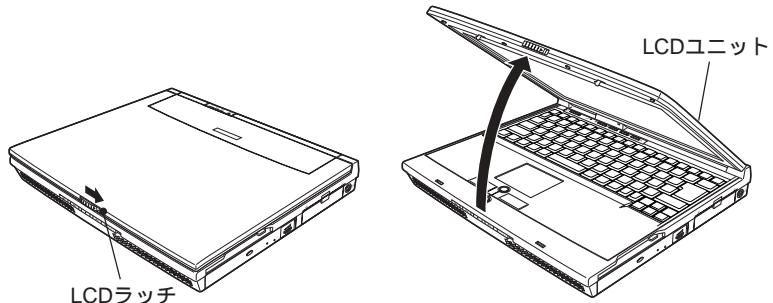
制限

ACアダプタを接続して本機を使用するときも、必ずバッテリパックを装着してください。

LCDユニットを開ける

- 6 前面のLCDラッチを矢印方向にスライドさせて、LCDユニットを開けます。

LCDユニットは、見やすい角度に調節してください。



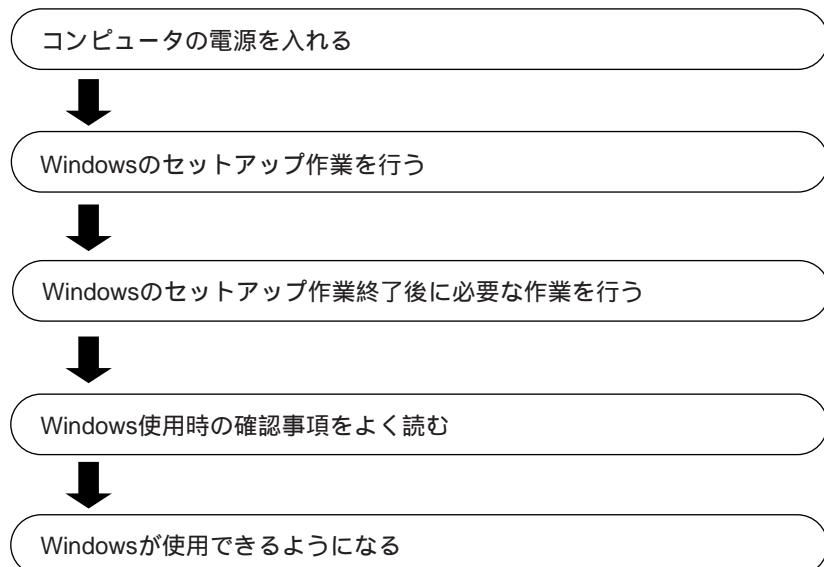
これでハードウェアのセットアップは終了です。続いてWindowsのセットアップを行います。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ

本章では、電源の入れ方と購入後に初めて電源を入れたときに行うWindowsのセットアップについて説明します。

Windowsを使用できるようになるまでの作業

作業の流れは、次のとおりです。次ページからの手順に従って作業を行ってください。



電源を入れる前に

Windowsの
セットアップとは

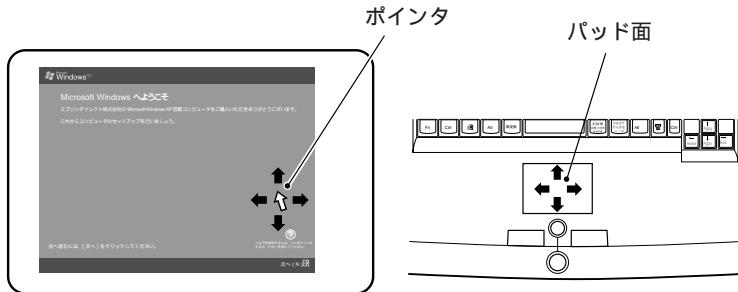
「Windowsのセットアップ」は、コンピュータが届いてから、初めて電源を入れたときにユーザー情報などを設定するプログラムです。画面に表示されるメッセージに従って簡単に行うことができます。

タッチパッドの
使い方

「Windowsのセットアップ」は、タッチパッドの操作で行います。セットアップで必要なタッチパッドの基本操作は、次のとおりです。

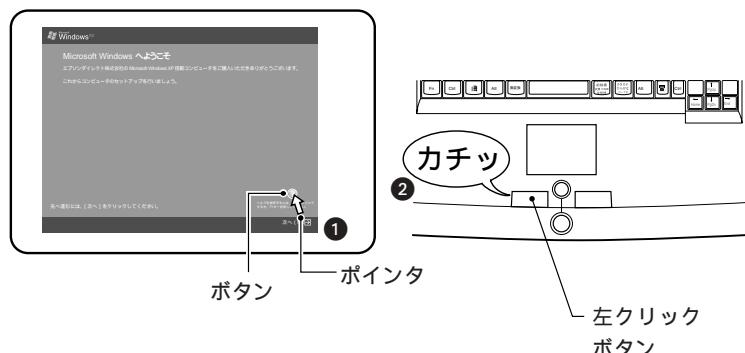
ポインタを動かす

人差し指をタッチパッドのパッド面に触れたまま前後左右に動かすと、Windows画面に表示されているポインタも人差し指と同じ動きをします。



ボタンをクリックする

- ① 人差し指を動かして、ポインタを画面のボタンの上に重ねます。
- ② 左クリックボタンを1回「カチッ」と押して離します。この動作を「クリック」と言います。左右のクリックボタンはマウスの左右ボタンに相当します。ボタンをクリックすると、ボタンに表示されている操作が実行されます。

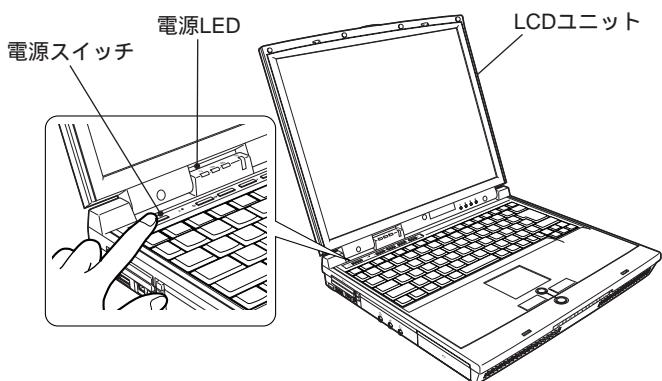


電源の入れ方とWindowsの起動

本機の電源の入れ方は、次のとおりです。

1

電源スイッチを押し、本機の電源を入れます。電源LEDが点灯します。
電源を入れたときに電源LEDが点灯しない場合は、ACアダプタやバッテリパックが正しく接続されているか確認し、正しく接続し直してください。



2

画面にコンピュータの仕様が表示され、しばらくするとWindowsが起動します。

続いてWindowsのセットアップを行います。

Windows 2000インストールモデル  p.20

Windows XPインストールモデル  p.22

次の調節をして画面を見やすくします。

角度 LCDパネルを前後に動かします。

画面の明るさ  +  : 明るくなります。

 +  : 暗くなります。

Windowsのセットアップ

Windows 2000 Windows 2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

インストール
モデル

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows 2000セットアップウィザードの開始

↓ セットアップを続行するには、[次へ] をクリックします。

ライセンス契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定

↓ ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。
名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

コンピュータ名とAdministratorのパスワード

↓ 「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

↓ 「日付と時刻」で現在の日時を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows 2000セットアップウィザードの完了

↓ Windowsが正常にインストールされました。[再起動] をクリックするとコンピュータが再起動します。

2

Windows 2000が再起動し、パスワードを入力すると、次の画面が表示されます。これで「Windows 2000セットアップ」は終了です。



続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。

Windows XP インストール モデル

Windows XPインストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows XPセットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは、次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Microsoft Windowsへようこそ

↓ セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

使用許諾契約

↓ 画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

コンピュータ名

↓ 「このコンピュータの名前」を入力します。このコンピュータをネットワークに接続して使用する場合は、ネットワーク管理者の指示に従って入力してください。

パスワードの設定

↓ Windows XP Professionalをお使いの場合は、パスワードの設定を行います。管理者の指示に従って入力してください。

インターネットへの接続

↓ ここでは接続を行いませんので[省略]をクリックします。

ユーザー登録

↓ ここでは登録を行いませんので、「いいえ、今回はユーザー登録しません」を選択します。

コンピュータを使用するユーザーの指定

↓ このコンピュータを使用するユーザーの名前(最大5ユーザー)を入力します。少なくともユーザー名を1つ入力してください。

インストールの完了

Windows XPが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

Windows XPが再起動すると、Windowsのデスクトップが表示されます。これで「Windows XPセットアップ」は終了です。



セットアップの際にユーザー名を2つ以上入力した場合は、Windows XPの再起動後に「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると、上記の画面が表示されます。

続けてp.24「セットアップ終了後の作業」に移ります。



ユーザー登録とライセンス認証(アクティベーション)について

セットアップ中にスキップした、ユーザー登録を行う場合は、[スタート]-「ファイルを指定して実行」-「REGWIZ /R (はスペース)」を実行し、ウィザード画面の指示に従ってください。

ユーザー登録は、Microsoft社からWindowsに関するサポートを受けるためのものではありません。本機のサポートは弊社で行っています。

弊社より提供されたWindows XP(購入時にコンピュータにインストールされているもの、および「リカバリCD」より再インストールを行ったもの)は、ライセンス認証を行う必要はありません。

セットアップ終了後の作業

Windowsのセットアップが終了したら、次の作業を行います。

バックアップディスクの作成

バックアップディスクの作成は、「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。



バックアップディスクを作成する前に、HDD領域を削除したり、Windowsの再インストールを行うと、バックアップディスクが作成できません。

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアの再インストールができません。必ず作成してください。

「バックアップFD作成ユーティリティ」では、マニュアルディスクのバックアップディスクを作成します。

購入時の仕様によっては、マニュアルディスク以外にも「ドライバCD」などの添付CDには登録されていない最新のドライバなどのディスクの作成が必要な場合があります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクの作成方法

バックアップディスクを作成するには、フォーマット済みのFDが必要です。

☞ p.55「FDのフォーマット」

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

1 [スタート]-「(すべての)プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」を実行します。

2 「バックアップFD作成ユーティリティ」が実行されると、「作成するディスクセットの選択」が表示されます。



3 画面に表示されているディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックします。

4 画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。

作成したディスクにはディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。

☞ p.56「ライトプロテクト(書き込み禁止)」



マニュアルディスクについて

マニュアルディスクには、デスクトップ上の「ユーザーズマニュアル.pdf」が登録されています。Windowsを再インストールして、「ユーザーズマニュアル.pdf」をインストールする場合に、このディスクを使用します。

■ ネットワークに接続する

ネットワーク機能を使用する場合は、ネットワークへの接続を行います。接続を行う際には、ネットワークに関する情報が必要です。お使いになるネットワーク機器に添付のマニュアルや、ネットワーク管理者の指示に従ってください。

■ FAXモデムの設定

FAXモデムを使ってインターネットに接続するための設定を行います。

 p.92「インターネットに接続するには」

■ Norton AntiVirus2002のインストール

本機のHDDには、「Norton AntiVirus2002」がインストールされていません。

「Norton AntiVirus2002」をインストールします。

 p.118「コンピュータウィルスの検索・駆除」

Windows使用時の確認事項

「セットアップ終了後の作業」が終わると、Windowsを使用できます。ご使用の前に次の事項の確認を行ってください。

Windowsの使用方法は、Windowsに添付の『クイックスタートガイド(ファーストステップガイド)』や、「Windowsのヘルプ」をご覧ください。

2回目以降に電源を入れる

セットアップが終了したコンピュータに電源を入れるときには、次の点に注意してください。

電源が切れていることを電源ランプで確認してから電源を入れる。

省電力機能が働き、動作中でも画面の表示が消えていることがあります。電源を入れるつもりで切ってしまわないように注意しましょう。

 p.110「省電力機能を使う」

電源を入れ直すときは、20秒程度の間隔を開けてから電源を入れる。

電気回路に与える電気的な負荷を減らして、HDDなどの動作を安定させます。

周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を先に入れる。

コンピュータよりも先に電源を入れておかないと、コンピュータに認識されない機器があります。

音量の調節

Windows起動時に音が鳴らない、または大きすぎるといった場合には次のように音量を調節します。

キーボード操作

次のキーを押して、音量を調節できます。

[Fn] + [F10]	スピーカ音声出力の入/切を切り替えます。
[Fn] + [F11]	スピーカの音量を小さくします。
[Fn] + [F12]	スピーカの音量を大きくします。

ボリューム調節ダイヤル

手前に回すと小さく、奥に回すと大きくなります。

 p.10「右側面」

省電力機能

本機では一定時間タッチパッドやキーボードの操作をしないと、省電力機能が働いて画面表示が消えます。この場合、キーボードの操作でもとに戻ります。

 p.110「省電力機能を使う」

デバイスドライバをインストールするときは

デバイスドライバをインストールしたり、周辺機器を接続したりするときに「Windows CD-ROM」が要求されることがあります。このような場合は、添付の「リカバリCD(Windows XPはリカバリCD Disc1)」をセットしてください。

メールユーティリティのインストールについて

本機のHDDには、「メールユーティリティ」がインストールされていません。「メールユーティリティ」を使用すると、「Outlook Express」や「Outlook」が起動中に未開封メールがある場合、メールLEDが点灯します。必要に応じてインストールを行ってください。

 p.109「メールユーティリティ」

B's CLiPのインストールについて

(CD-R/RW ドライブ、コンボドライブ搭載モデル)

本機のHDDには、「B's CLiP」がインストールされていません。「B's CLiP」を使用すると、FDDのように、ドラッグ & ドロップするだけでファイルやフォルダをCD-R/RWメディアへコピーができます。必要に応じてインストールを行ってください。

・ CD-R/RW ドライブ搭載モデルの場合

 p.61「CD-R/RW ドライブを使う」

・ コンボドライブ搭載モデルの場合

 p.64「コンボドライブ(CD-R/RW&DVD-ROM ドライブ)を使う」

ステップバイステップインタラクティブの実行について (Windows XP)

「ステップバイステップインタラクティブ」を実行すると、Windows XPの使い方の詳細をデスクトップ上で見ることができます。「ステップバイステップインタラクティブ」を実行するには、[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「Microsoftインタラクティブトレーニング」 - 「Microsoftインタラクティブトレーニング」をクリックします。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源を切ってから、もう1度入れ直す場合には、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

HDDやCD-ROM、FDへのアクセス中に電源を切ると、登録されているデータが破損するおそれがあります。

本機は電源を切っても、バッテリパックが装着されていたり、コンセントに接続されていたりすると、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜き、バッテリパックを取り外してください。

Windows 2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows 2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]-「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
Windows 2000が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 3 接続している周辺機器の電源を切ります。

Windows XPの終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows XPを終了させてから電源を切ります。

- [スタート]-[終了オプション]-[電源を切る]をクリックします。
Windows XPが終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 接続している周辺機器の電源を切ります。

終了時の注意

Windows XPを複数のユーザーが使用している場合に、[終了オプション]-[電源を切る]を選択して電源を切ろうとすると、「ほかの人がこのコンピュータにログオンしています。…」と画面に表示されます。この場合は、画面を切り替え、ログオンしているすべてのユーザーのログオフを行ってください。

リセット

コンピュータの電源が入っている状態で、コンピュータを再起動する場合には、「リセット」を行います。リセットは、次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合

プログラムがハングアップ(キーボードやタッチパッドからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合

リセットすると、保存されていないデータはすべて消失します。

ハードウェアを完全に初期化する場合には、コンピュータの電源を切ってください。

Windowsの
リセット方法

Windowsのリセット方法は、次のとおりです。

Windows 2000 : [スタート]-「シャットダウン」-「再起動」を選択

Windows XP : [スタート]-[終了オプション]-[再起動]を選択

リセットできない
ときは

プログラムがハングアップしてしまい、上記の方法でリセットできなくなってしまった場合は、あわてず次のように対処します。

Ctrl + Alt + Delete を押してリセットする

↓ コンピュータがリセットできないときは

コンピュータの電源スイッチを押す

↓ コンピュータの電源が切れないときは

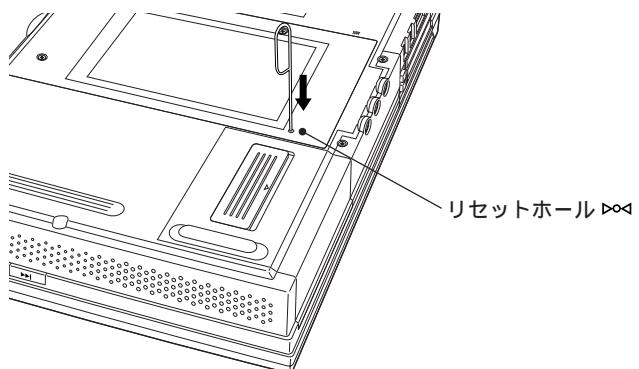
コンピュータの電源スイッチを5秒以上押し続ける

これでコンピュータの電源が切れます。

リセットホール
でのリセット

本体底面にあるリセットホールの位置を確認し、リセットホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。

リセットホールは、プログラムがハングアップしても **Ctrl + Alt + Delete** を押してもリセットできないときに使用してください。



使ってみましょう

本機の各部の名称や使い方について説明します。

ACアダプタ/バッテリパックを使う

本機は、ACアダプタまたはバッテリパックを使って使用することができます。



警告

ACアダプタや、バッテリパックを分解しないでください。火傷や、化学物質による被害の原因となります。

バッテリパックの端子をショートさせないでください。火傷の原因となります。

バッテリパックを火中に入れたり、加熱しないでください。破裂などで火傷の原因となります。



注意

連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ずコンピュータ本体からバッテリパックを抜き、電源プラグをコンセントから抜いてください。ACアダプタやバッテリパックは、本製品以外には使用しないでください。火傷・火災の危険があります。

ACアダプタの温度の高い部分に、長時間直接触れないでください。低温火傷の原因になります。

ACアダプタを毛布や布団で覆わないでください。火傷・火災の危険があります。破損したACアダプタやバッテリパックを使用しないでください。火傷・火災の危険があります。

コンピュータ本体をひざの上で使用しないでください。バッテリパックの熱で本体底面が熱くなり、低温火傷の危険があります。

バッテリパックは落下させるなどの強い衝撃を与えないでください。火傷や、科学物質による被害の原因となります。



制限

ACアダプタを使用するときも、必ずバッテリパックを装着して本機を使用してください。

ACアダプタを頻繁に抜き差しすることは避けてください。

ACアダプタを長時間接続して使用すると、ACアダプタ本体が少し熱を持ちますが、故障ではありません。

ACアダプタの接続方法は、p.12「ハードウェアをセットアップしましょう 手順5」をご覧ください。

バッテリパックを使う

バッテリパック(以降バッテリ)は、着脱可能な充電式の電池です。バッテリを使用すれば、電源コンセントのない場所や停電時にも本機を使用することができます。本機では、リチウムイオン(Li-ion)バッテリを使用します。

使用可能時間

バッテリだけで使用できる時間は、次のとおりです。ただし、本機の使用環境や状態などによって変化します。

使用可能時間 (満充電の場合)	連続約2.5時間 当社独自測定方法 連続約3.5時間 JEITA測定方法
--------------------	---

バッテリだけで使用している場合は、使用可能時間が制限されます。省電力機能の使用やバックライトの明るさの調整などで消費電力を抑えると使用可能時間を延ばすことができます。

☞ p.110「省電力機能を使う」

☞ p.77「LCDユニット」

バッテリ使用時の注意

スタンバイモードのまま長時間使用しない場合は、完全放電しないように気を付けてください。スタンバイモードに入っているときも電力が消費されています。

☞ p.110「省電力機能を使う」

バッテリは、本機の電源が切れているときでも自然放電によって電力が消費されています。長期間使用しなかった場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。バッテリだけで本機を使用するときは、必ず充電してから使用してください。

バッテリは、温度が10~30°で使用すると性能が向上し、使用時間や寿命を延ばすことができます。10°以下の場所に放置していたバッテリは、10~30°の温度範囲の場所でしばらく放置してから使用することをおすすめします。

バッテリの特性上、残量が正しく表示されず、使用中に急激に残量が減ってしまうことがあります。このような場合に備えて、バッテリ使用後は常に充電することをおすすめします。

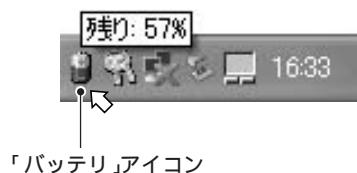
バッテリ残量の確認



バッテリの特性上、残量が正しく表示されないことがあります。
☞ p.40「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

バッテリ残量の確認は、次の方法で行います。

タスクバーの「バッテリ」アイコンにマウスポインタをあわせる。



「バッテリ」アイコン

プロパティ画面を開いて確認する。

Windows 2000の場合：[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」-「電源メーター」タブ

Windows XPの場合：[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」-「電源メーター」タブ



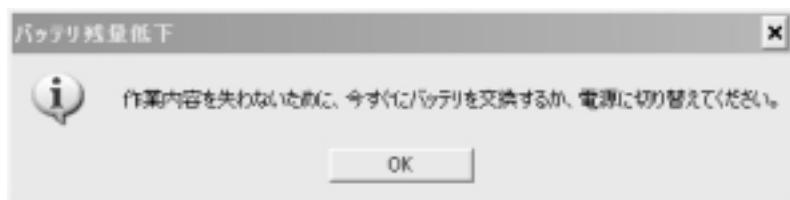
< Windows XPの場合 >

バッテリ残量が少なくなったら

低バッテリの通知

残量が少なくなると、通知(警告)画面が表示されます。直ちに下記の対処を行ってください。完全放電してシャットダウン(電源切断)してしまうと、保存されていないデータはすべて失われます。

バッテリ残量が約10%*になるとバッテリ充電LED(□)が点滅し、バッテリ残量低下メッセージが表示されます。



そのまま放置すると、残量約3%*で休止状態に入れます。

* この設定は、次ページの「バッテリアラームの設定」で変更することができます。

対処方法

バッテリ残量の低下が通知されたら、直ちに次のいずれかの処置を行ってください。

ACアダプタを接続する

電源を入れたままACアダプタを接続します。バッテリ充電LED(□)が点灯します。

電源を切る

作業中のデータをHDDやFDに保存して、実行中のソフトウェアを終了させたあと、本機の電源を切ります。

交換用のバッテリがある場合も、必ず電源を切ってからバッテリを交換してください。



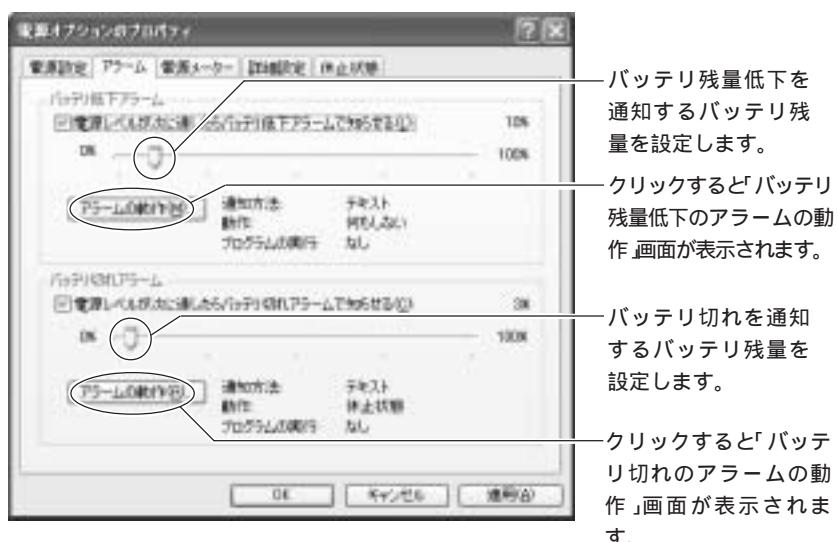
ACアダプタを接続しない場合は、直ちに作業中のデータを保存してください。コンピュータがシャットダウンしてしまうと、保存していないデータはすべて失われます。

バッテリアラームの設定

バッテリ残量が低下したときの通知方法を変更できます。

Windows 2000の場合 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」-「アラーム」タブ

Windows XPの場合 : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」-「アラーム」タブ



バッテリ切れのアラームの動作画面



<Windows XPの画面>

バッテリの充電

バッテリが満充電でない場合、ACアダプタが接続されていれば、本機の電源が入/切どちらの状態でも自動的に充電が行われます。

バッテリ充電LED()の表示は、次のとおりです。

充電状態	LEDの表示
充電が必要な場合	橙点滅
充電中	橙点灯
満充電状態	消灯

低バッテリ状態からバッテリの充電完了までの時間は、次のとおりです。

コンピュータの動作状態	充電時間
電源切断時/休止状態	約3.5時間
電源が入っている状態	約5時間(使用状態により差があります)

バッテリは、化学反応を利用した電池です。このため、温度条件によっては正常な充電ができない場合があります。

温度が10~30 の環境で充電すると、最も効率よく充電ができます。

充電後の処理

バッテリが満充電状態になったあと、本機を使用しない場合は、安全のためにACアダプタを外しておきます。

バッテリ残量が正しく表示されないときは

バッテリの特性上、充電を繰り返すと、残量が正しく表示されなくなることがあります。

満充電にしてもバッテリ容量がすぐに低下したり、バッテリ充電LEDがすぐに点滅(要充電)するような場合は、バッテリ残量のリセットを行ってみてください。

バッテリ残量のリセット

バッテリ残量のリセットは、次の手順で行います。

- 1 ACアダプタが接続されていることを確認します。
- 2 コンピュータの電源を入れて **F2** を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
 p.137 「BIOS Setupユーティリティの起動」
- 3 **→** を数回押して、「Power」メニュー画面を表示します。
- 4 「Start Battery Refreshing」を選択し、**←** を押します。
- 5 「Battery refresh utility」が開始されます。
「Battery refresh utility」は、終了するまでに約12~15時間かかります。途中で中止したい場合は、**Ctrl**+**Alt**+**Delete** を押してコンピュータをリセットし、Windows起動後に[スタート]メニューから終了します。
- 6 「Battery refresh utility」が終了すると、自動的に電源が切れます。これでバッテリ残量のリセットは終了です。
「Battery refresh utility」終了後のバッテリは、完全放電された状態になっています。続けてバッテリの充電を行う場合は、ACアダプタを接続したままにしておいてください。

バッテリの寿命

バッテリは、消耗品です。次の場合は、バッテリの寿命が考えられます。新しいバッテリに交換してください。

上記の操作を行っても、バッテリ容量がすぐに低下する。

バッテリ充電LEDが早い点滅をする。

バッテリの交換

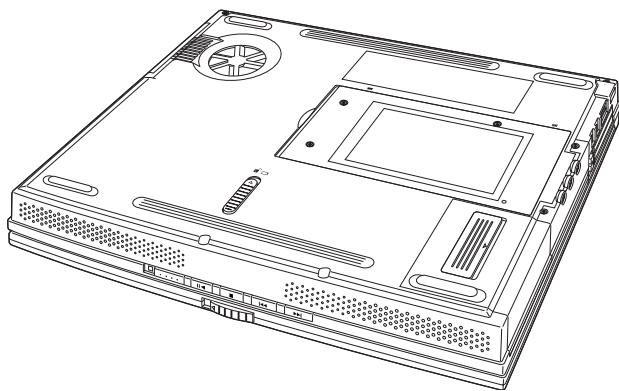
次の場合は、バッテリの交換を行います。

- バッテリを複数使用して、コンピュータを長時間使用する場合
- バッテリが寿命の場合

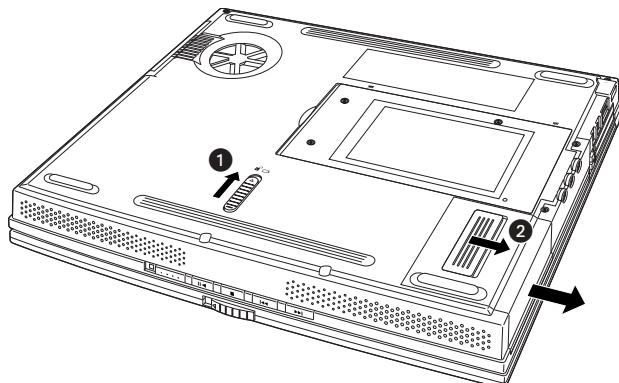
バッテリの交換は、次の手順で行います。

1 本機の電源を切ります。ACアダプタが接続されている場合は外します。

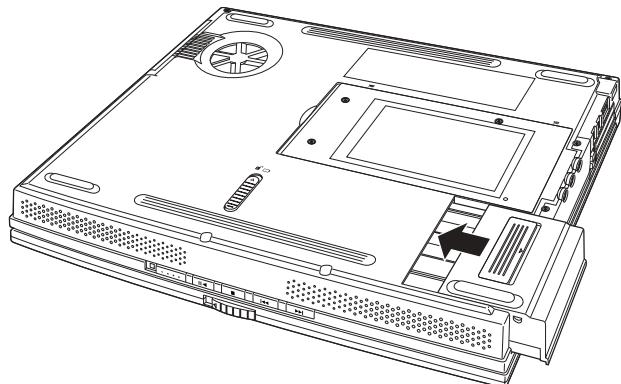
2 本機の底面部を上にして置きます。



3 ①のラッチを矢印の方向へスライドさせたまま、②のラッチを矢印の方向へスライドさせてバッテリパックを取り外します。



- 4 新しいバッテリパックを、カチッと音がするまで押し込みます。バッテリパックが固定されます。



バッテリ保管上の注意



小さなお子様の手の届く場所にバッテリを保管しないでください。なめたりすると火傷や、科学物質による被害の原因となります。

バッテリの保管はバッテリの端子部が金属類に触れないように布などの絶縁物に包み、高温・多湿の場所をさけて行ってください。保管したバッテリは、自然放電していることがあります。次回使用するときは、必ず充電してから使用してください。

コンピュータを保管するときは、必ずコンピュータ本体からバッテリを取り外してください。取り付けたままで長期間放置すると、バッテリが液もれしたり、バッテリと本体の接点が腐食することがあります。

使用済みバッテリの取り扱い



使用済みのリチウムイオン(Li-ion)バッテリは、再利用可能な貴重な資源です。有効資源のリサイクルにご協力ください。

バッテリリサイクル時の注意

使用済みのバッテリは、バッテリがショートしないように、端子部にテープを貼るかポリ袋などに入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収ボックスに入れてください。

不要なバッテリは、燃やしたり埋めたり一般ゴミに混せて捨てたりしないでください。環境破壊の原因となります。

タッチパッドを使う

本機には、マウスと同じ働きをするタッチパッドが装備されています。

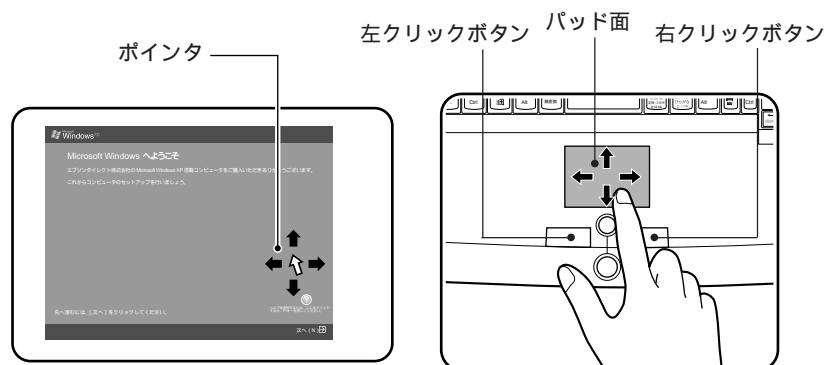
タッチパッドの操作

タッチパッドは、パッド面、クリックボタン(2つ)、スクロールボタン(2つ)から構成されています。

パッド面は、ポインタを移動させる働きのほかに、マウスの左ボタンの働きもします。ボタンを押す代わりにパッド面を軽くたたく(タップする)ことにより、左ボタンに割り当てられた処理を行うことができます。

ポインタの移動

人差し指をパッド面の上で前後左右に動かすと、動かした方向に画面上のポインタが移動します。



パッド面には指で触れてください。ペンなどで触ると、ポインタの操作ができないだけでなく、パッド面が破損するおそれがあります。

パッド面は、1本の指で操作してください。一度に2本以上の指で操作するとポインタが正常に動作しません。

手がぬれていたり、汗ばんでいると、ポインタの操作が正しくできないことがあります。

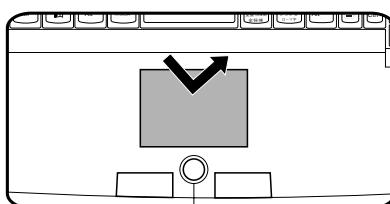
キーボードを操作しているときにパッド面に手が触ると、ポインタが移動してしまうことがあります。

起動時の温度や湿度により、正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することができます。

電源を入れたままLCDユニットを閉じていたり、使用中に本機の温度が上がってくると、ポインタが正常に動作しない場合があります。この場合は電源を一度切って入れ直すことにより正常に動作することができます。

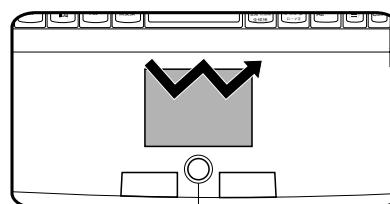
クリック

クリックは、機能や項目を選択するときによく使われる方法です。ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く1回たたきます。マウスの左ボタンを「カチッ」と押すのと同じ操作です。



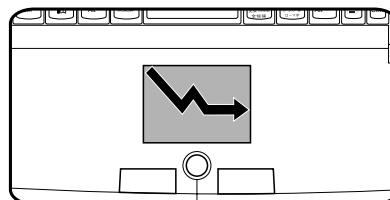
ダブルクリック

ダブルクリックは、プログラムを起動するときによく使われる方法です。ポインタを画面上の対象に合わせて、パッド面を軽く2回たたきます。マウスの左ボタンを「カチカチッ」と2回押すのと同じ操作です。



ドラッグアンドドロップ

ドラッグアンドドロップは、アイコンを移動したり、ウィンドウの位置や大きさを変えるときなどによく使われる方法です。ポインタを画面上の対象に合わせて、ダブルクリックの2回目のクリック時に、指をパッド面に触れたまま移動させ、離します。マウスの左ボタンを押したままの状態でポインタを移動し、離すのと同じ操作です。



タッチパッドユーティリティを使う

タッチパッドユーティリティで各種設定を行うとタッチパッドがより操作しやすくなります。

タッチパッドユーティリティの各種設定は次の場所から実行します。

Windows 2000の場合：[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「マウス」

Windows XPの場合：[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「マウス」

「マウスのプロパティ」画面の「デバイス設定」タブをクリックして「設定」ボタンをクリックすると次の画面が表示されます。



< Windows XPの場合 >

マウスの接続

PS/2マウス

本機背面のキーボード/マウスコネクタ( / )にPS/2マウスを接続できます。PS/2マウスの接続は、本機の電源が切れている状態で行ってください。

 PS/2マウスに添付のマニュアル

USBマウス

本機背面のUSBコネクタ()にUSBマウスを接続できます。USBマウスの接続は、本機の電源が入っている状態でも行うことができます。

 USBマウスに添付のマニュアル

マウス使用時の

BIOS設定

本機にPS/2マウスを接続して使用する場合は、タッチパッド機能を無効にすることをおすすめします。タッチパッド機能を無効にするには「 BIOS Setup ユーティリティ 」を起動後、「 Advanced 」メニュー画面 - 「 Internal Pointing Device 」を「 Disabled 」に設定します。

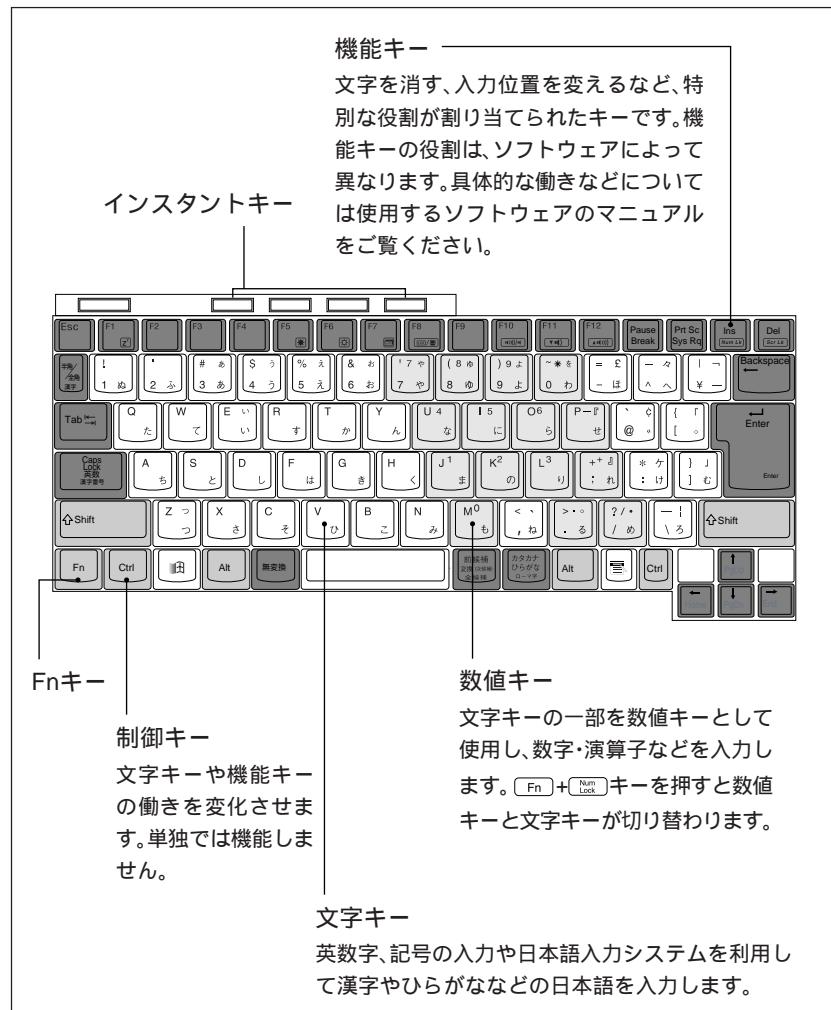
 p.138「 BIOS Setupユーティリティの操作 」

キー ボード を 使 う

本機のキーボードは、4個のインスタントキーを搭載したOADG準拠日本語対応87キー ボードです。

キー の 種類 と 役割

87個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



キー ト ッ プ に 印 字 さ れ た 文 字 と 実 際 に 入 タ さ れ る 文 字 が 異 な る 場 合 が あ り ま す。

文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ(キーの上面)に印字された文字が入力されます。キートップには、複数の文字が印字されており、入力モードによって入力される文字が異なります。

直接入力モード : キートップのアルファベットをそのまま入力します。

日本語入力モード ローマ字入力: キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
かな入力 : キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やひらがなに変換します。

入力モードの切り替え **直接入力モードと日本語入力モードの切り替えは、次のキー操作で行います。**

Alt + 半角/全角

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は、日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには

ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には、日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IMEの使い方 MS-IMEパネルには、次のボタンがあります。ボタンをクリックして各設定を行います。



< Windows 2000 の場合 >



< Windows XP の場合 >

① 入力モード

入力モード(ひらがな、カタカナ、英数字など)を選択します。

② ヘルプ

日本語入力の方法が詳しく説明されているので参照してください。

③ かなキーロック

日本語入力モードの切り替えを行います。
ボタンが押されていない状態 : ローマ字入力
ボタンが押されている状態 : かな入力

MS-IME以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムに添付されているマニュアルをご覧ください。

記号の入力

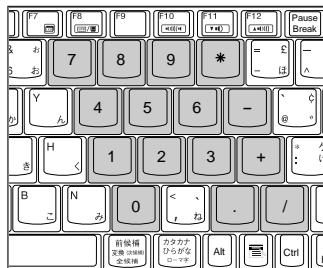
インターネットのアドレスやメールアドレスを入力する際に使用する記号は、直接入力モードで次のキーを押して入力します。

入力記号	入力方法
(コロン)	[: ケン]
(セミコロン)	[; れ]
(ハイフン)	[- ホ]
(スラッシュ)	[/ メ]
@(アットマーク)	[@ ショウ]
(チルダ)	[Shift + ^ ハウ]
(アンダーバー)	[Shift + \ ハラ]

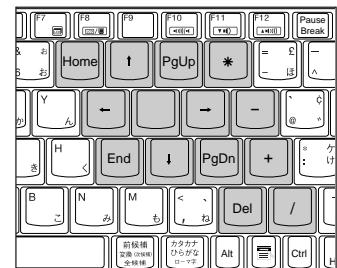
数値キーの使い方

[Fn] + [Num Lock] を押すと、NumLock LED  が点灯して、文字キーの一部が数値キーとして使用できます。さらに [Shift] を押しながら数値キーを押すと、矢印キーなどとして使用できます。

数値キー モード



Shift を押したとき



アルファベット入力モード

[Shift] + [Caps Lock] を押すと、CapsLock LED  が点灯して、アルファベットが大文字で入力できます。小文字で入力するには [Shift] を押しながら入力します。

Fnキーと組み合わせて使うキー

キートップに青色で印字されている機能キーは、**Fn**キーと組み合わせて実行します。

キーの組み合わせ	機能
Fn + F1 	省電力モードに移行します。購入時の設定では、スタンバイモードに移行します。  p.110「省電力機能を使う」
Fn + F5 	LCD画面を暗くします。  p.77「LCDユニット」
Fn + F6 	LCD画面を明るくします。  p.77「LCDユニット」
Fn + F7 	LCD画面のバックライトの入/切を切り替えます。  p.77「LCDユニット」
Fn + F8 	表示装置を切り替えます。  p.80「ドライバモードの切替方法」
Fn + F10 	スピーカ音声出力の入/切を切り替えます。  p.87「内蔵スピーカ」
Fn + F11 	スピーカ音声のボリュームを小さくします。  p.87「内蔵スピーカ」
Fn + F12 	スピーカ音声のボリュームを大きくします。  p.87「内蔵スピーカ」

Windowsキー

Windowsキー、アプリケーションキーを使うことにより、Windowsをより効率的に使用することができます。

キー名	機能
 (Windowsキー)	画面左下の[スタート]をクリックするのと同じ働きをします。
 (アプリケーションキー)	タッチパッドの右クリックボタンをクリックするのと同じ働きをします。ソフトウェアによっては、機能が異なる場合があります。

インスタントキー

本機には、インスタントキーが搭載されています。インスタントキーには、Internet Explorerを起動するなどの機能が割り付けられています。デスクトップ上で操作しなくても、インスタントキーを押すだけで割り付けられた機能を実行することができます。

各インスタントキーの機能は、次のとおりです。割り付けられた機能を変更することはできません。

インスタントキー	機能
メールキー 	Outlook Expressを起動します。  p.102 「起動方法」
インターネットキー 	Internet Explorerを起動します。  p.102 「起動方法」
アプリケーションキー1 	「マイドキュメント」を開きます。
アプリケーションキー2 	「画面のプロパティ」を開きます。

外付けキーボードの接続

本体背面のキーボード/マウスコネクタ( / )に、PS/2互換のキーボードを接続することができます。接続は、本機の電源が切れている状態で行ってください。

FDD(フロッピーディスクドライブ)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。本機のFDDでは、次のFDが使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。



FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。

FDのセットと取り出し

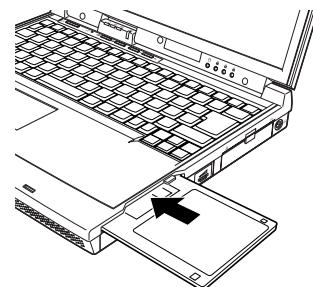


FDへアクセス中にFDを取り出したり、本機をリセットしないでください。データが破損するおそれがあります。

本機の電源を切る場合やリセットする場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

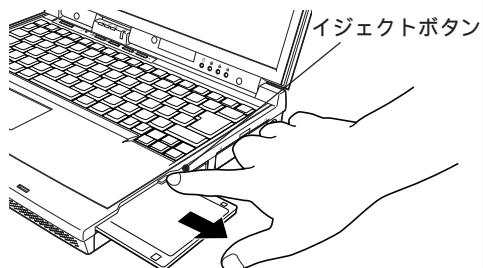
- 1 ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。



- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが押し出されます。

取り出し方法

- 1 FDへアクセスしていない状態でイジェクトボタンを押します。



- 2 FDが押し出されますので、静かに引き抜きます。

コンピュータ持ち運び時の注意

本機を持ち運ぶときは、FDを抜いてください。FDがFDDにセットされていると、イジェクトボタンが本体よりも突き出ています。この状態のまま本体をバッグなどに入れて持ち運ぶと、イジェクトボタンに無理な力がかかり、故障するおそれがあります。

FDのフォーマット

フォーマットとは、データを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。

メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。
Windows XPでは720KBの記憶容量のFDをフォーマットすることはできません。

フォーマット方法 Windowsのフォーマットユーティリティを使ったFDのフォーマットは、次の方
法で行います。



Windows 2000ではWindowsのフォーマットユーティリティを起動したま
ま、未フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットできません。未
フォーマットFDを2枚以上連続してフォーマットする場合は、下記手順2～
5を繰り返してください。

- 1 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。(Windows XPでは[スタート] - 「マイコンピュータ」をクリックします。)
- 2 「3.5インチFD」を右クリックし「フォーマット」をクリックします。
- 3 フォーマットの種類などを設定して[開始]をクリックします。「警告」が表
示された場合は[OK]をクリックします。
- 4 「フォーマットが完了しました。」と表示されたら、[OK]をクリックします。
続けて別のFDをフォーマットする場合は、FDを入れかえて手順3～4をくり返し
ます(Windows XPのみ)。
- 5 [閉じる]をクリックします。

データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

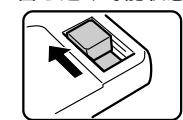
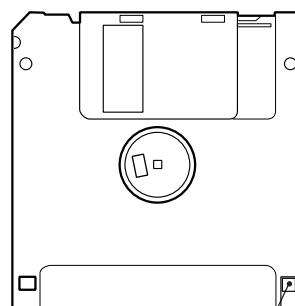
ライトプロテクト(書き込み禁止)

ライトプロテクトは、FDにデータを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDは、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDは、ライトプロテクトをしておくと安心です。

ライトプロテクトするには、FD裏面のライトプロテクトタブを操作します。

窓が開いているとライトプロテクト状態です。

窓が閉じているとデータを書き込むことができます。



ライトプロテクトタブ

HDD(ハードディスクドライブ)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。一般的には、FDのように交換して使用することはできません。



誤った操作で重要なデータを破損しないように次の点に注意してください。

- ・HDDを分解しないでください。
- ・アクセスLED点滅・点灯中に、コンピュータの電源を切ったり、リセットしないでください。アクセスLED点滅・点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破損するおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできません。

本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えるとHDDが破損するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。また、持ち運ぶときは専用バッグに入れるなどして、ショックから守るようにしてください。

使ってみましょう

データのバックアップ

HDD内に重要なデータを作成したら、必ずFDなどの別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておくことをおすすめします。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

購入時のHDD領域について

購入時のHDDは、すべての容量が1つの領域として確保されNTFSでフォーマットされています。

HDD領域の構成を変更したい場合は、Windowsの再インストールが必要です。

 p.151「ソフトウェアの再インストール」

CD-ROM ドライブを使う

(CD-ROM ドライブ搭載モデル)

CD-ROM ドライブは、データの入ったデータCDのほかに、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なこともあります。

本機に装着されているCD-ROM ドライブは、メディアの認識に時間がかかることがあります、不具合ではありません。

また、メディアの種類によっては、再生中に振動することがあります、故障ではありません。

メディアのセットと取り出し



メディアへアクセス中(薄型ドライブのアクセスランプ点滅・点灯中)にメディアを取り出したり、コンピュータをリセットしないでください。

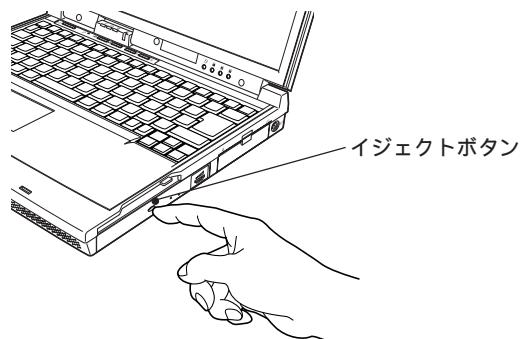
ディスクトレイ上の光学レンズに触れたり、傷つけたりしないでください。メディアのデータが読めなくなります。

必要な場合以外は、ディスクトレイは閉じておいてください。

セット方法

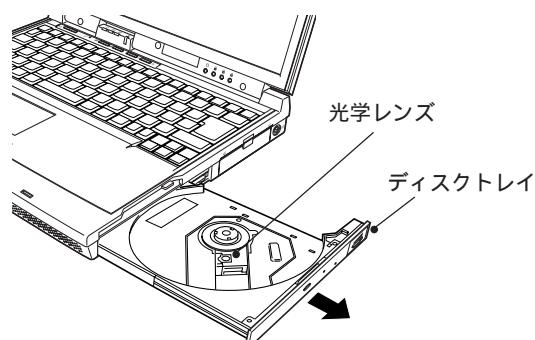
1

イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。



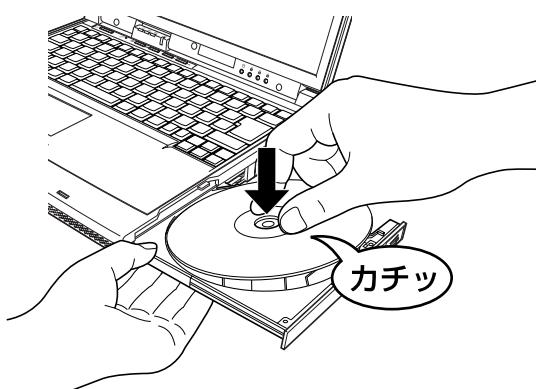
2

ディスクトレイを静かに引き出します。



3

印刷面を上にしてメディアをディスクトレイに載せ、カチッと音がするまで押し込みます。



4

ディスクトレイを静かに閉じます。

取り出し方法

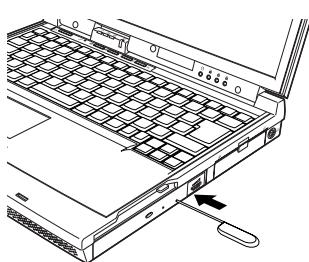
- 1 イジェクトボタンを押すと、ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2 メディアをディスクトレイから取り出します。
- 3 ディスクトレイを手で押して静かに閉じます。

強制的なメディアの取り出し

以下のような場合には、強制的にメディアを取り出すことができます。

CD-ROMドライブが故障して、メディアが取り出せない場合

メディアをセットしたまま、コンピュータの電源を切ってしまった場合

- 1 コンピュータの電源が入っている場合には、コンピュータの電源を切ります。
 p.30「電源の切り方」
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。

- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

CD-R/RW ドライブを使う

(CD-R/RW ドライブ搭載モデル)

CD-R/RW ドライブは、CD-ROM ドライブ機能(読み出し専用)を備えているほかに、データ、音楽、画像などをメディアに書き込む機能を備えている装置です。CD-R メディアを使用すると CD-R ドライブとして機能し、CD-RW メディアを使用すると CD-RW ドライブとして機能します。

本機には、バッファアンダーランエラー^{*} の発生を自動的に防止する機能が搭載されています。そのため、書き込みエラーを未然に防ぐことができ、メディアを無駄にすることなく、安心して書き込みが行えます。

^{*}遅延無くメディアへ書き込まないと、発生するエラーのこと。

CD R/RW ドライブの書き込みは、CD-R/RW ドライブ側のバッファメモリに一時的に書き込むデータを蓄えながらメディアに書き込んでいるが、書き込み中にコンピュータで他の作業をするなど、バッファメモリのデータを使い切ってしまうと発生する。

CD-R メディアと CD-RW メディア

CD-R メディア

データなどを1度だけ書き込むことができます。書き込まれたデータなどを消去したり、移動したりすることはできません。ただし、CD-R メディアに空き容量があれば、マルチセッションという方法により、繰り返し追記することができます。

CD-RW メディア

書き込んだデータをフォーマットすることで、繰り返し書き込みが行えます。

CD-R メディア、CD-RW メディアには書き込みの対応速度によって異なる種類があります。書き込みを行う場合は、書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

メディアへの 書き込み

本機には、CD-R メディアや CD-RW メディアへの書き込みを行うためのソフトウェア『 B's Recorder GOLD 』と『 B's CLiP 』が添付されています。『 B's CLiP 』は、購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。『 B's CLiP 』のインストール方法については、『 B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM 』の『 B's CLiP クイックガイド (pdf) 』をご覧ください。

『 B's CLiP クイックガイド 』は、次の方法で見ることができます。

- ・ [スタート] - 「マイコンピュータ」で CD-ROM アイコンを右クリックして「開く」 - 「 BsCLiP 」 - 「 DOC 」 - 「 Quick 」

ソフトウェアの詳しい使用方法は、『 B's Recorder GOLD ユーザーズマニュアル 』、『 B's CLiP ユーザーズマニュアル 』をご覧ください。

これらのマニュアルは、次の方法で見ることができます。

- ・ [スタート] - 「(すべての)プログラム」 - 「 B.H.A 」 - 「 B's Recorder GOLD5 」
- ・ [スタート] - 「(すべての)プログラム」 - 「 B.H.A 」 - 「 B's CLiP 」

メディアのセットと取り出し

セットと取り出し方法や、強制的なメディアの取り出し方法は、p.58「CD-ROMドライブを使う」-「メディアのセットと取り出し」をご覧ください。ドライブの形状(イラスト)は異なりますが、基本的な操作方法は同じです。



「B's CLiP」でフォーマットしたCD-RメディアやCD-RWメディアは、イジェクトボタンを押しても取り出すことができません。メディアの取り出し方法については、『B's CLiPユーザーズマニュアル』をご覧ください。

メディア書き込み時の注意

メディアへの書き込みを行っているときに、Windowsが省電力モードに切り替わると、CD-RメディアやCD-RWメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。

書き込みを始める前に、次の手順で省電力機能を無効にしてください。

☞ p.110「省電力機能を使う」

- 1 次の手順で、「電源オプションのプロパティ」を表示します。
Windows 2000の場合
[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」アイコンをダブルクリック
Windows XPの場合
[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」アイコンをクリック
- 2 「電源設定」タブで「モニタの電源を切る」などすべての項目の時間設定を「なし」に変更します。
- 3 [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。

適応フォーマット

CD-R/RW ドライブは、使用目的に合わせたメディアのフォーマットを行うことができます。本機のCD-R/RW ドライブが適応しているフォーマットは次のとおりです。

ただし、適応しているフォーマットでも、ライティングソフト側で適応していないフォーマットは使用できません。『B's Recorder GOLDユーザーズマニュアル』をご覧になり、適応フォーマットを確認してください。

フォーマット	書き込み (Write)	読み取り (Read)
CD-DA		
CD-G	×	×
CD-TEXT		
CD-ROM (Mode1)*		
CD-ROM XA (Mode2 Form1・Form2)*		
Mixed Mode CD-ROM (CD-ROM+CD-DA)		
Photo-CD*		
Video-CD		
CD-I	×	×
CD-EXTRA		

*マルチセッション機能を含む

マルチセッション機能とはCD-Rメディアに書き込みを行ったあと、空き容量があれば最大99回まで追記できる機能です。

コンボドライブ(CD-R/RW & DVD-ROMドライブ)を使う

(コンボドライブ搭載モデル)

コンボドライブは、CD-ROMドライブ機能に加え、CD-R/RWドライブとDVD-ROMドライブの機能を持っています。

CD-ROMドライブ機能を使う

CD-ROMドライブ機能は、データCDのほかに、音楽CD、ビデオCDや、フォトCDなどのメディアを使用することができます。これらのメディアの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

CD-R/RWドライブ機能を使う

CD-R/RWドライブ機能では、データ、音楽、画像などをCD-RメディアやCD-RWメディアに書き込むことができます。

本機には、バッファアンダーランエラー^{*}の発生を自動的に防止する機能が搭載されています。そのため、書き込みエラーを未然に防ぐことができ、メディアを無駄にすることなく、安心して書き込みが行えます。

^{*}遅延無くメディアへ書き込まないと、発生するエラーのこと。

CD R/RWドライブの書き込みは、CD-R/RWドライブ側のバッファメモリに一時的に書き込むデータを蓄えながらメディアに書き込んでいるが、書き込み中にコンピュータで他の作業をするなど、バッファメモリのデータを使い切ってしまうと発生する。

CD-Rメディアと

CD-Rメディア

CD-RWメディア

データなどを1度だけ書き込むことができます。書き込まれたデータなどを消去したり、移動したりすることはできません。ただし、CD-Rメディアに空き容量があれば、マルチセッションという方法により、繰り返し追記することができます。

CD-RWメディア

書き込んだデータをフォーマットすることで、繰り返し書き込みが行えます。

CD-RメディアやCD-RWメディアには書き込みの対応速度によって異なる種類があります。書き込みを行う場合は、書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

メディアへの書き込み

本機には、CD-RメディアやCD-RWメディアへの書き込みを行うためのソフトウェア「B's Recorder GOLD」と「B's CLiP」が添付されています。「B's CLiP」は、購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。「B's CLiP」のインストール方法については、「B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM」の『B's CLiP クイックガイド』(pdf)をご覧ください。

『B's CLiP クイックガイド』は、次の方法で見ることができます。

- ・([スタート]-「マイコンピュータ」でCD-ROMアイコンを右クリックして「開く」-「BsCLiP」-「DOC」-「Quick」

ソフトウェアの詳しい使用方法は、『B's Recorder GOLDユーザーズマニュアル』と『B's CLiP ユーザーズマニュアル』をご覧ください。

これらのマニュアルは、次の方法で見ることができます。

- ・[スタート]-「(すべての)プログラム」-「B.H.A」-「B's Recorder GOLD5」
- ・[スタート]-「(すべての)プログラム」-「B.H.A」-「B's CLiP」

適応フォーマット

コンボドライブのCD-R/RWドライブ機能が適応しているフォーマットは次のとおりです。使用目的に合わせたメディアのフォーマットを行うことができます。ただし、適応しているフォーマットでも、ライティングソフト側で適応していないフォーマットは使用できません。『B's Recorder GOLDユーザーズマニュアル』をご覧になり、適応フォーマットを確認してください。

フォーマット	書き込み (Write)	読み取り (Read)
CD-DA		
CD-G	×	×
CD-TEXT		
CD-ROM (Mode1)*		
CD-ROM XA (Mode2 Form1・Form2)*		
Mixed Mode CD-ROM (CD-ROM+CD-DA)		
Photo-CD*		
Video-CD		
CD-I	×	×
CD-EXTRA		

* マルチセッション機能を含む

マルチセッション機能とはCD-Rメディアに書き込みを行ったあと、空き容量があれば最大99回まで追記できる機能です。

メディア書き込み 時の注意

メディアへの書き込みを行っているときに、Windowsが省電力モードに切り替わると、CD-RメディアやCD-RWメディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。

書き込みを始める前に次の手順で省電力機能を無効にしてください。

 p.110「省電力機能を使う」

1

次の手順で、「電源オプションのプロパティ」を表示します。

Windows 2000の場合

[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」アイコンをダブルクリック

Windows XPの場合

[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」アイコンをクリック

2

「電源設定」タブで「モニタの電源を切る」などすべての項目の時間設定を「なし」に変更します。

3

[適用]をクリックし、[OK]をクリックします。

DVD-ROM ドライブ機能を使う

DVD-ROM ドライブ機能では、DVD-ROM メディアの再生ができます。

本機には、DVD VIDEO 再生のためのソフトウェア「WinDVD」がインストールされています。詳しい使用方法は添付の『WinDVD ユーザーズマニュアル』をご覧ください。

メディアのセットと取り出し

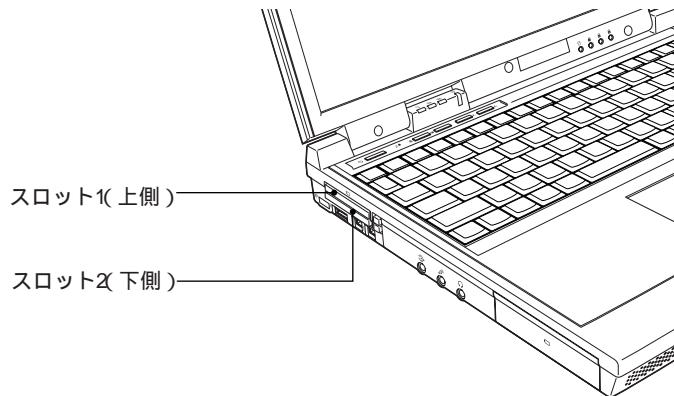
セットと取り出し方法や、強制的なメディアの取り出し方法は、p.58「CD-ROM ドライブを使う」-「メディアのセットと取り出し」をご覧ください。ドライブの形狀(イラスト)は異なりますが、基本的な操作方法は同じです。



「B's CLIP」でフォーマットしたCD-RメディアやCD-RWメディアは、イージェクトボタンを押しても取り外すことができません。メディアの取り出し方法については『B's CLIPユーザーズマニュアル』をご覧ください。

PCカードを使う

本機には、PCカードスロットが2スロット装備されています。本機では、PC Card Standardに準拠したType IIおよびIIIのPCカードを装着することができます。同時に装着可能なPCカードは、Type II × 2枚またはType III × 1枚です。



各スロットの仕様は、次のとおりです。

スロット	装着可能なサイズ		仕様
上側	スロット1	Type II	CardBus対応
下側	スロット2	Type IIまたはType III	CardBus対応



PCカードによっては、専用のデバイスドライバが必要なものがあります。詳しくは、お使いになるPCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

省電力モードに移行すると、HDDやPCカードへの電源の供給が停止されます。使用途中で電源を切ることによって不具合が発生する可能性のあるPCカード(FAXモデムカードやネットワークカードなど)では、省電力機能を使用しないでください。

PCカードのセットと取り外し



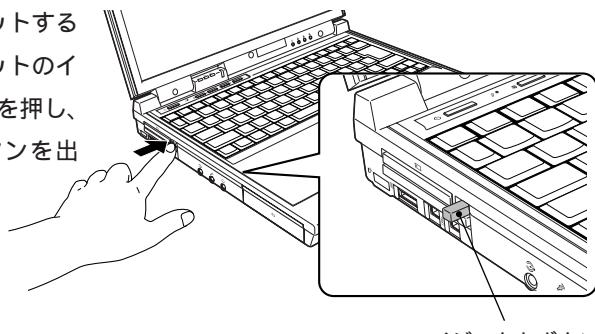
PCカードに触れるときは、あらかじめ金属製のものに触れて、静電気を逃がしてください。PCカードやコネクタ部に静電気が流れ、破損することがあります。本機では、使用時に電源を切らずにPCカードを抜き差しすることができます。ただし、省電力モード時には、PCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

PCカードの セット方法

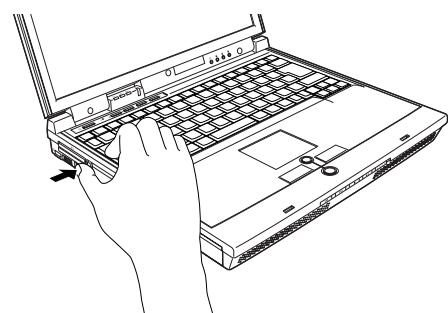
PCカードは、次の手順でセットします。

1 使用するPCカードが、どのスロットで使用可能か確認します。

2 PCカードをセットする
PCカードスロットのイ
ジェクトボタンを押し、
イジェクトボタンを出
します。



3 イジェクトボタンを押します。

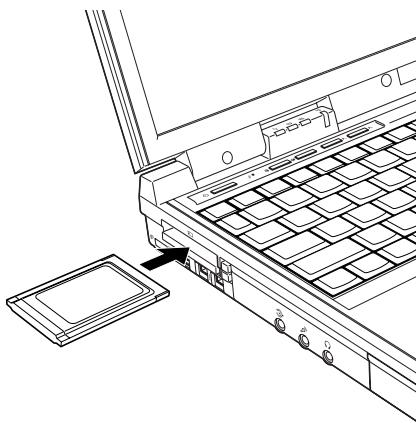


4 ダミーカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。
取り外したダミーカードは、なくさないように大切に保管してください。

5

PCカードをPCカードスロットに挿入します。

PCカードの表面を上にして、奥までしっかりと押し込みます。



6

本機の電源が切れている場合は、電源を入れます。

7

PCカードが認識されます。

正しくセットされると「ピポッ」という認識音が鳴り、タスクバーに次のような「PCカード」アイコンが表示されます。



< Windows 2000 >



< Windows XP >

PCカードによっては「新しいハードウェアの追加ウィザード」または「デバイスドライバーウィザード」が起動します。メッセージに従ってデバイスドライバを選択、またはインストールしてください。インストール中に「Windows CD-ROM」を要求された場合は、添付の「リカバリCD(Windows XPはリカバリCD Disc1)」をセットしてください。



PCカードの内容の確認

タスクバーにある「PCカード」アイコンをダブルクリックし、「ハードウェアの(安全な)取り外し」画面で「プロパティ」をクリックすると、PCカードの内容を確認することができます。

PCカードの取り外し

PCカードは、次の手順で取り外します。



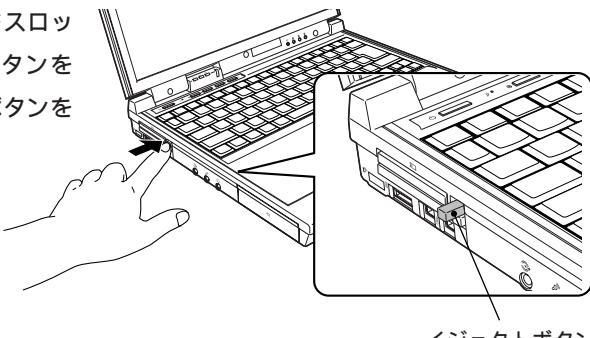
本機にセットされていたPCカードは、高温になっている可能性があります。
火傷に注意して取り外してください。

1 「PCカードの終了処理」を行うか、またはコンピュータの電源を切ります。

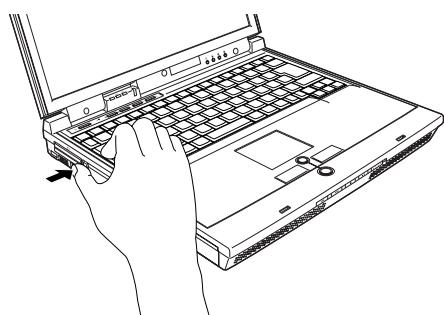
PCカード終了処理

- ① タスクバーの「PCカード」アイコンをダブルクリックします。
- ② 取り外すPCカードを選択して[停止]をクリックします。
- ③ 画面の指示にしたがいます。「安全に取り外すことができます。」と表示されたら、PCカードの終了処理は完了です。

2 取り外すPCカードスロットのイジェクトボタンを押し、イジェクトボタンを出します。



3 イジェクトボタンを押します。
Windows動作中にPCカードを取り出す場合は、「ピポッ」と認識音が鳴ります。

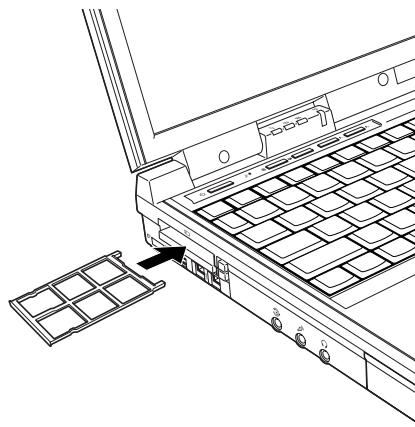


4 PCカードが出てきたら、まっすぐに引き抜きます。
取り外したPCカードは、専用のケースなどに入れて大切に保管してください。

5

ダミーカードをPCカードスロットに挿入します。

コンピュータ内部にホコリが入らないように、必ずダミーカードを挿入してください。



赤外線通信を使う

本機の左側面には、赤外線通信ポートが装備されています。本機の赤外線通信ポートと、赤外線通信機能を持つ機器の間でデータのやり取りを行うことができます。赤外線通信は、ケーブルの接続が不要なため、簡単にデータの通信を行うことができます。赤外線通信を行うためには、通信用のソフトウェアが別途必要です。また通信を行うコンピュータ同士では、お互いに同じソフトウェアを使用する必要があります。

本機の赤外線通信機能は、次の仕様に対応しています。

仕様(通信モード)	特長	使用するソフトウェア例
FIR (Fast InfraRed)	通信速度4Mbps	ワイヤレスリンク
SIR (Serial InfraRed)	通信速度115.2Kbps	

赤外線通信を行うためには次の設定が必要です。

通信モードを設定する



赤外線デバイスを設定する

通信モードの設定

赤外線通信を行うときは、使用する通信モードに合わせて設定を変更します。通信モードの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」の「Advancedメニュー画面」 - 「I/O Device Configuration」 - 「IR Port」 - 「IR Mode」で行います。

 p.144「Advancedメニュー画面」

通信モード	IR Modeの設定
FIR	FIR (初期値)
SIR	SIR

赤外線デバイスの設定

Windows 2000 Windows 2000で赤外線通信を行う場合は、赤外線デバイスの設定が必要です。購入時には、あらかじめ設定されています。Windowsを再インストールした場合は、次の設定を行ってください。

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「システム」をダブルクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]をクリックします。
- 3 「赤外線デバイス」-「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。
- 4 「詳細設定」タブをクリックします。
- 5 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「HP HSDL-2300/3600」を選択して[OK]をクリックします。

Windows XP Windows XPで赤外線通信を行う場合は、赤外線デバイスの設定が必要です。購入時には、あらかじめ設定されています。Windowsを再インストールした場合は、次の設定を行ってください。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システム」をクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブ-[デバイスマネージャ]をクリックします。
- 3 「赤外線デバイス」-「IrDA高速赤外線ポート」をダブルクリックします。
- 4 「詳細設定」タブをクリックします。
- 5 「プロパティ」欄より「赤外線トランシーバA」を選択し、「値」から「HP HSDL-2300/3600」を選択して[OK]をクリックします。

赤外線通信の実行

通信時の注意

赤外線通信機器の間に障害物を置かないでください。

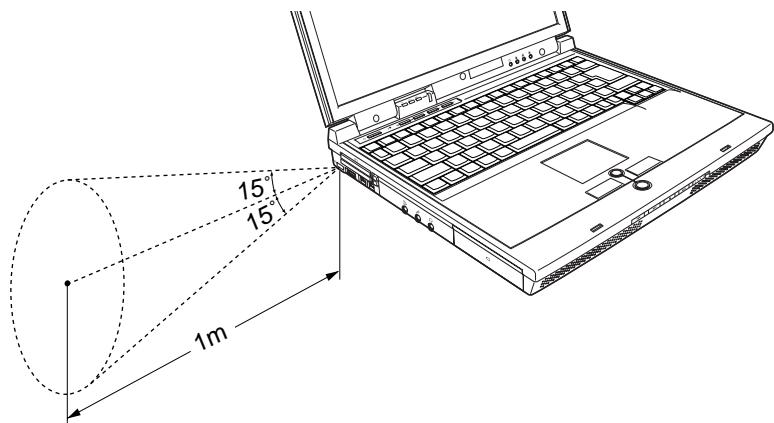
赤外線通信中は、赤外線通信機器を動かさないでください。通信が切断されることがあります。

直射日光や蛍光灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たらないようにしてください。誤動作をすることがあります。

オーディオ機器のリモコンやワイヤレスヘッドホンなどを赤外線通信ポートに向けないでください。誤動作をすることがあります。

通信可能な距離

赤外線通信を行うときは、お互いの赤外線通信ポートが真正面に向い合うように設置して、通信してください。2つの赤外線通信ポートの位置は、1m以内で、角度は垂直水平共に15度以内に設置します。



赤外線通信の実行 「ワイヤレスリンク」を使った赤外線通信は、次の手順で行います。

- 1 2台の赤外線通信ポートを通信可能範囲に設置します。
- 2 赤外線ポートを検出すると、デスクトップに「ワイヤレスリンク」アイコンが表示されます。(Windows XPの場合はタスクバーに表示されます。)
- 3 送信側の「ワイヤレスリンク」をダブルクリックします。
- 4 送信するファイルを指定して[送信]をクリックします。
- 5 受信側に、「このファイルを受信しますか？」と表示されたら[はい]をクリックします。
- 6 「…受信が完了しました。」と表示されたら[閉じる]をクリックします。受信されたファイルは、デスクトップ上に保存されます。

表示装置を使う

本章では、使用可能な表示装置とその切り替え方法について説明します。

本機で表示可能な表示装置は、次のとおりです。

LCDユニット(本体)

外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)

テレビ(S端子が搭載されていないテレビでは表示できません。)

LCDユニット

本機は、14.1型TFT XGAカラーLCD(液晶ディスプレイ)を搭載しています。



LCDの表示中に、次の現象が起きことがあります。これは、カラーLCDの特性により起きるもので故障ではありません。

液晶ディスプレイは、高精度な技術を駆使して230万以上の画素から作られていますが、画面の一部に常時点灯あるいは常時消灯する画素が存在することがあります。

色の境界線上に筋のようなものが現れることがあります。

Windowsの背景の模様や色、壁紙などによってちらついて見えることがあります。この現象は市松模様や横縞模様といった特殊なパターンで、背景が中間色の場合に発生しやすくなります。

明るさの調整

画面の明るさの調整は、次のキーで行います。

キー操作	状態
[Fn] + [F5] (*)	暗くなる
[Fn] + [F6] (**)	明るくなる

バックライトの消灯

本機を使用していない間、バックライトを消灯することで消費電力を抑えることができます。バックライトの消灯は、次の方法で行います。

[Fn] + [F7] を押す：もう一度押すとバックライトが点灯します。

LCDユニットを閉じる：再びLCDユニットを開くとバックライトが点灯します。本機では、LCDユニットを閉じたときの動作の設定変更が行えます。

p.78「LCDユニットを閉じたときの動作」

LCDユニットを閉じたときの動作

LCDユニットを閉じたときにスタンバイモードや休止状態に移るなどの動作を設定できます。初期値は「バックライトを消す」です。

設定は次のプロパティ画面から行います。

Windows 2000の場合 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」-「詳細」タブ

Windows XPの場合 : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」-「詳細設定」タブ



< Windows XPの場合 >

外付けディスプレイ

ディスプレイの接続

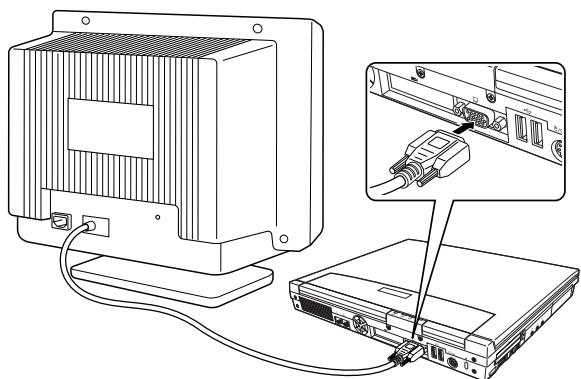
本機では、外付けディスプレイ(アナログタイプのみ)を接続して使用できます。
ディスプレイの接続は、次の手順で行います。

1

本機と外付けディスプレイの電源が切れていることを確認します。

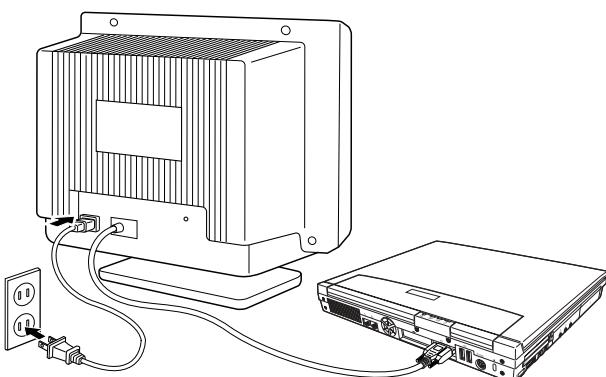
2

外付けディスプレイの接続コードを、本機背面のVGAコネクタに接続します。



3

外付けディスプレイの電源コードを、外付けディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



4

外付けディスプレイと本機の電源を入れます。

外付けディスプレイに表示するには

本機では、外付けディスプレイが接続されているときに、次のようなドライバーモードで表示することができます。

シングルモード

LCD画面と外付けディスプレイのどちらか一方に表示します。

ミラーモード

LCD画面と外付けディスプレイに同じ画面を表示します。

マルチモニターモード (Windows XPのみ)

大きな一つの画面をLCD画面と外付けディスプレイで分割して仮想的に並べた表示ができます。2つのアプリケーションを別々の画面で表示することができます。

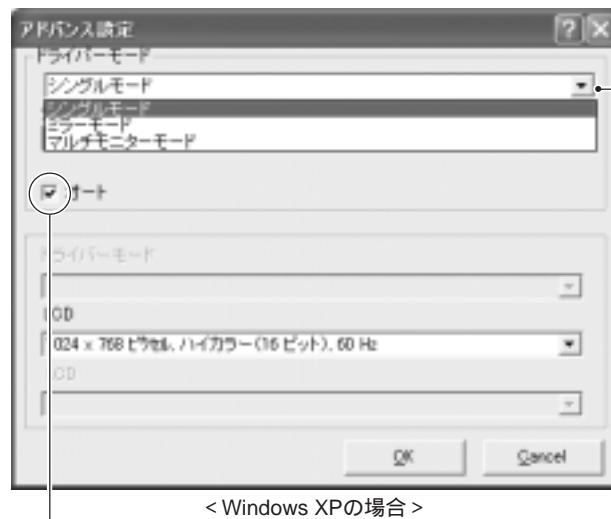
マルチモニターモードの詳細は、p.82をご覧ください。

ドライバーモードの切り替え方法

次の画面で、ドライバーモードの選択と設定を行います。

Windows 2000の場合 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」-「設定」タブ-[詳細]-「ユーティリティマネージャ」タブ-[ドライバーモードの設定]

Windows XPの場合 : [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面」-「設定」タブ-[詳細設定]-「ユーティリティマネージャ」タブ-[ドライバーモードの設定]



< Windows XPの場合 >

チェックが付いていると、接続状態を自動的に認識します。このチェックは外さないでください。

ドライバーモードの切り替えは、キーボード操作でも行うことができます。

[Fn] + [F8]を押すたびに、デスクトップ左上に表示されるドライバーモードの選択画面が切り替わります。設定したいドライバーモードにしてしばらく待つと、自動的にドライバーモードが切り替わります。ただし、マルチモニターモードへの切り替えは、行うことはできません。



接続状態を本機に認識させるため、前ページ図の「オート」項目のチェックは、必ず付けた状態で使用してください。チェックを外すと、表示装置の切り替えを正常に行うことができません。



ビデオプロジェクタの接続

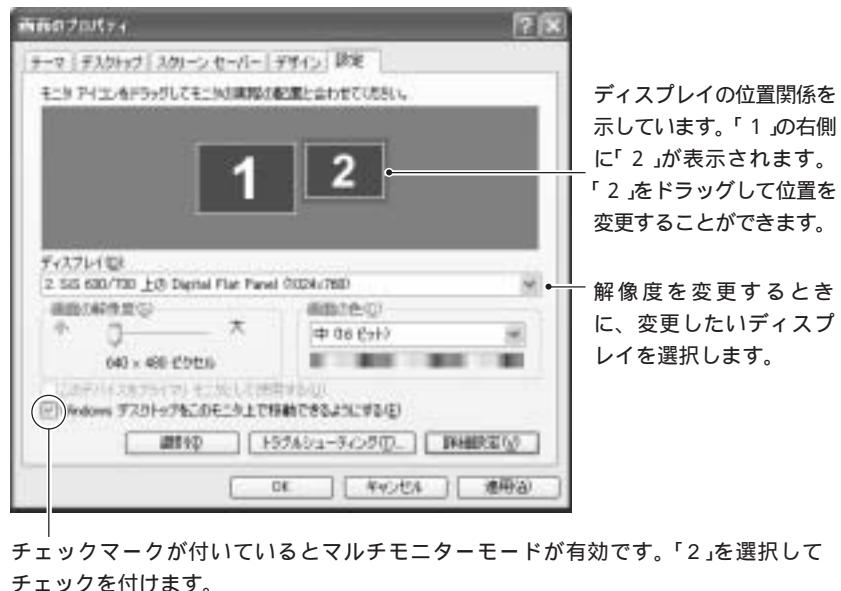
ビデオプロジェクタをVGAコネクタに接続すると外付けディスプレイ同様に表示できます。

セーフモードでの起動

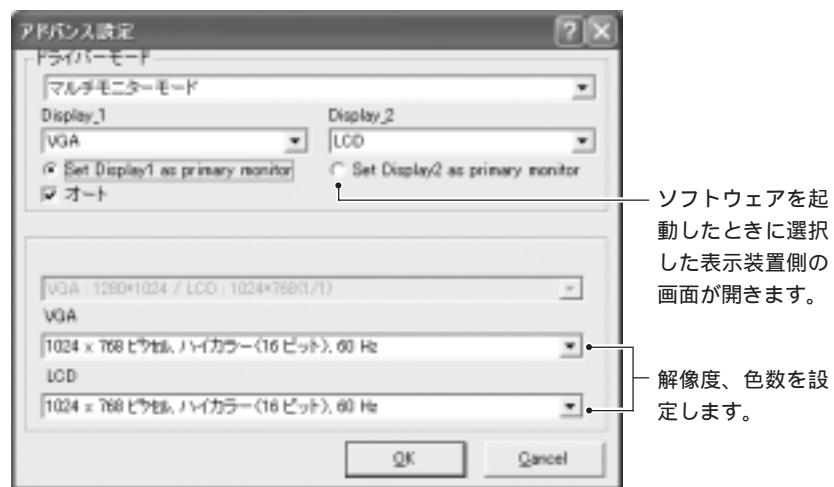
接続しているディスプレイと異なったディスプレイを選択すると、解像度によってはWindowsの画面が正常に表示されないことがあります。このようなときは、セーフモードでコンピュータを起動して、正しく設定し直してください。

p.180「LCDの不具合」

マルチモニター モード (Windows XP) 「ドライバーモード」で「マルチモニターモード」を選択します。画面の指示に従ってWindowsを再起動したあと、「画面のプロパティ」-「設定」タブを開くと、次の画面が表示されます。



マルチモニターモードを使用する場合には、「ディスプレイモード」タブで次のような設定を行うことができます。



表示できる解像度と色数については、次章「解像度や表示色を変更する」をご覧ください。

テレビ

S端子ケーブルを使用してテレビと接続すると、デスクトップ画面をテレビに表示させることができます。S端子ケーブルは市販のものご利用ください。



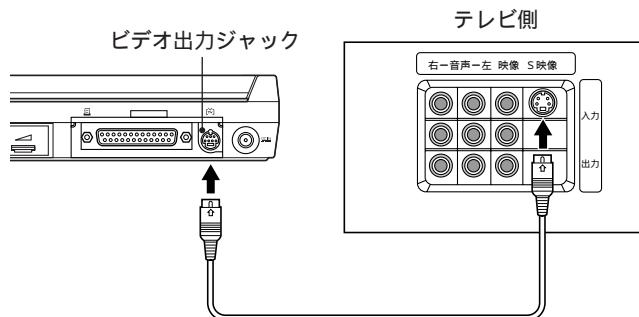
制限

ビデオ出力ジャックから出力される信号は一般的のテレビでの表示が可能になるように変換したNTSC信号です。NTSC信号では、コンピュータ用のディスプレイに使用されるアナログRGB信号のようなきめ細かい表示を行うことはできません。

接続

1 テレビと本機の電源を切ります。

2 市販のS端子ケーブルを使用して、テレビのビデオ入力コネクタ(S端子)と、本機のビデオ出力ジャックを接続します。



3 テレビと本機の電源を入れます。

表示の切り替え
方法

表示の切り替えは、[Fn] + [F8]で行うことができます。[Fn] + [F8]を押すたびに、デスクトップ左上に表示されるドライバーモードの選択画面が切り替わります。設定したいドライバーモードにしてしばらく待つと、自動的に表示が切り替わります。ただし、LCDとテレビへ同時に表示させることはできません。



制限

テレビからLCDへドライバーモードを切り替えると、画面解像度が800 x 600ドット表示に設定されます。

解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度、表示色数の変更や、そのほか表示に関する設定について説明します。変更時には、「Windowsのヘルプ」も参照してください。



セーフモードでの起動

本機のビデオ機能で表示できない解像度を選択すると、Windowsを再起動したときに、画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、セーフモードで起動して再設定を行ってください。

p.180「LCDの不具合」

解像度や表示色を変更するには

本機の画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。

- 1 次の手順で設定画面を表示します。
Windows 2000の場合
① [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」アイコンをダブルクリックします。
② 「画面のプロパティ」画面が表示されたら、「設定」タブをクリックします。
Windows XPの場合
[スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。
- 2 「画面の色」「画面の領域(解像度)」の項目を設定したい内容に変更します。



- 3 項目を変更したら、「適用」をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

表示できる解像度と表示色

本機で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。



一覧表以外の設定を選択することも可能ですが、それらの設定に関しては動作保証をしていません。

CRTの解像度と表示色は、使用するディスプレイの仕様によって表示できない場合があります。

解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトなどを再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてみてください。

ミラーモードでは、LCDとCRT(外付けディスプレイ)は同じ設定でのみ表示できます。

マルチモニターモード(Windows XPのみ)では、LCDとCRTで別の解像度で表示できます。

☞ p.80「外付けディスプレイに表示するには」

Windows 2000
の場合

シングルモード

解像度	表示色	256色	HighColor(16ビット)	TrueColor(32ビット)
640×480 ドット				
800×600 ドット				
1024×768 ドット				
1280×1024 ドット	*	*		*
1600×1200 ドット	*	*		×

* CRTのみ表示可能

ミラーモード

解像度	表示色	256色	HighColor(16ビット)	TrueColor(32ビット)
640×480 ドット				
800×600 ドット				
1024×768 ドット				×

Windows XP
の場合

シングルモード

解像度	表示色	中(16ビット)	最高(32ビット)
640×480 ドット			
800×600 ドット			
1024×768 ドット			
1280×1024 ドット		*	*
1600×1200 ドット		*	×

* CRTのみ表示可能

ミラーモード

解像度	表示色	中(16ビット)	最高(32ビット)
640×480 ドット			
800×600 ドット			
1024×768 ドット			×

マルチモニターモード

解像度	表示色	中(16ビット)	最高(32ビット)
640×480 ドット			
800×600 ドット			
1024×768 ドット			*
1280×1024 ドット		*	×

* CRTのみ表示可能

サウンド機能を使う

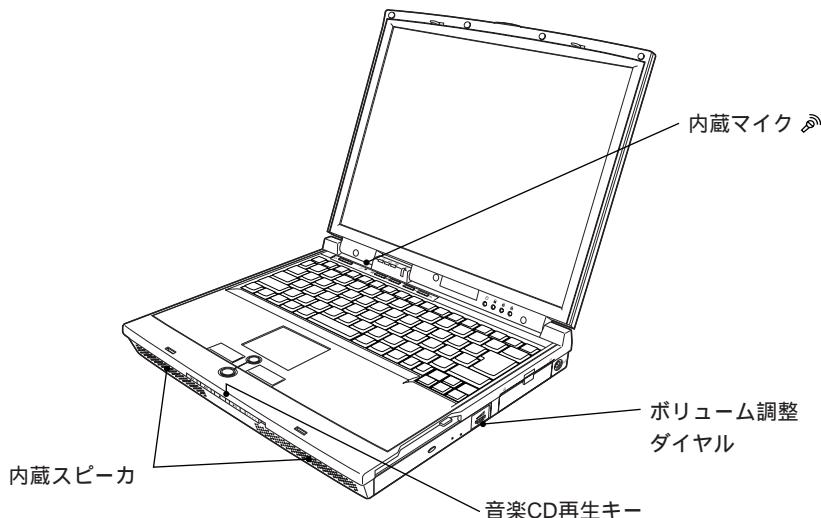
使ってみましょう

本機には、サウンド機能が搭載されています。



注意

ヘッドフォンやスピーカを使用する場合は、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。
ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量により聴覚障害の原因となります。



内蔵マイク

本機のLCDユニットの画面下には、マイク(モノラル)が内蔵されています。この内蔵マイクを使って、音声を録音することができます。

内蔵スピーカ

本機の前面には、スピーカが内蔵されています。この内蔵スピーカを使って、音源からの音声を出力することができます。

スピーカの音量の調整は次の方法で行います。

キー ボード操作

次のキーを押して、音量を調節できます。

[Fn] + [F10]	スピーカ音声出力の入/切を切り替えます。
[Fn] + [F11]	スピーカの音量を小さくします。
[Fn] + [F12]	スピーカの音量を大きくします。

ボリューム調整ダイヤル

手前に回すと小さく、奥に回すと大きくなります。

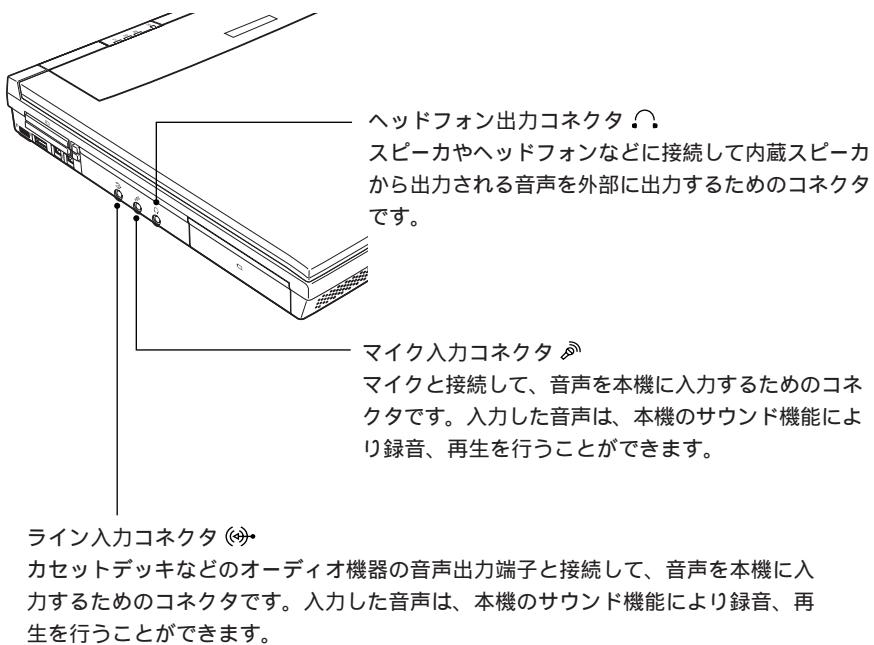


音量調整

使用するPCカード(FAXモデムカードなど)やアプリケーションによっては、別の方法で音量調節ができるようになっている場合があります。この場合は、お使いになるPCカードやアプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

外部オーディオ機器などの接続

本機左側面には、カセットデッキなどのオーディオ機器、外部スピーカやマイクなどを接続するためのコネクタが標準で装備されています。各コネクタの位置と機能は、次のとおりです。



スピーカ、マイクの接続

スピーカやマイクを接続すると内蔵スピーカや内蔵マイクの機能は、自動的に無効になります。

音を鳴らしたり、
録音したりするには Windows標準のサウンドユーティリティを使用します。音楽CD、WAVEファイル、MIDIファイルの再生や、WAVEファイルの作成なども可能です。
サウンドユーティリティは、「スタート」「(すべての)プログラム」「アクセサリ」「エンターテイメント」フォルダに登録されています。

音楽CD再生機能

本機には、音楽CD再生機能が搭載されています。本機前面にある音楽CD再生キーを使用して、音楽CDの再生を行うことができます。さらに、本機前面にある電源キーを使用すれば、Windowsを起動させなくても音楽CD再生機能を使用することができます。

Windows 2000の場合、Windowsが起動した状態で音楽CD再生機能を使用するには、Windows Media Player7.0以上が必要です。Windows Media Player7.0以上は、「Symphonmovie」に登録されています。「Symphonmovie」は購入時にはインストールされています。再インストール時は必要に応じて、「Symphonmovie」をインストールしてください。

各音楽CD再生キーの機能は、次のとおりです。

音楽CD再生キー	機能
電源キー	電源の入/切を行います。
再生キー	再生/一時停止を行います。
停止キー	演奏を停止します。
早送りキー	次のトラックへ進みます。
巻き戻しキー	前のトラックへ戻ります。

使用方法 Windowsを起動させずに音楽CDの再生を行う手順は、次のとおりです。

(電源切断時)

- 1 電源キーをキーマークの方向へスライドさせます。
電源キーの隣にある電源LED(○△)が点灯します。
- 2 薄型ドライブに音楽CDをセットします。
正しくセットされると自動的に演奏が始まります。
自動的に演奏が始まらない場合は、再生キーを押してください。



音楽CD再生中の音量調節は、本体右側面にあるボリューム調整ダイヤルで行います。

FAXモデムを使う

本機には、56Kbps(V.90/K56flex対応)の通信速度に対応したFAXモデム機能が搭載され、高速の通信が可能です。



FAXモデムを次の回線に接続しないでください。発熱し火災の原因となります。

- ・構内交換機(PBX)
- ・2線式でない回線(ホームテレホンやビジネスホンなど)
- ・ISDN対応公衆電話のデジタル側ジャック

お使いになる前に

使用回線について

本機は、ダイヤル回線でもプッシュ回線でも使用できます。使用している回線がどちらかわからないときは、NTTへお問い合わせください。

ダイヤル回線またはプッシュ回線の選択は、添付されている通信ソフトやWindows上で設定することができます。

ダイヤル回線：回転式ダイヤル電話機のように、ダイヤルの戻る時間により(パルス) リダイヤルパルス信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

プッシュ回線：押しボタン電話機のように、「ピ・ポ・パ…」とトーンによる(トーン) 信号を送り、相手につなげる方式の電話回線のことです。

特殊な電話機・ 回線での使用

PBXやホームテレホン回線への接続禁止

本機のFAXモデムは構内交換機(PBX)やホームテレホン、ビジネスホンなどの2線式でない回線に接続して使用することはできません。モデムに必要以上の電流が流れ、故障の原因となります。これらの回線には接続しないでください。

キャッチホンサービスについて

NTTのキャッチホンサービスや他社の類似サービスを利用している場合は、キャッチホンの呼び出し音によって通信中の回線が切断されます。モデムを接続する回線では、キャッチホンサービスの利用を避けてください。
なお、この現象を回避できるサービスについては、NTTまたは、類似サービスの供給元へお問い合わせください。

通信速度の制限

本機のモデム機能は、V.90*およびK56flex**の通信方式により最大受信速度(プロバイダなどの相手側から本機側への方向)は56000bps、最大送信速度(本機からプロバイダなどの相手側への方向)は、33600bpsになります。

ただし、この最大送受信速度は、接続先のプロバイダやアクセスポイントなどの電話回線状況、モデムの性能や送出レベルなどにより変化します。また、接続先のプロバイダなどが同じ規格に対応しており、お客様の電話回線がつながる電話局の交換機とプロバイダまでの通信経路がデジタル化されている必要があります。

*V.90 : ITU-T国際電気通信連合が制定した通信規格

**K56flex : Lucent Technologies社とRockwell Semiconductor Systems社が提唱する通信規格

通信を行う

モデム機能を使って、データ通信やファックス機能を使用するには、別途通信ソフトウェアが必要です。通信ソフトウェアのインストール方法や使い方については、通信ソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

ATコマンドについて

本モデルでは、モデム制御コマンドとして、「ATコマンド」を採用しています。ATコマンドの詳細については、添付の「ドライバCD」の「MODEM」-「ATコマンドリファレンス.pdf」をご覧ください。

インターネットに接続するには

インターネットのホームページを見たり、メールを交換するには、インターネットへの接続が必要です。ここではFAXモデムを使用してインターネットに接続する方法を説明しています。作業の流れは、次のとおりです。

電話回線の接続

本機のFAXモデムコネクタと電話回線を接続します。

 p.14「電話回線へ接続する」



ダイヤルするための準備

ダイヤル情報(「国」や「市外局番」など)を設定します。

 p.95「ダイヤル情報の設定」



プロバイダとの契約とアカウントの登録

個人でインターネットを利用するには、インターネット・サービス・プロバイダ(以降プロバイダ)と契約して、接続のための各種設定を行います。

契約方法には、大きく分けて次の2つの方法があります。

①オンラインで契約する。

電話回線を使用してプロバイダと契約します。インターネットに接続している状態で契約を行うため、画面の指示に従って情報を入力していくと、電話番号の登録やネームサーバーアドレスなどの設定が自動的に行われます。その場で契約してすぐに使えますが支払いについては、クレジットカード決済になります。

②ハガキや電話で申し込み、契約する。

プロバイダにハガキや電話で申し込みをすると、インターネットに接続するための資料が送付されます。資料の内容をもとにインターネット接続のための設定を各自で行います(ダイヤルアップ接続の設定)。支払いについては、銀行振込などが利用できます。

 p.97「手動でダイヤルアップ接続の設定をする」



回線接続前の設定 (Windows XP)

Windows XPで使用する場合に必要な設定をします。

 p.100 「回線接続前の設定(Windows XP)」



接続

インターネットに接続します。ブラウジング(インターネット閲覧)や、メール交換が可能になります。

本書では、ブラウジングソフトウェアとして「Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)」、電子メールソフトウェアとして「Outlook Express(アウトロックエクスプレス)」を使用することを前提に記載しています。

 p.102 「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」



モデルムを使わずにインターネットに接続する

FAXモデルムを使わずに、次の方でインターネットに接続することができます。

ISDN回線を利用する

FAXモデルムの代わりにTA(ターミナルアダプタ)を使用します。接続方法は、TAの取扱説明書をご覧ください。

ネットワークを利用する

インターネットに接続されたLANなどに接続します。ネットワーク管理者の指示に従ってください。

ケーブルテレビの回線を利用する

詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

ADSLを利用する

詳しくは、ADSLサービス会社にお問い合わせください。

プロバイダの選択 プロバイダは、サービスや料金体系、使用頻度やアクセスポイントなどを考慮して、使い方に合わせて選びます。不明点は、プロバイダにご確認ください。

インターネットに インターネットを利用する場合に発生する費用は、以下のとおりです。

かかる費用 初期費用：プロバイダへ契約時に支払います。

入会費、登録料のようなものです。無料の場合もあります。

基本料金：月または年ごとにプロバイダへ支払います。

通信の有無に関わらず請求される一定の料金です。基本料金だけで数時間は無料で使用できます。使用時間別や通話料金込み、使い放題などのコースがあります。

追加課金：基本料金での対応時間を超えた分だけプロバイダへ支払います。

基本料金で使用できる時間を超えると、分あたりいくらという追加料金が加算されます。

通話料金：プロバイダのアクセスポイントまでの通話料金です。契約している電話会社へ支払います。

アクセスポイントとは、プロバイダが用意している接続地点です。プロバイダへ支払う料金が割安でも、アクセスポイントが市内通話エリアにないと通話料金が割高になります。料金無料のプロバイダもありますが、アクセスポイントが遠いときは、別のプロバイダを選んだ方が良い場合があります。市内通話エリア内にプロバイダのアクセスポイントがあるかどうかを確認しておきましょう。

インターネットを使う上での注意 インターネットや電子メールを利用すると簡単に情報が得ることができたり、メッセージを手軽に送ったりすることができますが、注意しなければならないこともあります。次の点に気を付けてインターネットや電子メールを使用してください。

電子メールは、途中経路の障害などにより、必ずしも届くとは限りません。

電子メールは、世界中の多くのコンピュータを経由して届けられるため、セキュリティが確保されません。第三者が内容を見る可能性があります。

インターネット上の情報は、すべてが正しいとは限りません。正しい情報であることを十分に見極めて、有効に活用する必要があります。

ウィルスに感染したメールを受信したり、気づかずに送信してしまうことがあります。

 p.118「コンピュータウィルスの検索・駆除」

ダイヤルするための準備

ダイヤル情報の設定 モデムの設定をしていない場合は、市外局番やダイヤル方法などの設定を行います。

- 1 ダイヤル情報の設定画面を表示します。
Windows 2000の場合：[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」
Windows XPの場合：[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」
- 2 「登録名」、「国/地域」、「市外局番」、「外線発信番号」や「ダイヤル方法」などを設定します。

手動でダイヤルアップ接続の設定をする

はがきや電話で加入申し込みをした場合は、プロバイダから提示された資料に基づいて各種設定を行います(ダイヤルアップ接続の設定)。

本章の手順は、設定方法の一例です。プロバイダより設定方法の資料が提供されている場合は、そちらを参照してください。



接続に関する用語一覧

プロバイダによって設定項目の呼びかたが異なる場合があります。本書での記述とプロバイダが使用する類似名称の一例です。

本書での記述	類似名称
ユーザー名	コネクションID、PPP ログイン名、アカウント名、アカウント、ID、接続ID、ID 番号、接続アカウント、ダイアルアップログイン名
パスワード	PPP パスワード、パスワード、接続パスワード、ダイヤルアップパスワード、初期パスワード、コネクションパスワード
メールアカウント	Mail アカウント名、メールボックス名、メールボックス、メールアカウント名、Mail アカウント
メールパスワード	Mail パスワード、パスワード、初期パスワード
メールサーバ	メールサーバ、POP メールサーバ

ダイヤルアップ接続の設定をする
(Windows 2000)

- 1 [スタート]-「プログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「インターネット接続wizard」をクリックします。
- 2 「インターネット接続wizard」画面が表示されたら、「インターネット接続を手動で設定するか、…」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 3 「インターネット接続の設定」が表示されたら、「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。
- 4 「ステップ1:インターネットアカウントの接続情報」が表示されたら、接続先の電話番号を入力します。
- 5 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は[詳細設定]をクリックして次の設定を行います。
 - ①「詳細接続プロパティ」画面が表示されたら、「アドレス」タブをクリックします。
 - ②「ISPによるDNS(ドメインネームサービス)アドレスの自動項目割り当て」項目の「常に使用する設定」にチェックを付けます。
 - ③「プライマリDNSサーバー」「別のDNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。
- 6 「ステップ1」画面で[次へ]をクリックします。
- 7 「ステップ2:インターネットアカウントのログオン情報」が表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」「パスワード」を入力し、[次へ]をクリックします。
- 8 「ステップ3:コンピュータの設定」が表示されたら、任意の「接続名」を入力し、[次へ]をクリックします。

- 9 「インターネットメールアカウントの設定」が表示されたら、「はい」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 10 プロバイダからの資料をもとに次の設定を行います。
- ① 「表示名」にコンピュータ上の任意の名前を入力して、[次へ]をクリックします。
- ② 「電子メールアドレス」を入力して[次へ]をクリックします。
- ③ 「受信メールサーバー」と「送信メールサーバー」を入力して[次へ]をクリックします。
- ④ 「アカウント名」と「パスワード」を入力して[次へ]をクリックします。
- 11 「インターネット接続ウィザードを終了します」と表示されたら[完了]をクリックします。
「今すぐインターネットに...」にチェックが付いているとInternet Explorerが起動して、「ダイヤルアップの接続」画面が表示されます。
次章「Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方」に進みます。

ダイヤルアップ接続の設定をする
(Windows XP)

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「アクセサリ」-「通信」-「新しい接続 ウィザード」をクリックします。
- 2 「新しい接続ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 3 「ネットワーク接続の種類」と表示されたら、「インターネットに接続する」にチェックが付いている状態で[次へ]をクリックします。
- 4 「準備」と表示されたら、「接続を手動でセットアップする」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 5 「インターネット接続」と表示されたら、「ダイヤルアップモードを使用して接続する」にチェックが付いている状態で[次へ]をクリックします。
- 6 「接続名」と表示されたら、接続先の名前を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「ダイヤルする電話番号」と表示されたら、接続先の電話番号を入力して[次へ]をクリックします。
- 8 「インターネットアカウント情報」と表示されたら、プロバイダから指定されている「ユーザー名」、「パスワード」をそれぞれの項目に入力して[次へ]をクリックします。
- 9 「新しい接続ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 10 [スタート]-「接続」-「(手順6で設定した接続先の名前)」をクリックします。

- 11 [プロパティ]をクリックします。
- 12 プロバイダからDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを指定されている場合は次の設定を行います。
 - ①「ネットワーク」タブ - 「インターネットプロトコル(TCP/IP)」-[プロパティ]をクリックします。
 - ②「次のDNSサーバーのアドレスを使う」にチェックを付けます。
 - ③「優先DNSサーバー」「代替DNSサーバー」に、プロバイダから指定されているDNS(ドメイン・ネーム・サーバー)のIPアドレスを入力し、[OK]をクリックします。
- 13 「全般」タブ - 「ダイヤル情報を使う」にチェックを付けて[OK]をクリックします。
- 14 「(接続先)へ接続」画面で[キャンセル]をクリックします。

回線接続前の設定(Windows XP)

Windows XPでは、回線に接続する前に次の設定を行います。

- | | |
|----------|---|
| 接続に関する設定 | 回線接続前に次の設定を行います。
接続に関する設定は次のとおりです。
接続方法の設定
電話回線を使用して、インターネットに接続するように設定します。
切断画面の設定
InternetExplorerを終了した際に、インターネットとの切断画面を表示するように設定します。 |
|----------|---|

接続に関する設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「ネットワークとインターネット接続」-「インターネットオプション」-「接続」タブをクリックします。
- 2 「通常の接続でダイヤルする」にチェックを付けます。
(接続方法の設定)
- 3 [設定]-[詳細設定]をクリックします。
- 4 「接続が必要なくなったとき切断する」にチェックを付けて[OK]をクリックします。(切断画面の設定)
- 5 「(接続先の名前)の設定」画面で[OK]をクリックします。
- 6 「インターネットのプロパティ」画面で[OK]をクリックします。これでインターネットへの自動接続・切断の設定は終了です。

Outlook Expressの初期設定

Outlook Expressをはじめて起動した際には、メールアドレスなどいくつかの情報を入力する必要があります。「オンライン契約」では、この設定が必要ない場合があります。

初期設定は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]-「すべてのプログラム」-「Outlook Express」をクリックします。
- 2 「インターネット接続ウィザード」画面で、「名前」と表示されたら、名前を入力して[次へ]をクリックします。
- 3 「インターネット電子メールアドレス」と表示されたら、プロバイダから取得した電子メールアドレスを入力して[次へ]をクリックします。
- 4 「電子メールサーバー名」と表示されたら、プロバイダから指定されているサーバー名を入力して[次へ]をクリックします。
- 5 「インターネットメールログオン」と表示されたら、プロバイダから指定されているアカウント名とパスワードを入力して[次へ]をクリックします。
- 6 「設定完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。



初期設定をあとから行う

Outlook Expressの初期設定を行わなかった場合は、Outlook Expressの次の場所で、設定を行うことができます。

「ツール」メニュー -「アカウント」-[追加]-「メール」

Internet ExplorerとOutlook Expressの使い方

この章では、インターネットを利用するためのソフトウェアの使い方について簡単に説明しています。詳しい使い方は、各ソフトウェアのオンラインヘルプをご覧ください。

Internet Explorer(インターネットエクスプローラ)

インターネットのホームページを閲覧するためのソフトウェアです。

Outlook Express(アウトルックエクスプレス)

メールを書いたり、送受信するためのソフトウェアです。

起動方法

起動方法は、次のとおりです。

1

ソフトウェアを起動します。

Internet Explorer

- ・[スタート]-「(すべての)プログラム」-「Internet Explorer」
- ・キーボードの \textcircled{E} キーを押します。

Outlook Express

- ・[スタート]-「(すべての)プログラム」-「Outlook Express」
- ・キーボードの \textcircled{E} キーを押します。

Outlook Expressで、「オンラインに切り替えますか？」と表示されたら、メール送受信を行なう場合は、[はい]をクリックしてください。

Windows XPでOutlook Expressの初期設定をまだ行っていない場合は、初期設定を行ないます。

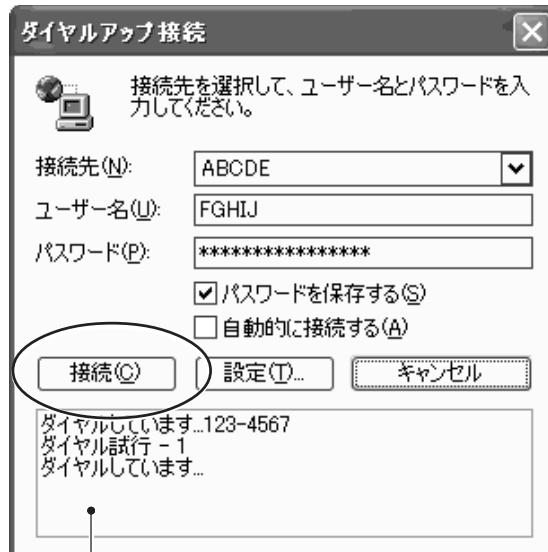
 p.101「Outlook Expressの初期設定」

2

「ダイヤルアップ接続」画面が表示されます。「接続先」「ユーザー名」「パスワード」を入力します。

自動的に入力されている項目もあります。

3 入力内容を確認して[接続]をクリックします。



[接続]をクリックすると接続状態が表示されます

4 接続するとユーザー名や、パスワードの確認が行われます。

接続が完了すると、タスクバーに次の接続アイコンが表示されます。



「Outlook Express」使用時のインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。

終了方法

Internet
Explorer
の場合

Internet Explorerの終了方法は、次のとおりです。

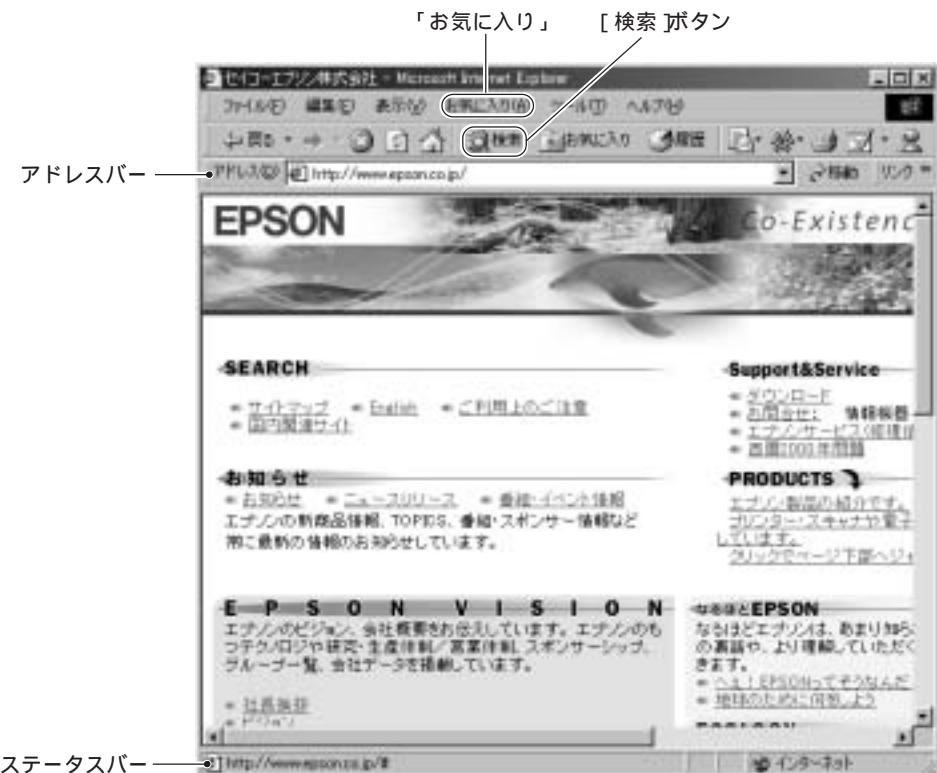
- 1 画面右上の[X]をクリックして、「Internet Explorer」を終了します。
- 2 「自動切断」画面が表示されます。[今すぐ切断する]をクリックします。

Outlook
Express
の場合

Outlook Expressの終了方法は、次のとおりです。

- 1 インターネットに接続している場合は、「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。
- 2 「オフライン状態にする前に、モデム回線を切断しますか？」と表示されたら、使用状況によって選択します。通常は[はい]をクリックします。
- 3 画面右上の[X]をクリックして、「Outlook Express」を終了します。

Internet Explorerの使い方



見たいホームページを開くには

- ・アドレスバーにURLアドレスを入力して を押します。
- ・キーワードを使って検索します。
- ・[検索]ボタンを押して、検索画面でキーワードを入力します。

「お気に入り」にページを登録する

頻繁にアクセスするページは、「お気に入り」に登録しておくと、「お気に入り」をクリックするだけで一覧が表示され、すぐにアクセスすることができます。
登録方法：「お気に入り」-「お気に入りに追加」をクリックします。

リンクしているページにジャンプする

ホームページの画面上でポインタが から に変わる場所があります。
 に変わる場所をクリックすると、リンク先のページ(ステータスバーに表示されているアドレス)にアクセスできます。

Outlook Expressの使い方



接続の状態を表示します。

オンライン：インターネットに接続しています。

オフライン：インターネットに接続していません。



メールの作成とインターネット接続

インターネット接続されていないとメールの送受信はできませんが、メールの作成時や受信メールを読むときは、インターネットに接続されている必要はありません。『Outlook Express』使用時にインターネット接続を切断するには「ファイル」-「オフライン作業」をクリックします。

メールを送信する
(オンラインの場合)

- 1 [新しいメール【Windows XPでは「メールの作成】]をクリックしてメール作成画面を表示します。
- 2 必要事項「宛先」「件名」「本文」を入力してメールを作成します。
- 3 [送信]をクリックします。

メールを送信する
(オフラインの場合)

- 1 オンラインの場合の手順1、2を参照して、メールを作成します。
- 2 [送信]をクリックすると、「送信トレイ」フォルダにメールが一時保存されます。「...[送受信]コマンドを実行するまで、[送信トレイ]に置かれます。」とメッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。
複数のメールを作成し、一度に送信することができます。
- 3 [送受信]をクリックし、「オフラインで作業しています。オンラインに切り換えますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 4 「ダイヤルアップ接続」画面で、[接続]をクリックします。
接続が完了すると、「送信トレイ」に保存されていたメールが送信されます。

メールを受信する

- 1 「Outlook Express」を起動してインターネットに接続すると自動的に受信します。
インターネットに接続されていない場合は、[送受信]をクリックすると接続作業が行われます。
- 2 受信したメールはフォルダの「受信トレイ」に格納されます。
「受信トレイ」をクリックすると、画面右側に、受信メールの一覧と内容が表示されます。

アドレス帳を作る

アドレス帳にメールアドレスを登録しておくと、メールを送信するときに宛先をアドレス帳から選択できます。

- 1 [アドレス]をクリックします。
- 2 [新規作成]をクリックして、[新しい連絡先]をクリックします。
- 3 情報を登録します。「表示名」と「電子メールアドレス」は必ず入力します。

メールユーティリティ

「メールユーティリティ」は、「Outlook Express」または「Outlook」と組み合わせて使用します。「Outlook Express」や「Outlook」使用時、未開封メールがあることをメールLEDの点灯で知ることができます。「メールユーティリティ」は、購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールを行ってください。

「メールユーティリティ」のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」を薄型ドライブにセットします。
- 2 正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 3 表示された項目から「そのほかのインストール」を選択して[開始]をクリックします。
- 4 「...インストールするドライバソフトウェアを選択してください。」と表示されたら、「メールユーティリティ」を選択して[インストール開始]をクリックします。
- 5 「Welcome」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。
- 6 「Choose Destination Location」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。
- 7 「Select Program Folder」画面が表示されたら、[Next]をクリックします。
- 8 「Setup Complete」画面が表示されたら、[Finish]をクリックします。

省電力機能を使う

省電力機能を使用すると消費電力を抑えることができます。特にバッテリだけでコンピュータを使用する場合は、省電力モードに移行することでバッテリの使用可能時間を延ばすことができます。

また、本機に搭載されている「AMD PowerNow!テクノロジ」を使用すると、CPU速度を自動的に調整して、消費電力を抑えることができます。

本章では、Windowsでの省電力機能と「AMD PowerNow!テクノロジ」について説明しています。



ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、正常に通常モードへ復帰できない場合があります。

NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに移行すると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。

- ・切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・再起動する。
- ・省電力モードを無効にする。

CD-Rメディア、CD-RWメディアへの書き込み中に省電力モードに移行すると、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを行う場合は、省電力モードを無効にしてください。

☞ p.62、66「メディア書き込み時の注意」

省電力モードに移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書やデータなど)を保存しておいてください。

赤外線通信や、FAXモデムカード、ネットワークカードなどのPCカードを使って通信を行っている場合は、省電力モードに移行しないでください。通信が切断されることがあります。

サウンド機能を使って録音・再生している場合に、省電力モードに移行するとサウンド機能が正常に動作しない可能性があります。

省電力モード移行中にPCカードの抜き差しを行わないでください。システムが正常に動作しなくなる場合があります。

省電力機能の種類

省電力機能には、次の3つのモードがあり、状況に応じて使い分けることができます。

HDD/ディスプレイの電源を切る

HDDやディスプレイの電源を切れます。省電力の効果は、スタンバイより低いですが、通常モードにすぐに復帰できます。

スタンバイ

作業内容をメモリに保持した状態でコンピュータの動作を中断します。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常モードへは、数十秒で復帰できます。

休止状態

作業内容をHDDに保存して電源を切れます。電源スイッチを切った状態と同様に電力を消費しません。通常モードへの復帰には多少時間がかかります。

ローバッテリ省電力機能

本機はローバッテリ省電力機能により、バッテリ残量が低下したときに上記の省電力モードに移行します。

購入時の設定は、次のとおりです。

バッテリ残量低下を通知するバッテリ残量	10%
バッテリ切れを通知するバッテリ残量	3%
バッテリ切れのコンピュータの動作	休止状態に移行する

バッテリ残量低下時の通知方法や、通知する残量の設定を変更することができます。

 p.38「バッテリアラームの設定」

Windows 2000インストールモデルの場合、Windowsの再インストールを行うと、「バッテリ切れのコンピュータの動作」は「スタンバイ」に設定されます。必要に応じて再設定を行ってください。

電源ランプの表示 省電力モードの状態は、電源ランプの点灯または点滅によって確認できます。

動作状態	電源ランプの表示
通常モード	緑点灯
HDD/ディスプレイの電源を切る	緑点灯
スタンバイ	緑点滅
休止状態	消灯
電源切断時	消灯

休止状態を有効にする

休止状態を有効にするには、「電源オプション」の「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」にチェックを付けます。購入時は有効に設定されています。

「休止状態」タブは次の場所にあります。

Windows 2000 : [スタート]-「コントロールパネル」-「電源オプション」

Windows XP : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」



Windows 2000インストールモデルの場合、Windowsの再インストールを行うと休止状態の設定が無効になります。必要に応じて再設定を行ってください。

実行方法

省電力機能を実行するには、大きく分けて2つの方法があります。省電力モードを実行する場合は、万一正常に復帰できない場合に備え、使用中のデータ(作成中の文書など)を保存しておくことをおすすめします。

① 時間経過で実行

設定した時間を超えてコンピュータを使用しないとディスプレイの電源が切れたり、省電力モードに移行したりします。

② 直ちに実行

席を外すときなどに、強制的に省電力モードに移行します。

省電力に関する各種設定は、次の画面の各タブで行います。

Windows 2000:[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」

Windows XP :[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」

時間経過で実行

省電力モードに移行する時間の設定は、「電源設定」タブで行います。

購入時の設定は、下図のとおりです。Windows 2000インストールモデルの場合、再インストールを行うと電源設定が変更されます。必要に応じて再設定を行ってください。



<Windows XPの場合>

設定した時間を超えて何も操作しないと、各省電力モードに移行します。

直ちに実行

次の方法でスタンバイ、または休止状態に移行します。

[スタート]-「シャットダウン」または「終了オプション」から選択、実行する。

Windows XPの場合、[スタート]-「終了オプション」で[Shift]キーを押すと、「スタンバイ」から「休止状態」に表示が切り替わります。「休止状態」をクリックします。

LCDユニットを閉じる。

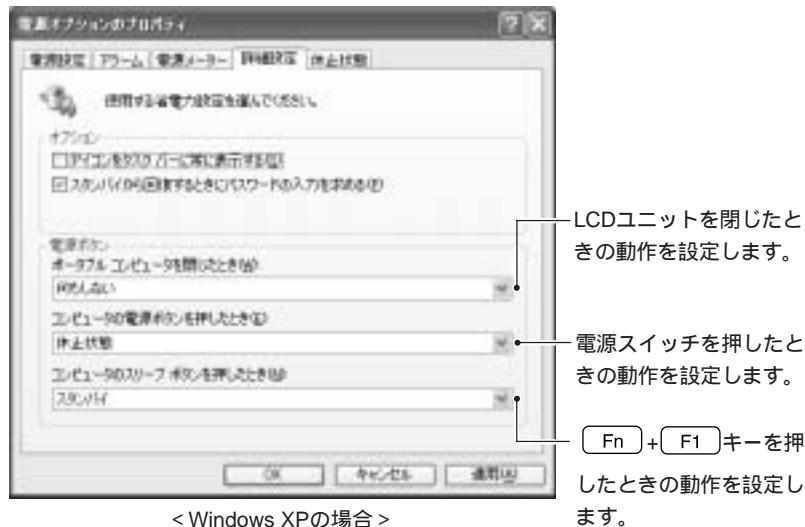
電源スイッチを押す。

[Fn] + [F1]を押す。

「LCDユニットを閉じる」「電源スイッチを押す」「[Fn] + [F1]キーを押す」を実行したときにどのモードに入るかは、「詳細(設定)」タブで設定することができます。

購入時の設定は、次のとおりです。Windowsの再インストールを行うと、設定の一部が変更されます。必要に応じて再設定を行なってください。

- ・ LCDユニットを閉じる : 何もしない(バックライトの消灯)
- ・ 電源スイッチを押す : 休止状態
- ・ [Fn] + [F1]キーを押す : スタンバイ



復帰方法

省電力モードから復帰して通常モードに戻る方法は、次のとおりです。

省電力モード	電源ランプ	復帰方法
HDD、モニタの電源 が切れている状態	緑点灯	タッチパッド、キーボードを操作する。(誤って電源スイッチを押さないでください。)
スタンバイ	緑点滅	電源スイッチを押す。 キーボードを操作する。
休止状態	消 灯	電源スイッチを押す。

AMD PowerNow!™テクノロジ

本機は、CPU速度を調節して消費電力を抑えるAMD PowerNow!テクノロジを搭載しています。周波数の高いCPUは処理速度が速い分、消費電力が多くなります。AMD PowerNow!テクノロジを使用すると、CPUの使用率によってCPUの速度を調整するため、消費電力を抑えることができます。

AMD PowerNow!には、次の3つのモードがあります。

自動モード

処理内容に合わせて、CPU速度が自動的に調整されます。

バッテリ節電モード

CPU速度を常に低く設定して、消費電力を抑えます。

ハイパフォーマンスマード

CPUは常に最速で動作します。

Windows 2000 AMD PowerNow!のモード設定は、次の場所で行います。

の場合

[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電源オプション」-「AMD PowerNow! (tm) Technology」タブ



AMD PowerNow!のモードを設定します。

Windows XP の場合

AMD PowerNow!のモードは、次の場所の設定により自動的に切り替わります。
[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「電源オプション」-「電源設定」タブの「電源設定」

「電源設定」の設定と、自動的に設定されるAMD PowerNow!のモードは次のとおりです。

電源設定	AMD PowerNow!のモード	
	電源に接続	バッテリ使用
自宅または会社のデスク	ハイパフォーマンス	自動
ポータブル/ラップトップ(初期値)	自動	自動
プレゼンテーション	自動	バッテリ節電
常にオン	ハイパフォーマンス	ハイパフォーマンス
最小の電源管理	自動	自動
バッテリの最大利用	自動	バッテリ節電

現在のCPU速度を確認するには、[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システム」をクリックして、「システムのプロパティ」画面を開きます。



コンピュータウィルスの検索・駆除

本機にはコンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「Norton AntiVirus2002」が添付されています。購入時には「Norton AntiVirus2002」がインストールされていませんので、インストールを行ってください。

 p.119「インストールする前に」

コンピュータウィルスとは

第三者のプログラムやデータベースに対して意図的に何らかの被害を及ぼすように作られたプログラムです。外部とデータをやり取りすることで感染する危険があります。インターネットや電子メールの普及とともに、コンピュータウィルスに感染する可能性はますます高くなっています。

ウィルスの被害に遭わないために

コンピュータウィルスの被害に遭わないために、次の内容を実施することをおすすめします。

ウィルス検出ソフトを使用し、データファイルは常に最新のものを使用する。

メールの添付ファイルは、ウィルスチェックをしてから開く。

外部から持ち込まれたFDやダウンロードしたファイルは、ウィルスチェックをしてから使用する。

万一のウィルス被害に備えてデータのバックアップを取る。

ウィルスに感染してしまったら

コンピュータウィルスに感染してしまった場合は、感染被害の拡大と再発防止のため、「情報処理振興事業協会」に届け出してください。

詳しくは、「情報処理振興事業協会」の下記アドレスを参照してください。

<http://www.ipa.go.jp>

インストールする前に

Norton AntiVirus2002をインストールする前に、ウィルス定義ファイルについて必ずご確認ください。

ウィルス定義ファイルとは

ウィルス情報が登録されているファイルです。Norton AntiVirus2002は、ウィルス定義ファイルを使用して、お使いのコンピュータにウィルスが侵入しないように、常に監視します。新種のウィルスからお使いのコンピュータを守るために、最新のウィルス定義ファイルに更新していく必要があります。

更新するためには

ウィルス定義ファイルの更新(購読)は、Norton AntiVirus2002のLiveUpdate機能を使用して行います。LiveUpdate機能を使用するためには、インターネットへの接続環境が必要です。

LiveUpdate機能についての詳細は、Norton AntiVirus2002のヘルプ、またはオンラインマニュアルをご覧ください。

☞ p.122「Norton AntiVirus2002の使い方」

更新期限について

ウィルス定義ファイルの更新には期限が定められています。本コンピュータに添付のNorton AntiVirus2002は製品版ではありませんので、更新期限は、Norton AntiVirus2002をインストールしてから90日間になります。90日間は、無償でウィルス定義ファイルを更新することができます。

ただし、90日経過以降にウィルス定義ファイルを更新する場合は、Symantec社に購読サービスの継続を申し込み、更新権を購入(有償)する必要があります。更新権を購入する際は、次のアドレスをご覧ください。

<http://shop.symantec.co.jp/AttachmentKey.asp>

更新権が無効になる場合

更新権を購入してウィルス定義ファイルの購読サービスを継続している場合に、次の事項を行うと、更新権が無効になり、再度更新権を購入(有償)する必要があります。あらかじめご了承ください。

Windowsを再インストールする

Windowsをアップグレードする

リストア(システムを復元)する

ウィルス定義ファイルの更新についての詳細は、Symantec社のホームページでもご覧いただけます。

<http://www.symantec.co.jp>

Norton AntiVirus2002のインストールとセットアップ

Norton AntiVirus2002では、インストールを行ったあとに、セットアップを行います。これらの作業は、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限を持っているユーザー名でログオンして行ってください。

インストール方法 Norton AntiVirus2002のインストール手順は、次のとおりです。

- 1 薄型ドライブに「ドライバCD」をセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「Norton AntiVirus のインストール」を選択して[開始]をクリックします。
- 3 「Norton AntiVirus2002 Installation Wizard へようこそ」と表示されます。[次へ]をクリックします。
- 4 「ライセンス契約書」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。
- 5 「宛先フォルダ」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 6 「アプリケーションのインストール準備をする」と表示されたら、[次へ]をクリックします。インストールが始まります。
- 7 「Readme 情報」と表示されたら、内容を確認して、[次へ]をクリックします。
- 8 「Norton AntiVirus2002は、正常にインストールされました。」と表示されたら、CD-ROMを取り出し、[終了]をクリックします。
- 9 [スタート]メニューからコンピュータを再起動します。コンピュータが再起動すると、Norton AntiVirus2002のインストールは終了です。

セットアップ方法 Norton AntiVirus2002のインストールが終了したら、セットアップを行います。セットアップ手順は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「(すべての)プログラム」-「Norton AntiVirus」-「NortonAntiVirus2002」をクリックします。
- 2 「Norton AntiVirus 情報更新ウィザード」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 3 「使用許諾契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。
- 4 「購読サービス」と表示されたら、内容をよくお読みになり[次へ]をクリックします。
ここでは、ウィルス定義ファイルの更新に関する重要な内容が表示されます。必ずお読みください。
- 5 「インストール後のタスク」と表示されます。実行したい各項目にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
LiveUpdateを実行する場合は、インターネット接続環境が必要です。インターネット接続環境が整っていない場合は、チェックを外します。
- 6 「概略」と表示されたら、「インストール後のタスク」と「設定」の内容を確認して[完了]をクリックします。
- 7 手順5で設定したタスクが実行されます。以降は、画面の指示に従ってセットアップを行ってください。タスクが終了すると、Norton AntiVirus2002のセットアップは終了です。

Norton AntiVirus2002の使い方

Norton AntiVirus2002の詳しい使用方法や操作方法などについては、Norton AntiVirus2002のヘルプやオンラインマニュアルをご覧ください。

Norton AntiVirus2002のヘルプ

「Norton AntiVirus2002」を起動して「ヘルプ」をクリックすると、ご覧いただけます。

オンラインマニュアル

「ドライバCD」に、PDF ファイルで登録されています。

オンラインマニュアルを開く方法は、次のとおりです。

- 1 薄型ドライブに「ドライバCD」をセットします。
自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されますが、特に操作を行う必要はありません。
- 2 「マイコンピュータ」のCD-ROM アイコンを右クリックして「開く」を選択します。(Windows XP では、[スタート] - 「マイコンピュータ」)
- 3 「NAV2002」 - 「MANUAL」 - 「NAV2002」にある PDF ファイルをダブルクリックします。



PDF ファイルをコピーする

デスクトップ上にPDF ファイルをコピーしておくと、以降はPDF ファイルのアイコンをダブルクリックするだけで、マニュアルを見るることができます。

Norton AntiVirus2002使用時の注意

Norton AntiVirus2002がインストールされている状態で、新しくデバイスドライバやソフトウェアをインストールすると、インストール中に「警告」画面が表示されることがあります。このような場合は、下記を参照して、対処してください。

弊社製のドライバやソフトウェアをインストールしている場合

インストール作業を続行してください。メッセージ内の「処理」欄から、「スクリプト全体を1回実行する」を選択して、インストール作業を続行します。
弊社製のドライバやソフトウェアには、主に次のようなものがあります。

- ・コンピュータに添付のCDに登録されているドライバやソフトウェア
- ・バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDに登録されているドライバやソフトウェア
- ・弊社ホームページよりダウンロードしたドライバやソフトウェア

弊社製以外のドライバやソフトウェアをインストールしている場合

インストールを中止してください。その後、ドライバやソフトウェアの製造元にお問い合わせください。

弊社製以外のドライバやソフトウェアには、主に次のようなものがあります。

- ・弊社以外から購入した製品に添付されているドライバやソフトウェア
- ・ホームページ上のソフトウェア

そのほかの機能

ネットワーク機能

本機には、ネットワーク機能が搭載されています。

ネットワーク機能を使用して、ネットワークを構築するには、ほかのコンピュータと接続するためにネットワークケーブル、ハブやサーバなどが必要です。そのほかに、Windows上で、ネットワーク接続に必要なプロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築は、お使いになるネットワーク機器のマニュアルやネットワーク管理者の指示に従って行ってください。



NetWareサーバを利用している場合やNetBEUIを使用してネットワークに接続している場合に、省電力モードに入ると、省電力モードからの復帰時にサーバから切断されてしまうことがあります。

このような場合は次のいずれかの方法をとってください。

- ・切断後に再度ログオンする。(NetWareのみ)
- ・再起動する。
- ・省電力モードを無効にする。

ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力モードに移行すると、通常モードへ復帰できない場合があります。

パラレルコネクタ

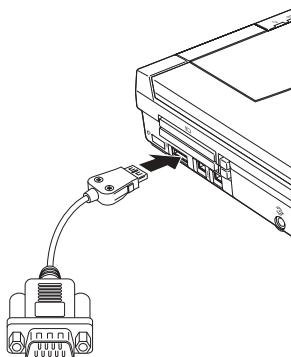
本機右側面のパラレルコネクタには、プリンタやスキャナなどを接続します。

本機では、パラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setupユーティリティ」で変更してください。

☞ p.144「Advanced」メニュー画面 - 「I/O Device Configuration」

シリアルコネクタ

本機左側面に変換コネクタを装着すると、シリアルコネクタが使用できるようになります。



シリアルコネクタには、シリアルマウスやTA(ターミナルアダプタ)などを接続します。本機では、シリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常は、シリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「 BIOS Setupユーティリティ 」で変更してください。

p.144「 Advanced 」メニュー画面 - 「 I/O Device Configuration 」

USBコネクタ

本機背面には、USBコネクタが2個用意されています。どちらのコネクタも同じ機能です。接続する周辺機器によってはデバイスドライバが必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

接続と取り外し

USB機器の接続や取り外しは通常、電源が入った状態で行えます。ただし、タスクバーに次のようなアイコンが表示される場合は、Windows上での終了処理が必要です。詳しくは、接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



IEEE1394コネクタ

本機左側面には、IEEE1394コネクタが2個用意されています。コネクタの形状は4ピンになっています。接続する周辺機器によって、デバイスドライバが必要です。詳しくは、接続する機器に添付のマニュアルをご覧ください。

接続と取り外し

IEEE1394機器の接続や取り外しは通常、電源が入った状態で行えます。ただし、タスクバーに次のようなアイコンが表示される場合は、Windows上での終了処理が必要です。詳しくは、接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



ビデオ編集をする

本機には、ビデオ編集のためのソフトウェア『Symphomovie』がインストールされています。デジタルビデオからの画像の取り込み、編集を行うことができます。デジタルビデオとの接続や、編集方法など『Symphomovie』のくわしい使用方法は、『Symphomovieユーザーズマニュアル』をご覧ください。

システムを拡張する

メモリの増設やコンピュータに接続できる機器について説明します。

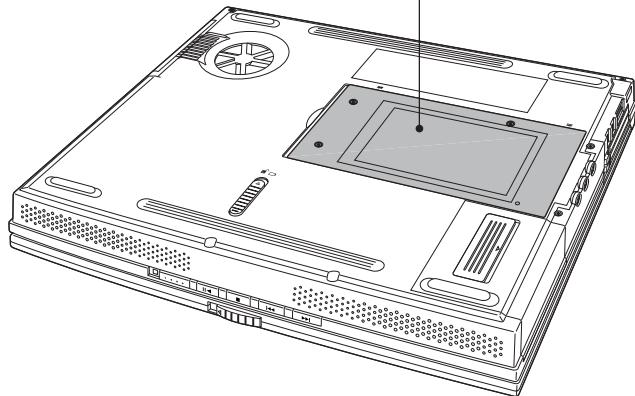
拡張できる装置

本機内部のメモリを増設して機能を拡張することができます。

メモリモジュール

本機には、メモリスロットが2本用意されており、内蔵メモリを1GB(512MB×2)まで拡張することができます。内蔵メモリを増やせば、より快適に本機を使用することができます。

 p.129「メモリモジュールの増設」



メモリモジュールの増設

本機には、2つのメモリスロットが用意されています。メモリスロットにSODIMMを増設することで内蔵メモリを1GBまで拡張することができます。本機で使用可能なSODIMMの仕様は、次のとおりです。

144ピンSODIMM(Single Outline Dual Inline Memory Module)

メモリ容量 128MB/256MB/512MB

上記仕様と一致するSODIMMを弊社のオプションより選択してください。

作業時の注意

SODIMMを増設する場合は、次の点に注意してください。



警告

電源コンセントに電源プラグを接続したまま、あるいはバッテリパックをセットし
たままで分解しないでください。感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



注意

SODIMMの増設・交換は、本製品の内部が高温時には行わないでください。
火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷め
てから行ってください。
不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落
ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



本機は電源を切ってもコンピュータ内部に微少な電気が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外し、バッテリを抜いてください。

作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。SODIMMやコンピュータに静電気が流れ、基板上の部品が破損するおそれがあります。

SODIMMを持つときは、SODIMMの端子部や素子に触れないでください。

SODIMMの破損や接触不良による誤動作の原因になるおそれがあります。

装着する方向を間違えないでください。SODIMMが抜けなくなるなど故障の原因になります。

SODIMMを落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。

SODIMMの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

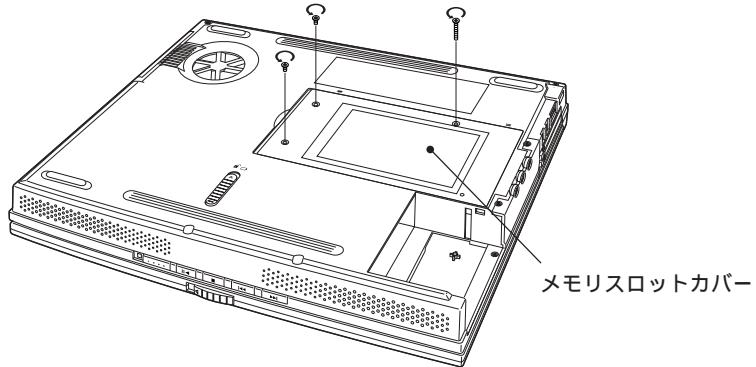
SODIMMの増設

SODIMMの増設は、次の手順で行います。

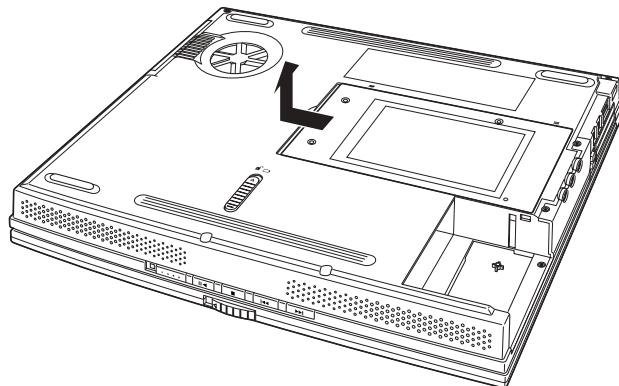
SODIMMの取り付け

- 1 本機の電源を切ります。
- 2 本機に接続されているすべてのケーブルを外します。
- 3 本機底面を上にして置きます。
- 4 バッテリを取り外します。
SODIMMを交換する前に必ず取り外してください。
 p.41「バッテリの交換」

5 メモリスロットカバーのネジ(3本)を外します。

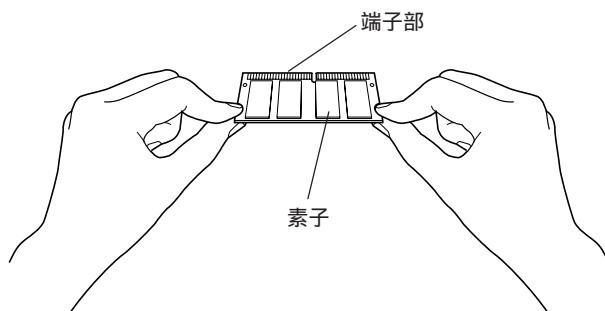


6 メモリスロットカバーを矢印の方向にスライドさせてから、持ち上げて取り外します。



7 SODIMMを梱包から取り出します。

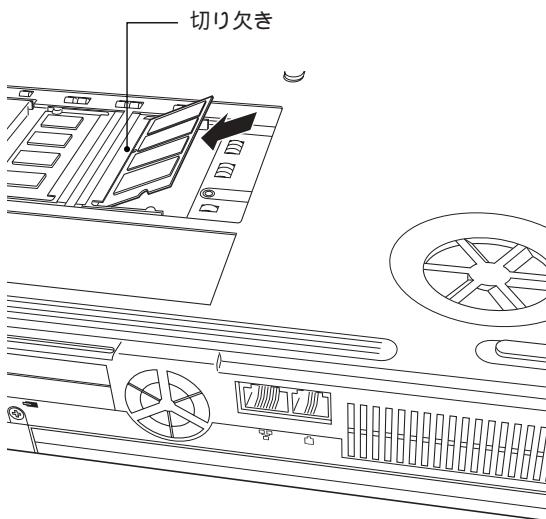
取り出すときは、SODIMMの端子部や素子に触れないように持ちます。



8

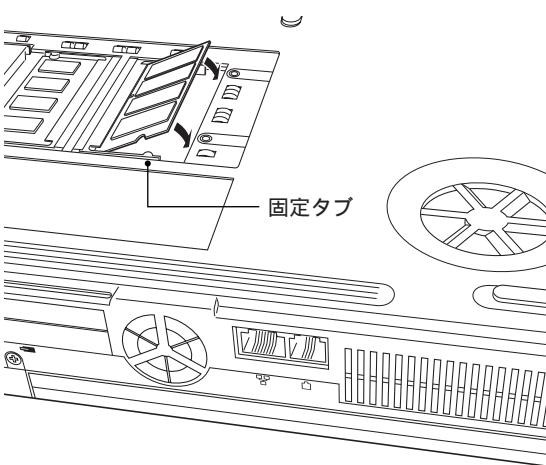
SODIMMを差し込みます。

切り欠きを突起に合わせ、SODIMMを約45度の角度でメモリソケットに差し込みます。



9

固定タブがカチッと音がするまでSODIMMを静かに倒します。



10

メモリスロットのカバーを取り付け、ネジで固定します。

11

バッテリを取り付けます。

☞ p.41「バッテリの交換」手順4

12

「BIOS Setupユーティリティ」を起動して、総メモリ容量を確認します。

- ①コンピュータの電源を入れて、**F2**を押し、「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。

☞ p.137「BIOS Setupユーティリティの起動」

- ②「Main」メニュー画面 - 「Installed Memory」で総メモリ容量を確認します。

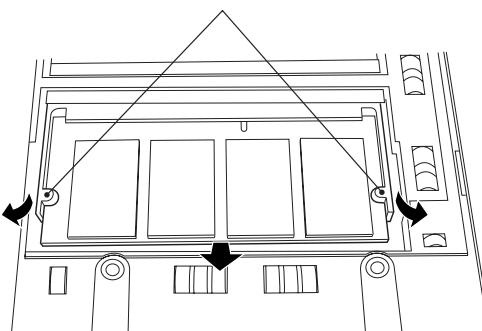
装着した容量だけ、メモリ容量が増えていれば作業は完了です。「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。容量が増えていない場合は、SODIMMが正しく装着されていないことが考えられます。電源を切ってからSODIMMを装着し直してください。

SODIMMの取り外し

ソケットの固定タブを外側に広げるとSODIMMが起き上がります。起き上がったSODIMMの両端を持って静かに引き抜きます。

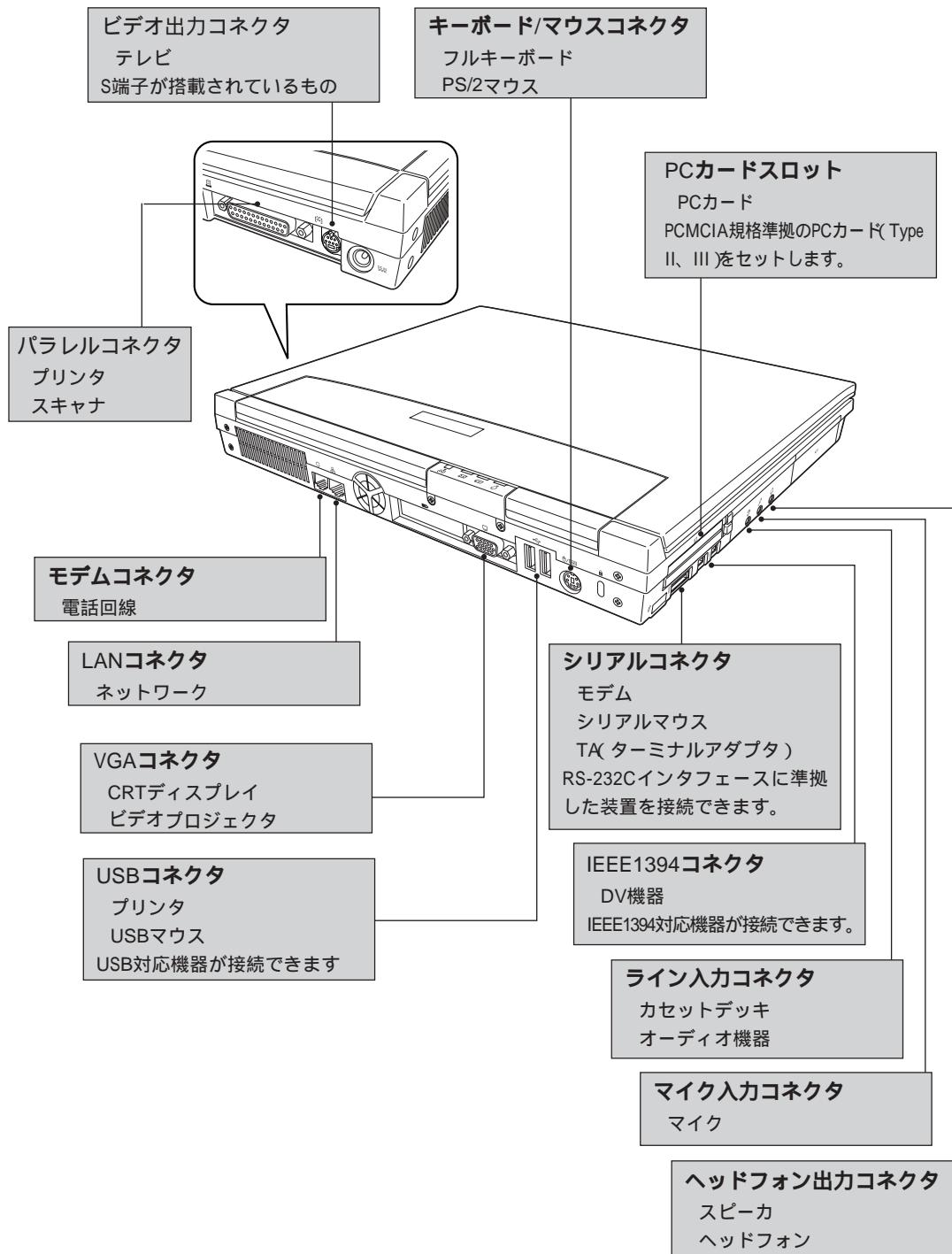
取り外したSODIMMは、静電防止袋に入れて保管してください。

固定タブ



外付け可能な周辺機器

本機には、次のような周辺機器を取り付けることができます。各コネクタへの接続方法は、本書または接続する周辺機器のマニュアルをご覧ください。



BIOSの設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSは、コンピュータの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、メインボード上にROMとして搭載されています。

BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

本書や周辺機器のマニュアルで指示があった場合

マウスを使う場合

パスワードを設定する場合

BIOSの設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。

設定値をよく確認してから変更を行ってください。「BIOS Setupユーティリティ」で変更した内容は、CMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。

このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、リセットしても消去されることはありません。



リチウム電池の寿命

「BIOS Setupユーティリティ」の内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。



設定値を変更して、動作が不安定になったり、リチウム電池の寿命で内容を保持できなくなった場合に備えて、必ず購入時の設定と変更後の設定値を記録しておいてください。

☞ p.149「BIOS Setupユーティリティの設定値」

設定を変更後に、万一動作が不安定になった場合は、「Load Setup Defaults」（初期値に戻す）または「Discard Changes」（前回保存した設定値に戻す）を実行することでもとの値に戻すことができます。

☞ p.140「設定値をもとに戻すには」

BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setupユーティリティ」の起動

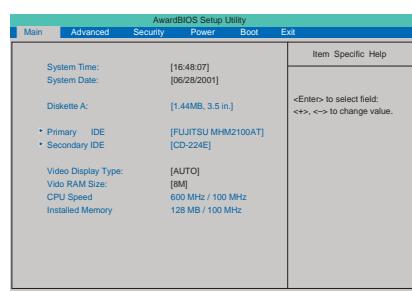
1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。

2 黒い画面の下の方に次のメッセージが表示されている間にキーボードの **F2** を押します。

Press F2 to enter SETUP
このメッセージが表示されている間に **F2** を押さないとWindowsが起動します。

Press F2 to enter SETUP

BIOS Setupユーティリティが起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



BIOS Setupユーティリティ画面(イメージ)

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **F2** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

☞ p.141「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

「BIOS Setupユーティリティ」の操作

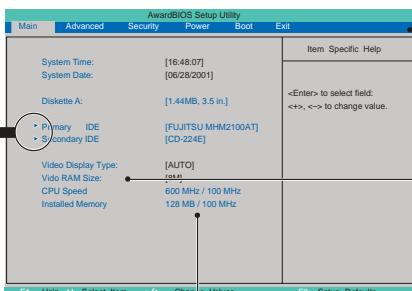
「BIOS Setupユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

操作は、次の順番で行います。

- ①「処理メニュー」を選択
- ②「設定項目」を選択
- ③「設定値」を選択

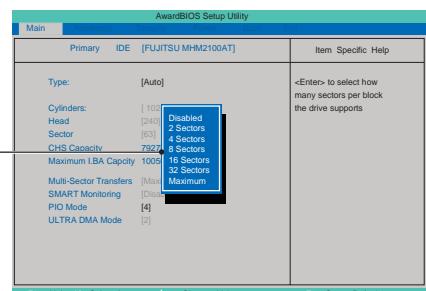
詳しい操作方法は、次のとおりです。なお、各設定項目の説明は、p.142をご覧ください。

<メニュー画面>



- ①「処理メニュー」を選択
→ ← で変更します。
起動直後は、「Main」メニュー画面が表示されています。
- ②「設定項目」を選択
↑ ↓ で変更します。
- ③「設定値」を選択
黒字表示されていると、設定変更可能です。
Fn + + / Fn + - を押すと値が変わります。
← を押すと「選択ウィンドウ」が表示されます。

<選択ウィンドウ>



選択ウィンドウ内の設定値を ↑ ↓ で変更し、← で設定します。

►マークの付いている設定項目を選択して← を押すと、「サブメニュー画面」が表示されます。

<サブメニュー画面>



「サブメニュー画面」での設定方法は、「メニュー画面」での設定方法と同様です。
Esc を押すと <メニュー画面> に戻ります。

キー操作一覧

キー	操作できる内容
[F1] , [Alt] + [H]	ヘルプを表示します。
[Esc]	「EXIT」メニュー画面を表示します。 サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
[↑] , [↓]	設定を変更する項目を選択します。
[←] , [→]	処理メニューを選択します。
[Fn] + [-] [Fn] + [+]	項目の値を変更します。
[←]	<ul style="list-style-type: none"> メニュー画面中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニューを表示します。 選択項目の選択ウィンドウを表示します。 設定値を選択します。
[F9]	全設定項目の値を初期値に戻します。
[F10]	変更した設定値を保存して終了します。
[Fn] + [Page Up]	画面の中の最初の項目に移動します。
[Fn] + [Home]	
[Fn] + [Page Down]	画面の中の最後の項目に移動します。
[Fn] + [End]	

設定値をもとに戻すには

「BIOS Setupユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一本機の動作が不安定になってしまった場合などには、「BIOS Setupユーティリティ」の設定を購入時の状態に戻すことができます。

Load Setup Defaults 「BIOS Setupユーティリティ」の設定を、BIOSの初期設定値に変更します。

Defaults

(初期値に戻す) 1

〔F9〕を押す、または「Exit」メニュー画面 - 「Load Setup Defaults」を選択すると次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Load default configuration now ?	
[Yes]	[No]

2

BIOSの設定を変更する場合は、「Yes」を選択して〔↓〕を押します。

変更しない場合は「No」を選択して〔↓〕を押します。

Discard

Changes

(前回保存した設定値に戻す) 1

「BIOS Setupユーティリティ」を終了せずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。

「Exit」メニュー画面 - 「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Load previous configuration now ?	
[Yes]	[No]

2

BIOSの設定を前回保存した値に戻す場合は、「Yes」を選択して〔↓〕を押します。

「BIOS Setupユーティリティ」の終了

「BIOS Setupユーティリティ」を終了するには、次の2通りの方法があります。

Exit Saving
Changes

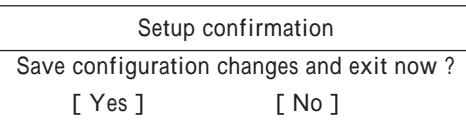
(変更した内容を
保存し、終了する)

1

「Esc」または \rightarrow \leftarrow を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。

2

「Exit Saving Changes」を選択し、 \leftarrow を押します。次のメッセージが表示されます。



3

変更した設定値を保存して終了する場合は[Yes]を選択し、 \leftarrow を押します。

Exit Discarding
Changes

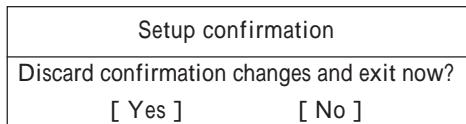
(変更した内容を
破棄し、終了する)

1

「Esc」または \rightarrow \leftarrow を押し、「Exit」メニュー画面を選択します。

2

「Exit Discarding Changes」を選択し、 \leftarrow を押します。次のメッセージが表示されます。



3

変更した設定値を保存せずに終了する場合は[Yes]を選択し、 \leftarrow を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、「BIOS Setupユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法などについて説明します。「BIOS Setupユーティリティ」のメニュー画面には、次の6つのメニューがあります。

Mainメニュー画面

Advancedメニュー画面

Securityメニュー画面

Powerメニュー画面

Bootメニュー画面

Exitメニュー画面

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、次のような内容に関する設定を行います。

日付と時刻の設定

表示装置の切替

設定項目と詳細は、次のとおりです。

は表示のみ

は初期設定値

System Time(hh:mm:ss) 時間の設定	時刻を設定します。												
System Date(mm:dd:yy) 日付の設定	日付を設定します。												
Primary Master	接続しているIDE装置の機種を表示します。表示される項目や選択できる値はIDE装置やTypeの値によって異なります。												
Secondary Master(IDE装置の設定)	<table border="1"><tbody><tr><td>Type</td><td>IDE装置の仕様を設定します。通常は「Auto」を指定します。「Auto」で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には「User Type HDD」などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD : HDDに関する仕様を個別に設定することができます。</td></tr><tr><td>Translation Method</td><td>HDDの記憶容量のモードを設定します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。</td></tr><tr><td>Cylinders</td><td>HDDのシリンド数を設定します。</td></tr><tr><td>Head</td><td>HDDのヘッド数を設定します。</td></tr><tr><td>Sector</td><td>HDDのセクタ数(1シリンド当たり)を設定します。</td></tr><tr><td>CHS Capacity</td><td>HDDの最大容量(CHS)を表示します。</td></tr></tbody></table>	Type	IDE装置の仕様を設定します。通常は「Auto」を指定します。「Auto」で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には「User Type HDD」などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD : HDDに関する仕様を個別に設定することができます。	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。	Cylinders	HDDのシリンド数を設定します。	Head	HDDのヘッド数を設定します。	Sector	HDDのセクタ数(1シリンド当たり)を設定します。	CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
Type	IDE装置の仕様を設定します。通常は「Auto」を指定します。「Auto」で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には「User Type HDD」などを選択して各項目を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 User Type HDD : HDDに関する仕様を個別に設定することができます。												
Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。												
Cylinders	HDDのシリンド数を設定します。												
Head	HDDのヘッド数を設定します。												
Sector	HDDのセクタ数(1シリンド当たり)を設定します。												
CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。												

	Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	一度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。 Disabled :複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors :転送セクタを設定します。 Maximum :HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	SMART Monitoring	初期設定[Disabled]のまま使用します。
	PIO Mode	IDE装置の転送モード(PIO)を設定します。 0, 1, 2, 3, 4 :転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA対応装置の転送モードを設定します。 0, 1, 2, 3, 4, 5 :転送モードを設定します。 Disabled :使用しません。
VGA Shared Memory Size (ビデオメモリの設定)		メインメモリの一部をビデオメモリとして使用するサイズを設定します。 8M, 16M, 32M, 64M
Installed Memory		メモリ容量を起動時に自動的に計算して表示します。
CPU Speed (CPUのスピード設定)		搭載しているCPUの周波数を自動的に表示します。

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、次のような内容に関する設定を行います。

周辺デバイス(シリアルポート、赤外線ポート、パラレルポート)のアドレス設定
タッチパッドの設定

設定項目と詳細は、次のとおりです。

I/O Device Configuration	周辺デバイスのアドレス設定を行います。 ☞「I/O Device Configuration」
Internal Pointing Device	本機のタッチパッドを使用するかどうかを設定します。 PS/2マウスを使用する場合は、[Disabled]を選択します。 Disabled :タッチパッドを使用しません。 Enabled :タッチパッドを使用します。

I/O Device Configuration

Serial Port A (シリアルポートの設定)	シリアルポート(COM1)で使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ3 Disabled :シリアルポートを使用しません。
IR Port (赤外線ポートの設定)	赤外線ポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ3 Disabled :赤外線ポートを使用しません。
Mode (赤外線ポートの通信モード設定)	赤外線ポートの通信モードを設定します。 FIR, SIR
DMA Channel (赤外線ポートのDMA設定)	赤外線ポートで使用するDMAチャネルを設定します。 1, 3
Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートで使用するI/Oアドレスと割り込み要求チャネルを設定します。 3BCH/IRQ7, 378H/IRQ7, 278H/IRQ5 Disabled :パラレルポートを使用しません。
Mode (パラレルポートの動作モードの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。本機に接続する周辺デバイスで設定指示がある場合は、指示にしたがって設定します。 Normal :標準の設定です。 EPP :EPPモードに設定します。 ECP :ECPモードに設定します。
ECP DMA select (パラレルポートのDMA設定)	パラレルポートで使用するDMAチャネルを設定します。 1, 3

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、システム起動時や「BIOS Setupユーティリティ」起動時などのパスワードに関する設定を行います。

設定項目と詳細は、次のとおりです。

パスワード機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時または「BIOS Setupユーティリティ」起動時にパスワードの入力を要求し、正しいパスワード入力が行われないとコンピュータを使用することができません。

System Password (管理者パスワードの設定)	システムパスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 [←] を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Password on boot	システム起動時に「System Password」の入力を要求するかどうかを設定します。 Disabled : 要求しません。 Enabled : 要求します。
Hard disk Password (HDDパスワードの設定)	HDDを認識するためのパスワードを設定します。「BIOS Setupユーティリティ」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。 [←] を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。

パスワードを要求するタイミングは、次のとおりです。

パスワード 項目	設定値	Password on boot の設定値	BIOS Setup ユーティリティ起動時	システム起動時
System Password	Set	Disabled		×
		Enabled		
HDD Password	Set	Disabled		
		Enabled		

: パスワード入力を要求します。 × : パスワード入力を要求しません。

パスワードの設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「System Password」または「Hard disk Password」を選択して➡を押すと、次のメッセージが表示されます。
- 2 パスワードを入力し、➡を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、➡を押します。
同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻ります。
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Set」に変わります。



登録したパスワードは、書き移して保管するなどして忘れないようにしてください。パスワードを忘れる、Windowsの起動およびBIOSの設定変更ができなくなります。
万一、パスワードを忘れた場合は、販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

パスワード の削除

1

「System Password」または、「Hard disk Password」を選択して \leftarrow を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:

2

何も入力せずに \leftarrow を押すと、選択したパスワード項目の値が「Enter」に変わります。これでパスワードが削除されます。

Powerメニュー画面

「Power」メニュー画面は、バッテリ残量のリセットを行う場合に使用します。

Start Battery Refreshing
(バッテリ放電の実行)

バッテリ放電を行う場合に実行します。

\leftarrow p.40「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムを起動するドライブの順番を設定します。コンピュータが[1....]のドライブから順番にシステムを検出して、システムが見つかったドライブから起動します。初期設定は、[1.Removable Device][2. IDE Hard Drive][3.ATAPI CD-ROM]です。

ドライブを選択して **[Fn]+[+]** を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。

ドライブを選択して **[Fn]+[-]** を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, Legacy Floppy
2. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, 接続しているHDDの型番
3. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, 接続している薄型ドライブの型番
4. Other Boot Device	ネットワーク機能から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したいときは、順番を上げます。 Disabled, INT18 Device(Network)
Onboard LAN Boot ROM	リモートブートを行う場合にEnabledに設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面は、「BIOS Setupユーティリティ」をどのように終了するかを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
Load Setup Defaults	「BIOS Setupユーティリティ」の設定値を、BIOSの初期値に戻します。
Discard Changes	「BIOS Setupユーティリティ」を終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Save Changes	変更した内容(設定値)を「BIOS Setupユーティリティ」を終了させずに保存します。

BIOS Setup ユーティリティの設定値

BIOS Setupプログラムで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定および変更した内容は必ず記録しておいてください。

Mainメニュー画面

項目	購入時の設定				変更内容			
Type								
Translation Method								
Cylinders								
Head								
Sector								
Multi-Sector Transfers								
SMART Monitoring								
PIO Mode								
ULTRA DMA Mode								
VGA Shared Memory Size	8M	16M	32M	64M	8M	16M	32M	64M

Advancedメニュー画面

Internal Pointing Device	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
--------------------------	----------	---------	----------	---------

I/O Device Configuration

Serial Port A	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ3	Disabled	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ3	Disabled
IR Port	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ3	Disabled	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3	3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ3	Disabled
Mode	FIR	SIR		FIR	SIR	
DMA Channel	1	3		1	3	
Parallel Port	3BCH/IRQ7 Disabled	378H/IRQ7 278H/IRQ5		3BCH/IRQ7 Disabled	378H/IRQ7 278H/IRQ5	
Mode	Normal	EPP	ECP	Normal	EPP	ECP
ECP DMA Select	1	3		1	3	

Bootメニュー画面

項目	購入時の設定			変更内容		
()Removable Device	Disabled	Legacy Floppy		Disabled	Legacy Floppy	
()IDE Hard Drive	Disabled	()		Disabled	()	
()ATAPI CD-ROM	Disabled	()		Disabled	()	
()Other Boot Device	Disabled	INT18 Device(Network)		Disabled	INT18 Device(Network)	
Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	

ソフトウェアの 再インストール

ソフトウェアを再インストールする
手順について説明します。

再インストールする前に必ずお読みください

ソフトウェアの再インストールを行う前に知っておいていただきたい情報について記載しています。

再インストールとは

HDDをフォーマットして、Windowsやデバイスドライバなどのソフトウェアを新しくインストールしなおす作業のことを、本書では「再インストール」と記載します。

再インストールが必要な場合

再インストールは次のような場合に行います。通常は必要ありません。

なんらかの原因でWindowsが起動しなくなった場合

HDD領域の構成を変更したい場合

重要事項

再インストールする前に、次の重要事項を必ずお読みください。

弊社製以外のBIOSに、絶対にアップデートしないでください。弊社製以外のBIOSにアップデートすると、再インストールができなくなります。

Norton AntiVirus2002で、90日経過後に更新権を購入してウィルス定義ファイルの購読サービスを継続している場合、再インストールを行うと更新権が無効になります。この場合、再度更新権を購入(有償)していただく必要があります。あらかじめご了承ください。

 p.118「コンピュータウィルスの検索・駆除」

バックアップディスクを作成していない場合は、必ず作成しておいてください。再インストールすると、バックアップディスクを作成することができなくなります。

 p.24「バックアップディスクの作成」

HDD上の重要なデータは、FDなどの別のメディアに、必ずバックアップしておいてください。再インストールするときは、HDDをフォーマットするため、Cドライブのデータはすべて消去されます。

ソフトウェアの再インストールを行う

本章では、再インストールの方法について記載しています。

必要なメディア

再インストールするには、次のメディアが必要です。

リカバリCD

Windowsが登録されています。

Windows XPは、Disc1とDisc2の2枚組になっています。

ドライバCD

各種デバイスドライバ、Adobe Acrobat Reader、Norton AntiVirus2002が登録されています。

B's Recorder GOLD/B's CLiP CD-ROM

(CD-R/RW ドライブモデル、コンボドライブモデル)

CD-R/RW ドライブ のライティングソフトウェアが登録されています。

WinDVD CD-ROM(コンボドライブモデル)

DVD VIDEO再生ソフトウェアが登録されています。

Syphomovie CD-ROM

ビデオ編集ソフトウェア(Syphomovie)が登録されています。

バックアップFD作成ユーティリティで作成したFD

Windowsのセットアップ終了後に作成したFDです。作成していない場合は、必ず作成してください。

☞ p.24「バックアップディスクの作成」

そのほか必要なメディア

お使いのシステム構成によって必要なメディアは異なります。

インストールの順番

再インストールは、次の順番で行います。

Windowsのインストール (☞ p.157)

HDD領域の変更は、Windowsのインストール中に行います。

デバイスドライバのインストール (☞ p.164)

LCDの設定 (☞ p.165)

Adobe Acrobat Readerのインストール (☞ p.168)

Norton AntiVirus2002のインストール (☞ p.168)

そのほかの作業 (☞ p.169)

B's Recorder GOLDのインストール
(☞『B's Recorder GOLD クイックガイド』)

(CD-R/RW ドライブモデル、コンボドライブモデルのみ)
『B's Recorder GOLD クイックガイド』(pdf)は「B's Recorder GOLD/B's CLIP CD-ROM」に登録されています。次の方法で見ることができます。

([スタート]-「マイコンピュータ」でCD-ROMアイコンを右クリックして「開く」-「BsGOLD5」-「DOC」-「Quick」

WinDVDのインストール
(☞『WinDVD ユーザーズマニュアル』)

(コンボドライブモデルのみ)

Syphomovieのインストール
(☞『Syphomovie ユーザーズマニュアル』)

Windows 2000で音楽CD再生機能を使用する場合もSyphomovieのインストールが必要です。

(☞ p.89「音楽CD再生機能」)

インストール作業における確認事項

再インストールを始める前に、下記の点をご確認ください。

システム構成

本章のインストール手順は、購入時のシステム構成を前提にしています。インストールは、BIOSの設定とシステム構成を購入時の状態に戻して行うことをおすすめします。

HDDのファイルシステム

購入時のHDDは、NTFSを使用して領域を作成し、Windowsをインストールしています。Windowsのインストールは、必ずNTFSを使用してください。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。
薄型ドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

A ドライブ:FDD

C ドライブ:HDD

D ドライブ:薄型ドライブ(CD-ROM ドライブまたはCD-R/RW ドライブ、コンボドライブ)

本章の説明では、本機に装着されているドライブを「薄型ドライブ」として記載しています。「薄型ドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

入力文字

インストール手順中の入力文字の表記は、すべて大文字で記載していますが、入力する際は大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

管理者権限でログイン

デバイスドライバのインストール作業は、「コンピュータの管理者(Administrator)」権限でログインして行ってください。

Windows CD-ROMを要求されたら

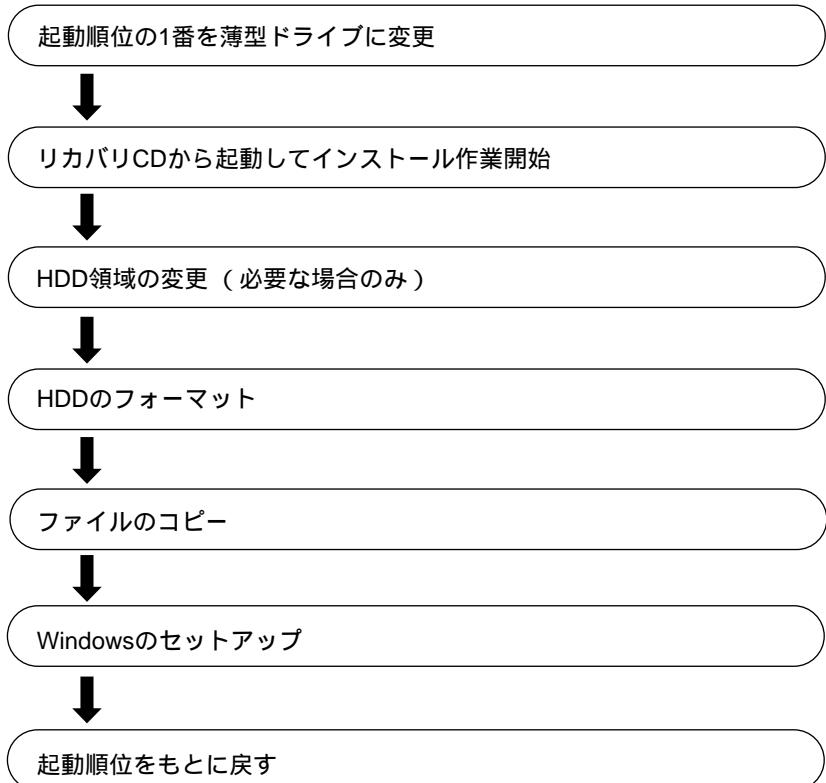
デバイスドライバ類のインストール時に「Windows CD-ROM」を要求されることがあります。本書でなにも記載がない場合は、リカバリCD(Windows XPではリカバリCD Disc1)をセットしてください。

メーカー情報	Windowsのインストールを行うと、次の場所に表示されているメーカー名とサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。 Windows 2000 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「システムのプロパティ」 Windows XP : [スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「システムのプロパティ」
各種設定の確認	ネットワークやモデム、インターネットなど使用している場合は、Windowsをインストールすると、再設定が必要になります。設定を書き移しておいてください。

Windowsのインストール

インストールの流れ

Windowsのインストールの主な流れは次のとおりです。
インストール作業は、次ページからの手順に従ってください。



HDD領域の変更

HDDを分割して使用したい場合は、「Windowsのインストール」作業中にHDD領域の変更を行います。Windowsをインストールする領域は、作業中にフォーマット、インストールを行いますが、残りの領域(未設定領域)はインストール終了後にWindowsの「ディスクの管理」で設定します。

☞ p.169「領域の作成」

Windows 2000 Windows 2000のインストールは、次の手順で行います。

インストール

モデルの場合

1

BIOS Setup ユーティリティを起動して、薄型ドライブの起動順位を1番に変更します。

- ① コンピュータの電源を入れて、[F2]を押し、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。
☞ p.137「BIOS Setup ユーティリティの起動」
- ② メニュー画面が表示されたら、[→]を数回押して、「Boot」メニュー画面を表示します。
- ③ 「ATAPI CD-ROM」を選択して、[Fn] + [+]を数回押して「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。

2

「リカバリCD」を薄型ドライブにセットします。

3

BIOS Setupユーティリティを終了します。

- ① [→]を押して、「Exit」メニュー画面に移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で[←]を押します。
- ② 「Setup Confirmation」画面が表示されたら、「Yes」が選択されている状態で[←]を押します。

4

起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順5の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。

5

「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。

通常は「C:」を選択して、[←]を押します。

HDD領域を変更する場合は[D]([削除])を押して、下記の手順①～⑥を行います。

<HDD領域を変更する場合>

- ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、[←]を押します。
- ② 「 M B ディスク × × から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら[L]を押します。

- ③ 「次のの一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、**C** (パーティションの作成)を押します。
- ④ 「MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、**↓**を押します。
- ⑤ 「次のの一覧には、このコンピュータ上の…」と表示されたら、「C：新規(未フォーマット)」を選択して**↓**を押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
- ☞ p.169「領域の作成」
- ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して**↓**を押します。
手順10に移ります。
- 6 「別のオペレーティングシステムがあるパーティションに…」と表示された場合は、**C**を押します。
- 7 「…にWindows 2000をインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択し、**↓**を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。
- 8 「警告:このドライブをフォーマットすると…」と表示されたら、**F**を押します。
- 9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。
- 10 「ライセンス契約」と表示されたら、契約内容に同意するかしないかを設定します。
「同意しません」を選択するとWindows 2000のインストールが中止されます。

- 11 「Windows 2000 Professionalセットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。
- ソフトウェアの個人用設定
 - ここでは「名前」を必ず入力してください。
 - コンピュータ名とAdministratorのパスワード
 - コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
 - 日付と時刻の設定
 - コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- 12 「Windowsへログオン」画面が表示されます。設定したAdministratorのパスワードを入力します。
- 手順11でパスワードを設定しなかった場合は、そのまま[OK]をクリックします。
- 13 Windows 2000のデスクトップが表示されたら、CD-ROMを取り出して、コンピュータを再起動します。
- 14 コンピュータの再起動時に[F2]を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。
- 15 「Boot」メニュー画面を表示して、手順1で変更した「ATAPI CD-ROM」の起動順位をもとに戻します。
- 16 「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」で「Yes」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。
- コンピュータが再起動したら、Windows 2000のインストールは終了です。

Windows XP
インストール
モデルの場合

Windows XPのインストールは、次の手順で行います。

- 1 BIOS Setup ユーティリティを起動して、薄型ドライブの起動順位を1番に変更します。
 - ① コンピュータの電源を入れて、**F2**を押し、「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。

 p137「BIOS Setup ユーティリティの起動」
 - ② メニュー画面が表示されたら、**→**を数回押して、「Boot」メニュー画面を表示します。
 - ③ 「ATAPI CD-ROM」を選択して、**Fn** + **+**を数回押して「ATAPI CD-ROM」を一番上に移動します。
- 2 「リカバリCD Disc1」を薄型ドライブにセットします。
- 3 BIOS Setupユーティリティを終了します。
 - ① **→**を押して、「Exit」メニュー画面に移動し、「Exit Saving Changes」が選択されている状態で**↓**を押します。
 - ② 「Setup Confirmation」画面が表示されたら、「Yes」が選択されている状態で**↓**を押します。
- 4 起動時に「Press any key to boot from CD.」と表示されたら、どれかキーを押します。手順5の画面が表示されるまで少し時間がかかります。一定時間内にキーを押さないと、HDD内のWindowsが起動してしまいます。
- 5 「次の一覧にはこのコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。…」と表示されます。

通常は「C:」を選択して、**↓**を押します。

HDD領域を変更する場合は**D**(削除)を押して、下記の手順①～⑥を行います。

<HDD領域を変更する場合>

 - ① 「削除しようとしたパーティションは…」と表示されたら、**↓**を押します。
 - ② 「 MB ディスク × × から次のパーティションを削除します。…」と表示されたら**L**を押します。

- ③ 「次の一覧にはこのコンピュータ上の...」と表示されたら、**C** (パーティションの作成)を押します。
- ④ 「...MBディスク××に新しいパーティションを作成します。」と表示されたら、「作成するパーティションのサイズ」に任意の数値を入力して、**↓**を押します。
- ⑤ 「次の一覧にはコンピュータ上の...」と表示されたら、「C : パーティション(未フォーマット)」を選択して**↓**を押します。
「未設定領域」はインストール終了後「管理ツール」で領域の作成を行ってください。
- ☞ p.169「領域の作成」
- ⑥ 「選択されたパーティションはフォーマットされていません。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」を選択して**↓**を押します。
手順9に移ります。
- 6 「別のオペレーティングシステムのあるパーティションに...」と表示された場合は、**C**を押します。
- 7 「...にWindows XPをインストールします。」と表示されたら、「NTFSファイルシステムを使用してパーティションをフォーマット」が選択して**↓**を押します。
「現在のファイルシステムをそのまま使用(変更なし)」を選択すると、上書きインストールになります。
- 8 「警告:このドライブをフォーマットすると...」と表示されたら、**F**を押します。
- 9 フォーマットと、ファイルのコピーが行われます。終了すると、自動的にコンピュータが再起動します。
- 10 「Windows XP ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows XPのインストールが中止されます。

- 11 「Windows XP セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従って設定を行います。
- ソフトウェアの個人用設定
 ここでは「名前」を必ず入力してください。
 コンピュータ名(Windows XP Home Edition)または
 コンピュータ名とAdministratorのパスワード
 (Windows XP Professional)
 コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
 日付と時刻の設定
 コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
 ワークグループまたはドメイン名(Windows XP Professional)
 ネットワーク管理者の指示に従って必要事項を入力します。
- 12 再起動後に「ディスプレイの設定」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。
- 13 「モニタの設定」画面が表示された場合は、[OK]をクリックします。
- 14 「Microsoft Windowsへようこそ」と表示されたら、画面右下の[?]をクリックします。
- 15 インターネット接続に関する画面が表示されたら、画面右下にある[□](省略)をクリックします。
- 16 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか?」と表示されたら、「いいえ、今回はユーザー登録しません。」にチェックを付けて[?]をクリックします。
- 17 「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」と表示されたら、ユーザー名を入力して[?]をクリックします。
- 18 「設定が完了しました」と表示されたら、[?]をクリックします。
- 19 Windows XPのデスクトップ画面が表示されたら、Windowsを再起動します。
- 20 コンピュータの再起動時に「BIOS Setupユーティリティ」を起動し、手順1で変更した「ATAPI CD-ROM」の起動順位をもとに戻します。

21 「Exit」メニュー画面 - 「Exit Saving Changes」で「Yes」を選択し、「BIOS Setupユーティリティ」を終了します。

22 コンピュータが起動したらWindows XPのインストールは終了です。

デバイスドライバのインストール

本機のメインボード上に搭載しているデバイスのドライバを一括してインストールします。

インストール手順は次のとおりです。

- 1 「ドライバCD」を薄型ドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「一括インストール」を選択して[開始]をクリックします。
- 3 「ご注意」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。
- 4 表示されたドライバを確認して[インストール開始]をクリックします。
インストールするドライバが自動的に検出されます。
- 5 「確認」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。
各ドライバが自動的にインストールされます。インストールには数分かかります。
- 6 「インストールの完了」画面が表示されます。内容をよくお読みになり[OK]をクリックします。
- 7 「Windowsの再起動」画面が表示されたら[はい]をクリックします。

- 8 Windowsが再起動します。Windows 2000インストールモデルの場合はこれでデバイスドライバのインストールは終了です。
- 9 Windows XPインストールモデルの場合は、以降の手順が必要です。
Windows 2000インストールモデルの場合は必要ありません。
- 10 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
D:\DOTNETFX\SETUP.EXE (薄型ドライブがDドライブの場合)
- 11 「セットアップ」画面で[今すぐインストール]をクリックします。
- 12 インストール終了後に[今すぐ再起動]をクリックします。
Windows XPが再起動するとデバイスドライバのインストールは終了です。

LCDの設定

本機で使用しているLCDの種類を設定します。

Windows 2000 Windows 2000で本機のLCDを設定する方法は、次のとおりです。
の場合

- 1 [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「画面」をダブルクリックします。
- 2 「設定」タブ-[詳細]-「モニタ」タブをクリックします。
- 3 「プロパティ」をクリックします。
- 4 「ドライバ」タブ-[ドライバの更新]をクリックします。
- 5 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面で[次へ]をクリックします。

- 6 「このデバイスの既知のドライバを表示して…」にチェックを付けて[次へ]をクリックします。
- 7 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」にチェックを付けます。
- 8 一覧から次のディスプレイを選択して[次へ]をクリックします。
製造元:「標準モニタの種類」
モデル:「Digital Flat Panel(1024 × 768)」
- 9 「次のハードウェアデバイスのドライバをインストールします。」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 10 「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されます。[完了]をクリックします。
- 11 「Digital Flat Panel(1024 × 768)のプロパティ」画面で、[閉じる]をクリックします。
- 12 「モニタ」タブの画面で[OK]をクリックします。
- 13 「画面のプロパティ」画面で[OK]をクリックします。これでLCDの設定は終了です。
必要に応じて、「画面のプロパティ」画面で、解像度と表示色の変更を行ってください。
購入時の設定は、次のとおりです。
解像度: 1024 × 768
表示色: HighColor(16 ピット)
 p.84 「解像度や表示色を変更するには」

Windows XPの
場合

Windows XPで本機のLCDを設定する方法は、次のとおりです。

- 1 [スタート]-「コントロールパネル」-「デスクトップの表示とテーマ」-「画面解像度を変更する」をクリックします。
- 2 [詳細設定]-「モニタ」タブ-[プロパティ]をクリックします。
- 3 「ドライバ」タブ-[ドライバの更新]をクリックします。
- 4 「ハードウェアの更新ウィザードの開始」画面で「一覧または特定の場所から...」を選択して[次へ]をクリックします。
- 5 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択して[次へ]をクリックします。
- 6 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外します。
- 7 一覧から次のディスプレイを選択して[次へ]をクリックします。
製造元:「標準モニタの種類」
モデル:「Digital Flat Panel(1024×768)」
- 8 「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 「Digital Flat Panel(1024×768)のプロパティ」画面で、[閉じる]をクリックします。
- 10 「モニタ」タブの画面で[OK]をクリックします。
- 11 「画面のプロパティ」画面で[OK]をクリックします。これでLCDの設定は終了です。
必要に応じて、「画面のプロパティ」画面で解像度と表示色の変更を行ってください。
購入時の設定は、次のとおりです。
解像度: 1024×768
表示色: 中(32ビット)
☞ p.84「解像度や表示色を変更するには」

Adobe Acrobat Readerのインストール

Adobe Acrobat Readerのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「ドライバCD」を薄型ドライブにセットします。正しくセットされると自動的に「ドライバソフトウェアのインストール」画面が表示されます。
表示されない場合は、「マイコンピュータ」-「EPSON_CD」をダブルクリックします。
- 2 表示された項目から「Adobe Acrobat Readerのインストール」を選択して[開始]をクリックします。
- 3 「Acrobat Readerのセットアップ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「インストール先の選択」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「情報」画面が表示されたら、[OK]をクリックします。これでAdobe Acrobat Readerのインストールは終了です。

Norton AntiVirus2002のインストール

Norton AntiVirus2002をインストールします。

 p.120「コンピュータウィルスの検索・駆除」

そのほかの作業

領域の作成

Windowsのインストール中にHDD領域を変更した場合、未設定領域は、そのままでは使用できません。Windowsの「ディスクの管理」を使用して、領域の作成を行います。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windowsの「ディスクの管理」は、次の場所にあります。

Windows 2000 :[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「管理ツール」-「コンピュータの管理*」

Windows XP :[スタート]-「コントロールパネル」-「パフォーマンスとメンテナンス」-「管理ツール」-「コンピュータの管理*」

* 画面左側の「記憶域」の下にあります。

ユーザーズ

マニュアルのPDFファイルをインストールします。

マニュアルのインストール

- 1 「マニュアルディスク 1」をFDDにセットします。
- 2 [スタート] -「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して[OK]をクリックします。
A:¥SETUP
- 4 以降は画面の指示に従います。
セットアップが終了するとデスクトップ上に「ユーザーズマニュアル」アイコンが表示されます。

マイク録音時の設定

内蔵マイクを使用して録音をする場合は、録音音質の設定が必要です。購入時はあらかじめ設定されています。Windows再インストール時は、次の設定を行ってください。

- 1 次の方法で、「サウンドとマルチメディアのプロパティ」(Windows XPの場合は、「サウンドとオーディオのプロパティ」)を開きます。
Windows 2000の場合 : [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「サウンドとマルチメディア」をダブルクリックします。
Windows XPの場合 : [スタート]-「コントロールパネル」-「サウンド、音声およびオーディオデバイス」-「システム音量を調整する」をクリックします。
- 2 「オーディオ」タブを開きます。
- 3 「録音」項目の「音量」をクリックします。
- 4 「オプション」メニュー-「トーン調整」をクリックします。
- 5 「Microphone」項目の「トーン」をクリックします。
- 6 「1 Microphone Boost」にチェックを付けます。
これで、マイク録音時の設定は終了です。

SBSIのインストール (Windows XPの場合)

Windows XPの使い方の詳細がデスクトップ上でいつでも見られるように、「ステップバイステップインタラクティブ(SBSI)」をインストールします。
インストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD Disc2」を薄型ドライブにセットします。
- 2 [スタート]-「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 3 「名前」に次のとおり入力して、[OK]をクリックします。
D:\\$SBSI\\$SETUP\\$SETUP
- 4 「ようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。

- 5 「製品ライセンス契約」画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
- 6 「Microsoft インタラクティブトレーニング」画面が表示されたら、「名前」と「会社名」を入力して[次へ]をクリックします。
- 7 「この登録情報は正しいですか？」と表示されたら、入力した「名前」と「会社名」を確認して[はい]をクリックします。
- 8 「セットアップが完了しました。・・・」と表示されたら、[完了]をクリックします。
- 9 「Readme」ファイルが表示されます。内容を確認してから右上にある をクリックします。
- 10 Windows を再起動します。Windows が再起動したら、ステップバイステップ インタラクティブのインストールは終了です。

各種ドライバの インストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティ、アプリケーションなどのインストールが必要です。インストールは、バックアップFD作成ユーティリティで作成したFDや、あらかじめオプション類に添付されていたメディアを使用して行います。詳しくは、本機でお使いになるオプション類に添付のマニュアルをご覧ください。



インストールが必要なドライバの例

お使いになるシステム構成によって、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

USB対応機器を使用する場合

: USB機器に添付のドライバ

プリンタを使用する場合

: プリンタに添付のドライバ

こんなときは

困ったときの確認事項と対処方法について説明します。

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。



ホームページのサポート情報について

弊社ホームページには、お客様からよく寄せられる質問や技術情報などを掲載しています。本章とあわせてご覧ください。アドレスは『サポートサービスのご案内』または『サポートと保守サービスのご案内』をご覧ください。

コンピュータ本体の不具合



電源を切ってから入れ直す場合には、電源を入れるときに電気回路に与える電気的な負荷を減らし、HDDなどの動作を安定させるために、20秒程度の間隔を開けてください。

現象

起動時に電源ランプが点灯しない。

確認と対処

バッテリだけでコンピュータを使用している場合は、バッテリが完全放電している可能性があります。ACアダプタを接続してください。

電源コードが正しく接続されているか確認します。

p.12「ハードウェアをセットアップしましょう」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 起動時に画面に警告メッセージが表示される、または起動しない。

確認と対処 現象が発生する前に周辺機器の増設やアプリケーションのインストールを行った場合には、それらが原因となっている可能性があります。周辺機器の取り外しやアプリケーションの削除をして、現象の発生する前の状態に戻してください。

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には、次のメッセージが表示されることがあります。

Press F1 to continue, F2 to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **F2** を押して「BIOS Setupユーティリティ」を起動します。通常はそのまま「Exit Saving Changes」を実行して終了します。

☞ p.141「BIOS Setupユーティリティの終了」

F1 を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

起動時の自己診断テスト終了後(Windowsの起動中)に警告メッセージが表示されている場合には、Windowsが正常に動作していない可能性があります。警告メッセージの内容をメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

起動時に警告メッセージが表示される場合には、警告メッセージを確認してください。起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。問題が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまで連絡ください。

☞ p.193「警告メッセージが表示されたら」

BIOSの設定が正常でない可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」で設定値を初期値に戻してください。

☞ p.140「設定値をもとに戻すには」

ビープ音が鳴って起動中に止まってしまう場合は、起動時の自己診断テストにて異常が発見されています。音の種類、音の長さなどをメモして、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 起動時に次のようなパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。

Enter Password:

HDD Password:

確認と対処 「BIOS Setupユーティリティ」でパスワードが設定されています。正しいパスワードを入力してください。

☞ p.145「Securityメニュー画面」

パスワードを正しく入力しているか確認します。[Num Lock]の状態により一部のキーが数値キーとして働きます。

☞ p.50「数値キーの使い方」

パスワードを忘れてしまった場合には、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。

現象 起動時に次のようなメッセージが表示されて、Windowsが起動しない。

- Operating System not found
- DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
- Invalid system disk Replace the disk, and then press any key

確認と対処 システムが登録されていないFDがFDDにセットしてある場合は、FDを抜いてどれかキーを押してください。

現象 ハングアップしてしまい、何も反応しない。

確認と対処 [Ctrl]+[Alt]+[Delete]を押してリセットします。

リセットしても反応がない場合には、電源スイッチを5秒以上おさえてください。これで電源が切れます。

☞ p.31「リセット」

現象 「BIOS Setupユーティリティ」の情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。

確認と対処 本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

省電力機能に関する不具合

現象 正しく省電力モードに移行できない。または省電力モードから復帰できない。

確認と対処 使用しているアプリケーションや常駐ソフト、増設している周辺機器の影響により省電力機能が正常に働かない可能性があります。アプリケーションの削除や常駐ソフトの解除、周辺機器の一時的な取り外しを行い、省電力機能が正常に働くか確認してください。

バッテリ残量が少なくなり、休止状態に入った場合は、ACアダプタを接続してから復帰させてみてください。

省電力モードから復帰できない場合は、**Ctrl** + **Alt** + **Delete**を押してコンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存のデータは、すべて消失します。

省電力モード移行中にPCカードを抜き差しすると、正しく復帰できません。**Ctrl** + **Alt** + **Delete**を押して、コンピュータを再起動してください。ただし、省電力モード移行前に作成した未保存データは、すべて消失します。

バッテリパック使用時の不具合

現象 充電されない。

確認と対処 バッテリパックが正しく装着されているか確認します。

充電時にバッテリ充電LEDが橙色に点灯しているか確認します。点灯していない場合は、電源コンセントに電源が供給されているかを確認します。ほかの電気製品を電源コンセントに接続してみます。

電源コンセントに問題がない場合は、ACアダプタまたは本機に問題があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。バッテリ残量のリセットを行ってください。

 p.40「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

現象 すぐにバッテリが終ってしまう。バッテリでの使用時間が短い。

確認と対処 バッテリ残量を正しく認識していない可能性があります。バッテリ残量のリセットを行ってください。

 p.40「バッテリ残量が正しく表示されないときは」

バッテリが寿命に達したと考えられます。新しいバッテリと交換してください。なお、使用済みのバッテリは、所定の方法でリサイクルしてください。

 p.43「使用済みバッテリの取り扱い」

キー ボードの不具合

現象	どのキーを押しても応答がない。
確認と対処	アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
	タッチパッドを操作してください。タッチパッドで操作できる場合もあります。
	プログラムがハングアップしている可能性もあります。しばらく待っても反応がない場合は、リセットしてください。

 p.31「リセット」

現象	キートップにある文字や記号が入力できない。
確認と対処	日本語キーボードドライバの特性によりキートップに印字されている一部の文字は入力できません。
	 p.49「日本語を入力するには」
	Windows上でキーボードが正常に設定されていない可能性があります。次のキーボードが選択されていることを[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「キーボード」-「ハードウェア」タブをクリックして確認します。

101/102英語キーボードまたはMicrosoft Natural PS/2キーボード

タッチパッドの不具合

現象	ポインタの動きが悪い。
確認と対処	手が濡れていたり、湿気を帯びていたりしていないか確認してください。
	LCDユニットを長時間閉じたままにしていた場合や、使用環境により湿度や温度の急激な変化があった場合に正常に動作しなくなることがあります。一度電源を切って入れ直してください。
	タッチパッドユーティリティを起動し、ポインタの動作の設定を変更してみてください。

 p.46「タッチパッドユーティリティを使う」

LCDの不具合

現象 LCD画面に何も表示されない。

確認と対処 画面の明るさを調節してください。[Fn]+[F5]/[Fn]+[F6]で調節できます。

 p.77「表示装置を使う」

現象 LCD画面が真っ暗で何も表示されない。

確認と対処 バックライトが消灯していないか確認します。[Fn]+[F7]を押してみてください。

表示装置の設定がLCD画面を表示する設定になっていない可能性があります。[Fn]+[F8]を押して、表示装置の設定を変更してみてください。

 p.51「Fnキーと組み合わせて使うキー」

省電力モードになっている可能性があります。キーボードを操作してください。

 p.110「省電力機能を使う」

コンピュータの電源を切ってから20秒以内に電源を入れると、システム管理機能が電源を異常と判断する場合があります。一度電源を切って、20秒以上待ってから電源を入れてみてください。

起動時の自己診断テストにて異常が発見されました。ビープ音が鳴った場合は、音の種類、音の長さなどを確認した上で、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 画面がちらつく。

確認と対処 LCD画面が明るくなったり、暗くなったりしてちらつく場合には、「BIOS Setupユーティリティ」画面でも同様の現象が発生するか確認してみてください。「BIOS Setupユーティリティ」画面でも同様の現象が発生する場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象 画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処 ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。セーフモードで、起動し直してみてください。

Windows 2000をセーフモードで起動する

Windows 2000をセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows 2000を基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、約20秒間放置したあとに電源を入れます。
- 2 画面下に、次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に[F8]を押します。押さない場合は通常モードでWindowsが起動します。
Windows 2000の問題解決と拡張オプションについてはF8を押してください。
- 3 「Windows 2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、[↓]を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

Windows XPをセーフモードで起動する

Windows XPをセーフモードで起動する方法は、次のとおりです。セーフモードは、Windows XPを基本的な設定で起動するモードです。

- 1 コンピュータの電源を切り、約20秒間放置した後、電源を入れます。
- 2 電源を入れた直後に、[F8]を押し、そのまま離さずにしばらく押し続けます。
- 3 「Windows拡張オプションメニュー」が表示されたら、「セーフモード」を選択し、[↓]を押します。
以降は画面の指示にしたがってください。

FDDの不具合

現象 FDに正常にアクセスできない。

確認と対処 次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

ディスクの挿入

A: ドライブにディスクを挿入してください。

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされているのか、または、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。

今すぐフォーマットしますか？

[はい]

[いいえ]

使用しているFDが、本機で使用できるフォーマット形式でフォーマットされているか確認してください。本機では、1.25MBフォーマットのFDは使用できません。

別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、FDに異常があることが考えられます。

別のFDでも読み書きできない場合には、「BIOS Setupユーティリティ」のFDDに関する項目がすべて初期値となっているか確認してください。

現象	FDに書き込みできない。
確認と対処	<p>ライトプロテクトされていないか確認します。</p> <p> p.56「ライトプロテクト(書き込み禁止)」</p>
現象	FDDから異常な音がする。
確認と対処	販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象	それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。
確認と対処	<p>HDDに問題が発生している可能性があります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行してHDDの設定を確認してください。</p> <p> p.142「Mainメニュー画面」</p>
現象	特定のファイルのみ読み書きできなくなった。
確認と対処	<p>ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。</p> <p>上記の処置を行ってもこの現象が頻繁に発生する場合は、必要なファイルのバックアップを取ってから、リカバリを実行してみてください。リカバリを実行しても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。</p>

現象	HDDからWindowsが起動しない。
確認と対処	<p>起動するHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。</p> <p> p.148「Bootメニュー画面」</p>

CD-ROM ドライブの不具合

現象	セットしたCDにアクセスできない。
確認と対処	<p>CD-ROMなどのメディアを挿入した直後、アクセスLED点灯中は読み込み準備のためアクセスできません。この場合はアクセスLEDの消灯を待って、もう一度アクセスしてください。</p> <p>CD-ROMなどのメディアの表面に傷などがないか確認してください。</p> <p>別のCD-ROM(データが登録されているもの)にアクセスできるか確認してください。問題がない場合は、アクセスできないCD-ROMメディアに問題がある可能性があります。</p> <p>CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windowsには音楽CDなどを再生するソフトウェアとして「Windows Media Player」が標準で添付されています。</p> <p>セットしたCDが、書き込み済みのCD-RメディアまたはCD-RWメディアの場合、CD-ROMドライブとの相性によりアクセスできない可能性があります。</p>
現象	CDをセットすると画面が開いてしまう。
確認と対処	セットしたCDに自動再生機能があると、自動的に画面が開きます。CDに登録されている内容を見たい場合は、[キャンセル]や×をクリックして、画面を閉じてから「マイコンピュータ」のCD-ROMドライブを右クリックして、[開く]を選択します。
現象	音楽用CDの音が聞こえない。
確認と対処	<p>スピーカの音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。</p> <p> p.87「サウンド機能を使う」</p>

CD-R/RW ドライブの不具合

p.184「CD-ROM ドライブの不具合」もあわせてご覧ください。

メディアの書き込みに関する不具合については、『B's Recorder GOLD ユーザーズマニュアル』を参照してください。「B's CLiP」をお使いの場合は『B's CLiP ユーザーズマニュアル』もあわせてご覧ください。

これらのマニュアルは、次の方法で見ることができます。

- ・[スタート]-「(すべての)プログラム」-「B.H.A」-「B's Recorder GOLD5」
- ・[スタート]-「(すべての)プログラム」-「B.H.A」-「B's CLiP」

現象

セットしたメディアに書き込みができない。

確認と対処

CD-R/RW ドライブで書き込み機能を使用する場合は、専用のライティングソフトウェアが必要です。購入時には、『B's Recorder GOLD』がインストールされています。

メディアのフォーマット形式が本機に対応していない可能性があります。本機で扱えるフォーマット形式を確認してください。

□ p.61「CD-R/RW ドライブを使う」

□ 『B's Recorder GOLD ユーザーズマニュアル』

Windows XP で『B's CLiP』をお使いの場合、次の設定を行ってみてください。[スタート]-「マイコンピュータ」でCD-R/RW ドライブを右クリックして、「プロパティ」-「書き込み」タブ -「このドライブでCD 書き込みを有効にする」のチェックを外してみてください。

現象

書き込み中に書き込みエラーが発生する。

確認と対処

Windows が省電力モードに切り替わると、CD-R メディアまたはCD-RW メディアへのデータ転送エラーが起き、書き込みに失敗する場合があります。書き込みを始める前に省電力機能を無効にしてください。

□ p.62「メディア書き込み時の注意」

本機対応のメディアを使用しているかどうか確認してください。

□ p.63「適応フォーマット」

メディアの残量があるか確認してください。

ヘッドレンズの汚れによって書き込みができない場合があります。

本機との相性によって、セットしたCD-R メディアまたはCD-RW メディアに書き込めない場合があります。

現象	セットしたメディアが取り出せない。
確認と対処	「B's CLiP」をインストールしてお使いの場合、「B's CLiP」でフォーマットされたメディアは、イジェクトボタンを押しても取り出すことができません。メディアの取り出し方法については『B's CLiPユーザーズマニュアル』をご覧ください。

コンボドライブの不具合

p.184「CD-ROMドライブの不具合」、p.185「CD-R/RWドライブの不具合」もあわせてご覧ください。

また、DVD VIDEO再生に関する不具合は、添付の『WinDVDユーザーズマニュアル』をご覧ください。

現象	セットしたメディアを再生できない。
確認と対処	DVD VIDEOを再生する場合は、専用の再生ソフトウェアが必要です。本機には「WinDVD」が購入時にインストールされています。

■ アプリケーションソフトの不具合

現象 アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処 過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやホコリ、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象 アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処 アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDやCD-ROMなどから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。

アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処 起動時のメモリチェックやWindows上ではメモリ容量が正しく表示されないことがあります。「BIOS Setupユーティリティ」を実行し、「Main」メニュー画面 - 「Installed Memory」でメモリ容量を確認してください。

 p.138「BIOS Setupユーティリティの操作」

本機は、メインメモリの一部をビデオメモリとして使用します。メモリ容量の表示は、ビデオメモリ容量を差し引いて表示されます。

SODIMMを増設または交換した場合、SODIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

PCカードの不具合

現象 PCカードを装着しても、使用できない。

確認と対処 PCカードの仕様に対応しているPCカードスロットに正しく装着され、認識されているか確認してください。

 p.68「PCカードを使う」

PCカードを使用するために必要なドライバやアプリケーションソフトがインストールされているか確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

外部機器を追加するためにPCカードを装着した場合、外部機器とPCカードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。詳しくは、PCカードに添付のマニュアルをご覧ください。

■ インストール時の不具合

現象

インストールがマニュアルどおりにできない。

確認と対処

本書では、インストール手順中の薄型ドライブのドライブレターを「D:」と記載しています。薄型ドライブのドライブレターは、HDD領域の数によって変わります。薄型ドライブのドライブレターは[スタート]-「マイコンピュータ」で確認することができます。

インストール方法に関する最新情報を記載した紙類が添付されている場合があります。梱包品を確認してみてください。

■ FAXモデムの不具合

現象

「モデムが検出されませんでした。」とエラーメッセージが表示され、インターネットに接続できない。

確認と対処

「モデムのプロパティ」で[詳細情報]または[モデムの照会]を実行してみてください。モデムに問題がある場合は、エラーメッセージが表示されます。

- Windows 2000の場合

[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「診断」タブの[モデムの照会]をクリックします。

- Windows XPの場合

[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「診断」タブの[モデムの照会]をクリックします。

現象	インターネットへ接続できない
確認と対処	<p>モジュラケーブルが、モデムコネクタに接続されているかを確認します。</p> <p>次の場所で電話番号や、設定を再確認します。また、国番号と市外局番や、トーンとパルスの設定も確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2000の場合 <p>[スタート]-「設定」-「ネットワークとダイヤルアップ接続」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows XPの場合 <p>[スタート]-「接続」-「接続(任意の名前)」-[プロパティ]-[ダイヤル情報]をクリックします。</p> <p>次の方法でダイヤルの設定を変更してみてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2000の場合 <p>[スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「全般」タブ-「ダイヤルの管理」項目-「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows XPの場合 <p>[スタート]-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[プロパティ]-「モデム」タブ-「ダイヤルの管理」項目-「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックを外します。</p> <p>ユーザー名や、パスワードが間違っている可能性があります。次の点を確認して入力してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全角の文字を使用していないか。全角文字は使用できません。 大文字と小文字をきちんと区別しているか。 数字とアルファベットを間違えていないか。数字の0とアルファベットのOなど。 ユーザー名とメールアドレスを混同していないか。 パスワードとメールパスワードを混同していないか。

ネームサーバーのIPアドレスを入力した場合は設定が正しいか確認します。正しくない場合は修正します。

次の手順でネームサーバーのIPアドレスを確認します。

・ Windows 2000の場合

- ① [スタート]-「設定」-「コントロールパネル」-「ネットワークとダイヤルアップ」-「接続(任意の名前)」アイコンを右クリックして「プロパティ」を選択します。
- ② 「ネットワーク」タブ-「インターネットプロトコル」を選択して「プロパティ」でDNSサーバーのアドレスを確認します。

・ Windows XPの場合

- ① [スタート]-「接続」-「接続(任意の名前)」-[「プロパティ」]をクリックします。
- ② 「ネットワーク」タブ-「インターネットプロトコル(TCP/IP)」-[「プロパティ」]でDNSサーバーのアドレスを確認します。

原因不明で接続できない場合は、インターネット接続ウィザードを再実行してみます。これで接続できることもあります。

同じ市内に複数のアクセスポイントがある場合は、プロバイダの電話番号を変更してみます。接続してもすぐに切れたり、プロトコルが確立できないときは、これで接続できことがあります。

次の理由で接続できないことがあります。時間をおいて接続してみてください。

- ・ 極端に混雑していると、アクセスを拒否されることがある。
- ・ 極端に混雑していると、接続はするがタイムアウトしてしまう。
- ・ プロバイダのサーバが停止している。

現象

V.90、K56flex通信方式で通信できない。

確認と対処

回線状況によって、V.90、K56flex通信方式で接続できない場合があります。V.90、K56flex通信方式は、お使いになっている最寄りの電話局の交換機から相手側(プロバイダなど)までの電話回線の通信経路がすべてデジタル化されており、デジタルからアナログへの交換機切り替えがこの通信経路で1度だけ行われる場合にのみ、ご利用が可能になります。V.90、K56flex通信方式のほかにはV.34通信方式(33600bps以下)で接続する×2方式がありますが、お使いのプロバイダによってはご利用できない場合があります。

現象 V.90、K56flex、V.34 通信方式で通信中に、通信速度が下がる。

確認と対処 V.90、K56flex、V.34 通信方式では、安定して確実な通信を行うために、モデル機能が回線状況によって自動的に調整を行い、通信速度を下げて接続する場合があります。

■ プリンタの不具合

現象 印刷できない。

確認と対処 プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。

プリンタの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法については、プリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

■ 内蔵スピーカの不具合

現象 システムは正常に動作しているのに音がしない。

確認と対処 内蔵スピーカの音声出力音量が小さくなっている可能性があります。ボリュームを調節してください。

 p.87「サウンド機能を使う」

内蔵スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明と対処法
System CMOS checksum bad - configuration used	CMOS RAMのデータが壊れているか、不正な値が設定されています。BIOS Setupユーティリティを起動して値を再設定してください。
Diskette drive A error	FDDが正しく接続されていないか、FDDが故障している可能性があります。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Failure Fixed Disk	HDDが動作していないか、正しく認識されていません。HDDが正しく装着されているかを確認し、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。
Keyboard error	キーボードにエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Keyboard controller Failed	キーボードコントローラにエラーが発生しました。外付けキーボードが正しく接続されているか確認し、電源を入れ直します。
Operating system not found	オペレーティングシステムが見つかりません。HDDから起動する場合は、BIOS Setupユーティリティを起動してHDDが正しく認識されているか確認します。FDDから起動する場合は、挿入したFDがシステムディスクではない可能性があります。
System RAM Failed at offset	システムRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Shadow RAM Failed at offset	シャドウRAMのオフセットアドレスでエラーが発生しました。電源を入れ直し、システムを再起動してください。
Extended RAM Failed at address line	拡張メモリに不具合があるか、正しく認識されていません。BIOS Setupユーティリティを起動してメモリを再検出します。
Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の自己診断テストでのエラーがそのままです。セットアップには前回の値を使用するため、値が不正確な場合、このまま起動しても再度エラーになります。BIOS Setupユーティリティを起動して設定値を確認します。間違いがあれば訂正します。
System cache error - Cache disabled	キャッシュメモリにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
System timer error	システムタイマーでエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
Real time clock error	内蔵クロックにエラーが発生しました。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付 錄

お手入れ方法や仕様などについて説明
しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体 コンピュータ本体の外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤をしつたらない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

LCD画面

LCD画面は乾いた布やティッシュペーパーなどで拭いてください。水や洗剤などは使わないでください。

リチウム電池の交換

「BIOS Setupユーティリティ」で設定した情報は、本体内部のリチウム電池によって保持されています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。

販売店、サービスセンターまたは修理センターへご連絡ください。

ATコマンドの使用

ATコマンドについて

コンピュータからFAXモデム機能に対してさまざまなコマンドを送り、モデムの動作を制御することができます。本モデムには、モデム制御コマンドに「ATコマンド」を採用しています。

本機で使えるATコマンドの一覧(ATコマンドリファレンス)は、「ドライバCD」の「MODEM」-「ATコマンドリファレンス.pdf」をご覧ください。

ATコマンドの使用

通信ソフトウェア(Internet ExplorerやOutlook Expressなど)でモデムを動作させる場合は、通常コマンドを使用する必要はありません。しかし、「モデムのプロパティ」画面の「追加設定」にATコマンドを入力することで、不具合を解消したり、初期的な設定を行うことができます。

次のような現象の場合は、「追加設定」の欄にコマンドを入力してみてください。

「追加設定」は、次の場所にあります。

Windows 2000の場合

「スタート」-「設定」-「コントロールパネル」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[「プロパティ」]-「詳細」タブの「追加設定」

Windows XPの場合

「スタート」-「コントロールパネル」-「プリンタとその他のハードウェア」-「電話とモデムのオプション」-「モデム」タブ-[「プロパティ」]-「詳細」タブの「追加設定」

現象	ATコマンド
ダイヤル音やネゴシエーション音を消したい。	「ATM0」
ダイヤル音やネゴシエーション音を小さくしたい。	「ATL0」
「トーンが検出できません」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「ATX3」
モデムの設定を購入時の状態にする。	「AT&F」
ダイヤル回線(パルスダイヤル)でダイヤルする。	「ATP」
プッシュ回線(トーンダイヤル)でダイヤルする。	「ATT」
「互換性のあるネットワークプロトコルを処理できない」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	「AT+MS=V34」(V.34) または 「AT+MS=V90」(V.90)
接続が不安定(10回に3回しかつながらない/途中で切断されてしまう)	「AT+MS=K56flex」 (K56flex) 使用したい通信方式に応じて設定。
パスワード認証のあと、「接続が確立できませんでした。」などのエラーメッセージが表示されインターネットに接続できない。	

複数のコマンドを入力したいときは、2番目以降のコマンドのATは付けずに連続して入力します。例えば、「ATM0」と「ATX3」を入力する場合は、「ATM0X3」と入力します。

機能仕様一覧

		モバイルAMD Athlon XPプロセッサ	
CPU	キャッシュメモリ	128KB	
	セカンドキャッシュ	256KB	
メモリ	ROM	AWARD BIOS	
	メインメモリ	SODIMM(133MHz、SDRAM)を使用して、 最大1GBまで増設可能(SODIMMソケット×2)	
ビデオ	コントローラ	SiS730S AGP set Integrated 2D/3D graphics	
	バス	AGPバス	
画面表示	ビデオメモリ	メインメモリより最大64MBを使用(初期値:16MB)	
	液晶タイプ	14.1TFT XGAカラー液晶 1024×768ドット、True Color(32ビット)	
サウンド	外部ディスプレイ接続	1280×1024ドット、True Color(32ビット)/ 1600×1200ドット、High Color(16ビット)	
	コントローラ	SiS730S Integrated AC'97	
キーボード	バス	PCIバス	
	ポインティングデバイス	OADG準拠87キー(Windowsキー付き)、インスタントキー、音楽CD再生キー タッチパッド(スクロールボタン付き)	
記憶装置	FDD	3.5型FDD1基内蔵	
	HDD	2.5型IDE HDD1基内蔵	
	薄型ドライブ装置	CD-ROMドライブモデル : CD-ROMドライブを1基内蔵	
		CD-R/RWドライブモデル : CD-R/RWドライブを1基内蔵	
		コンボドライブモデル : コンボドライブを1基内蔵	
インターフェース	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPPサポート)	
	シリアルインタフェース	1(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)変換ケーブル使用	
	VGAインタフェース	1(アナログRGB ミニD-SUB 15ピン)	
	キーボード/マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)	
	サウンドインターフェース	ステレオスピーカ、モノラルマイク内蔵 ライン入力コネクタ×1、ヘッドフォン出力コネクタ×1、マイク入力コネクタ×1	
	IrDA	IrDA1.1準拠 FIR(最大4Mbps)SIR(115.2Kbps)	
	USB	2	
	IEEE1394	2(4ピン)	
	モデムインターフェース	FAXモdem* ² (RJ-11 V.90/K56flex対応)	
	LANインターフェース	ネットワーク(RJ-45 10Base-T/100Base-TX自動確認)	
	TV出力	1(S端子)	
PCカードスロット		2スロット内蔵 TypeII ×2またはTypeIII ×1 PC Card Standard準拠CardBus対応)	
カレンダ時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)	
電源	ACアダプタ	入力AC100V ~ 240V ± 10V*** (50/60Hz) 出力DC 19V、3.42A 重量240g	
	バッテリパック	容量 6000mAh Li-ion 11.1V	
		動作時間 JEITAバッテリ動作時間測定法 約3.5時間 当社独自の測定法 約2.5時間(満充電の場合)	
温湿度条件		温度:10 ~ 35 湿度:20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)	
外形寸法		本体:約310(幅)× 262(奥行)× 43(高さ)mm(突起部除く)	
重量		本体:約3.2kg(バッテリ装着時)	
消費電力	定格消費電力	76.5WAC	
	待機時消費電力	1.9WAC	

* グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現しています。

** 認定番号ラベルはコンピュータの背面に貼付されています。

*** 標準添付されている電源コードはAC100V用(日本仕様)です。本製品は国内専用ですので海外でお使いの場合は保証対象外となります。

用語集

本書で使用している用語で、本文中で説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に解説します。詳細については市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略です。コンピュータの電力の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略です。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもので、コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

使用例 BIOSの設定を行ってください。

= BIOS Setupユーティリティを起動して設定を変更してください。

類義語 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラムです。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

Boot(ブート)

コンピュータの電源を入れてコンピュータを使用できる状態にすること。起動するとも言います。

CPU

Central Processing Unitの略です。コンピュータ処理の中心を担う頭脳のようなものです。

DRAM(ディーラム)

メモリの種類です。Dynamic Random Access Memoryの略です。

コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。

HDD領域

HDDの容量を用途に合わせて確保したスペースのことで、パーティションとも呼びます。HDD1台にHDD領域は複数作成することができ、それぞれドライブとして利用できます。

I/Oポート

CPUとデバイスの間でデータのやりとりをするポートです。

IDE

Integrated Device Electronicsの略です。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インターフェース)を定めた規格の一種です。HDDだけではなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

使用例 IDEインターフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略です。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号です。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

コンピュータには、ハードウェア割り込みを発生させる周辺機器が複数あるので、各機器からの割り込みを区別するために、識別番号が付いています。IRQ番号は、この識別番号のことです。IRQ0～IRQ15の16種類が用意されています。

使用例 サウンドボードではIRQ7を使用します。

ISDN

NTTが提供する高速デジタル回線のことです。普通の電話回線よりもデータを高速で送信できるので、コンピュータ間のデータ送受信などに多く使用されています。また、ISDNを導入することにより、一本で二回線分を使用することができます。

MIDI

演奏データをやり取りするためのインターフェース、または規格のことです。現在では、多くの電子楽器がMIDI規格の端子を装備しています。

NTFS

NTFSは、FATファイルシステムに比べて信頼性が高く、セキュリティに優れています。障害が発生したファイルの構造を復旧したり、ユーザーやグループごとにアクセス権を設定することができます。

OS

Operating Systemの略です。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのことです。WindowsやMS-DOSなどのことです。

RAM(Random Access Memory)

RAMには、DRAMとSRAMの2種類のデータ保存方式があります。どちらも自由に読み書きができるメモリですが、一度電源を切るとデータは消えてしまいます。主に、DRAMはメインメモリに、SRAMはキャッシュメモリに使われています。

ROM(Read Only Memory)

読み出し専用のメモリで、電源を切ってもデータを保持し続けます。BIOSなど重要なデータは、あらかじめROMに格納されています。

RS232C

シリアルインターフェースとして採用されている規格のことです。外付けモデムやTA(ターミナルアダプタ)などの周辺機器とコンピュータとの間で、データをやり取りするときに用いられています。

SDRAM

DRAMの一種で、アクセスが早いのが特長です。最近では、DRAMの代わりにSDRAMがメインメモリに使用されることが多くなっています。

SODIMM

Small Outline Dual Inline Memory Moduleの略です。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、ノートコンピュータのメモリを拡張することができます。

TA(ターミナルアダプタ)

コンピュータ、モデム、電話機やFAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDN回線に接続するためのアダプタのことです。

URL

Uniform Resource Locatorの略です。インターネット上の情報資源(文書や画像など)の場所を示す記述方式で、インターネットのアドレスのことを言います。

USB

Universal Serial Busの略です。比較的低速な機器をシリアル通信で接続するための規格です。USB対応のキーボードやマウス、ジョイスティックなどを接続して使用します。

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能です。DOS/V機の基本的な表示機能です。

アカウント

ネットワーク上で利用者を識別するための名前(記号や番号)のことです。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。=HDDのデータを読み書きする。

アクセスポイント

インターネットに接続するために、プロバイダが用意している電話番号のことです。

アクセスLED

HDDやCD-ROMドライブにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスLED

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算などのようにユーザーが作業目的に応じて使うソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

使用例 サウンドドライバをインストールします。

インターフェース

コンピュータと周辺機器の間でデータを入出力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

使用例 IDEインターフェース、インターフェースコネクタ、インターフェースケーブル

オフライン

コンピュータがネットワークとつながっていない状態のことです。オンラインの反対語として用いられています。

オンライン

他のコンピュータとつながっている状態や、電話回線でインターネットに接続している状態などのことです。オンライン・ショッピングなどの表現で、幅広く用いられています。

解像度

画面表示の細かさのことです。

使用例 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。

類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

使用例 マウスカーソル

起動する

コンピュータの電源を入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。ソフトウェアなどを実行して使用できるようにすることも「ソフトウェアを起動する」と言います。

類義語 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

サーバ

ネットワークで結ばれたコンピュータに、さまざまなサービスを提供するコンピュータのことです。一般に、サーバと結ばれたコンピュータのことを「クライアント」と呼びます。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のこととを示します。

使用例 システムを起動する = コンピュータの電源を入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ダイヤルアップ接続

モ뎀を用い、電話回線を通じて離れた場所にある別のコンピュータに接続することです。主に、インターネットを利用するためのプロバイダに接続することを言います。

ダウンロード

遠隔地のコンピュータのデータなどを通信回線を利用して、手元のコンピュータに転送することです。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ディザリング

複数の画素を組み合わせて、1つの画素とみなすことにより、人間に中間色のように見せかける方法のことです。

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度 = 画面上に 1024×768個の点を表示することができます。

内部キャッシュ

CPUから周辺チップへのアクセスを減らし、高速処理するためにCPU内部に設けられたキャッシュメモリのことです。演算用のデータなどを格納しておき、CPU内部で高速処理を行えるようにします。

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のことです。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、ISAバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になります。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のことです。CPUの発熱量は大きいため、熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)があります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

ブラウザ

インターネットに接続したときに、ホームページを見るためのソフトウェアで、米ネットエスケープ・コミュニケーションズ社の「NetScape」や、米マイクロソフト社の「Internet Explorer」などがあります。これらのソフトウェアでホームページを見ることを「ブラウジング」と言います。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)ことです。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。拡張カードや周辺機器などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能のことです。

この機能により、従来拡張ボード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

類義語 ソフトウェア、アプリケーションソフト

プロトコル

ネットワークで接続されたコンピュータ同士が、通信を行うための「手段」や「規格」のことです。一般的に使用されるネットワークプロトコルは、TCP/IP、NetBEUI、AppleTalkなどです。

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインターフェース回路全般のことです。

ボリュームラベル

HDDやFDDに付けた名称のことです。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのこと。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メインメモリの容量のことを示します。

使用例 本機のメモリ容量(=メインメモリ)は128MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。ほとんどの製品はFAX機能が付加されています。

リソース

拡張ボードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語です。

類義語 システム資源

ログオン

コンピュータシステムにアクセス可能な状態になることです。ログオン時には、ユーザーIDとパスワードの入力が求められます。「ログオン」とは逆に、コンピュータシステムの利用を終えて、接続を切り離すことを「ログオフ」と言います。

類義語 ログイン / ログアウト

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

索引

英数字

2HD(FDD)	53
2DD(FDD)	53
3.5型FDD	10

A

ACアダプタコネクタ	10
ACアダプタの接続	15
ACアダプタの使用	34
Adobe Acrobat Reader	5
~のインストール	168
AMD PowerNow!	116
ATコマンド	198

B

BIOS Setupユーティリティ	136
設定項目	142

C

CapsLock	50
CapsLock LED	8
CardBus	68
CD-ROM	58
CD-ROMイジェクトホール	10
CD-ROMイジェクトボタン	10
CD-ROM ドライブ	58
~の不具合	184
CD-R/RW ドライブ	61
~の不具合	185
COAラベル	3

F

FAXモデム	90
~の不具合	189
インターネットに接続する	92

FD (フロッピーディスク)

53

FDD (フロッピーディスクドライブ)

53

 ~の不具合

182

FDDイジェクトボタン

10

FIR

73

Fnキー

51

H

HDD (ハードディスクドライブ)

57

 ~領域の変更

169

 ~の不具合

183

I

IEEE1394コネクタ

9, 126

Internet Explorer

105

IrDA

73

ISDN

93

L

LANコネクタ

11

LCD

7

 LCD画面のお手入れ

196

 LCDの設定

165

 LCDユニット

77

 LCDの不具合

180

M

MS-IME

49

N

NIC

124

Norton AntiVirus2002

118

 ~のインストール

120

NTFS

57

NumLock

50

NumLock LED

8

O

Outlook Express 107

P

Passwordの設定 146

PBX 90

PCカード 68

~の不具合 188

PCカードスロット 9

PCカードイJECTボタン 9

PowerNow! 116

S

SBSIのインストール 170

Scroll Lock LED 8

SIR 73

SODIMM(メモリ) 129

~の不具合 188

Syphomovie 126

S端子 83

U

URL 105

USBコネクタ 11, 125

V

VGAコネクタ 11, 79

W

Windows

~のインストール 157

~のセットアップ 20

Windowsキー 51

50音順

あ

アイコン (11), (12)

アウトロックエクスプレス 102

アクセスLED 8

アドレス帳 108

アプリケーションソフトの不具合 187

い

インスタントキー 7

インストール 152

インストール時の不具合 189

インターネットに接続 92

インターネットエクスプローラ 102

う

ウィルス 118

ウィルス定義ファイル 119

薄型ドライブ 10

え

液晶ディスプレイ 77

お

オーディオ機器の接続 88

お手入れ 196

音楽CD再生キー 7

音楽CD再生機能 89

か

解像度の変更 84

拡張 128

き	
キー ボード	48
~ コネクタ	11
~ の不具合	179
起動方法 (Windows)	19
起動時の不具合	174
機能キー	48
機能仕様一覧	199
休止状態	112
強制取り出し(CD-ROM)	60
く	
クリック	45
クリックボタン	7
け	
警告メッセージ	193
ケンジントンロック	11
こ	
コンピュータウイルス	118
コンボドライブ	64
~ の不具合	186
さ	
再インストール	152
サウンド機能	87
サポート情報	174
し	
システムの拡張	127
仕様	199
充電	39
省電力機能	110
~ に関する不具合	179
す	
シリアルコネクタ	9, 125
シングルモード	80
せ	
数値キー	50
スクロールボタン	7
スタンバイ	111
ステレオスピーカ	7
~ の不具合	192
そ	
赤外線通信	73
赤外線通信ポート	9
設置	12
セキュリティーロックスロット	11
セットアップ	20
セーフモード	181
た	
増設	128
外付けディスプレイ	79
外付けキー ボード	52
ソフトウェアの再インストール	152
ち	
ダイヤルアップ接続	95
タスクバー	(11), (12)
タッチパッド	44
~ の不具合	179
タブ	(11), (12)

つ

通信モード 73

て

ディスクの管理 171

ディスプレイ 77

~の接続(外付け) 79

~の不具合(LCD) 180

デスクトップ (11), (12)

デバイスドライバのインストール 164

テレビ 83

電源スイッチ 8

電源の入れ方 17

電源の切り方 30

電源LED 8

電子メール 102

添付ソフトウェア 5

電話回線への接続 14

な

内蔵ステレオスピーカ 7

内蔵マイク 7

に

日本語入力システム 49

日本語入力モード 49

入力キー 48

ね

ネットワーク 124

~に接続する 15

ネットワークコネクタ 11

は

ハードディスクドライブ(HDD) 57

~の不具合 183

パスワード 146

バックアップディスクの作成 24

バックライト 77

バッテリ充電LED 8

バッテリパック 34

~の装着 13

~の交換 41

~の不具合 178

パラレルコネクタ 10, 124

ハングアップ 30

ひ

ビデオ出力ジャック 10

ビデオ編集 126

表示色の変更 84

表示装置 77

ふ

フォーマット(FD) 55

復帰(省電力機能) 115

プリンタの不具合 192

フロッピーディスクドライブ(FDD) 53

~の不具合 182

フロッピーディスク(FD) 53

プロバイダ 92

へ

ヘッドフォン出力コネクタ 9, 88

変換ケーブル 9, 125

ほ

ボタン (11), (12)

ボリューム調整ダイヤル 10

ま

マイク	7
マイク入力コネクタ	9, 88
マイク録音時の設定	170
マウス	47
マウスコネクタ	11
マルチモニターモード	82

み

ミラーモード	80
--------	----

め

メールLED	8
メールの送受信	107
メールユーティリティ	109
メモリ (SODIMM)	129
~の不具合	188

も

文字を入力するには	49
モデル	90
~の不具合	189
モデルコネクタ	11

ら

ライトプロテクト (FD)	56
ライン入力コネクタ	9, 88

り

リカバリ CD	153
リセット	30
リセットホール	11, 32
リチウム電池	197

ろ

ローバッテリ省電力機能	111
ローマ字入力	49
ワイヤレスリンク	76

Memo

使用限定について

本製品は、OA機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器、24時間稼動システムなどの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電、汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

Macrovision著作権保護技術について（コンポドライブモデル）

本製品が採用しているMacrovision著作権保護技術は、Macrovision Corporationおよびその他が所有する知的財産権や米国特許によって保護されています。

この技術の使用にはMacrovision Corporationの認可が必要です。また、Macrovision Corporationの許可なしに、家庭内や限られた範囲での視聴目的以外に使用することはできません。リバースエンジニアリングや、分解は禁止されています。

* Macrovision著作権保護技術とは、DVDなどの映像コピー防止に関する技術です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容および製品の仕様について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしましたが、万一誤り・お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願ひいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかるわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AMD、AMD Athlon、ならびにその組合せ、AMD PowerNow!は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

PS/2はInternational Business Machinesの登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirus、LiveUpdateはSymantec Corporationの登録商標です。

Adobe、Acrobat、およびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporatedの商標(地域によっては登録商標)です。そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。



エプソン販売 株式会社



PRINTED WITH
SOY INK

大豆油インキを使用しています。



このユーザーズマニュアルは古紙配合率100%再生紙を使用しています。



C77227000 02.10.10.15(SO)